

御池岳の霧氷（鈴鹿）

小林 実

日通旅行の海外ハイキング・ウォーキングツアー！

日韓親善 済州島ウォーキング大会

I V V公認 スリーデーマーチ 日本側参加者募集！

2002年サッカーW杯日韓共催を契機に交流が進む日韓両国。その一環として韓国唯一のリゾートアイランド 済州島にて初めてウォーキングイベントが開催されます。風光明媚な済州島のウォーキングコースを現地の人々と交流を図りながら、一緒に歩きましょう！

- 開催日時：平成11年3月26日(金)～3月28日(日) 旅行代金 **89,000円**
- 日程 1日目/午前、開空より空路済州島へ。着後、済州市街地ウォーク(約15km) (大人お一人様2名1室利用代金)
夜、ホテルにて地元主催の民族舞踊などを披露する、歓迎パーティー開催。 企画主催 済州観光協会
- 2日目/済州島西部部(高山里-松島山-山頂山)ウォーク(約30km又は15km) 後 探 毎日新聞社、韓国観光公社
- 3日目/中スリゾート(団地南辺)ウォーク(15km) 夜、空路帰国の途へ。 協 力 大韓航空
- 食事条件 2朝食、2昼食、1夕食(初日歓迎パーティー時) 旅行主催：日本通運(株)旅行事業部
- 利用予定ホテル 済州グランドホテルクラス(デラックスクラス)

タイ航空で行く 羨望のヒマラヤ カトマンズ・ポカラ 5日間

- ～ 壮大なヒマラヤの峰を仰ぐ、神秘的大地で自然と融れ合う～
- 日程 1日目/深夜、開空より空路バンコク経由でカトマンズへ。着後、市内観光。
 - 2日目/空路、ポカラへ。着後ポカラ市内観光。3日目/早朝、サラコットの丘へハイキング。ヒマラヤの壮大な山々(アンナプルナやマチャプチャレ)やポカラの町並を眺めます。午後、空路カトマンズへ。スペシャル民族舞踊鑑賞の夕食。
 - 4日目/出発まで自由行動。午後、空路帰国の途へ。5日目/午前、開空機。
 - 食事条件 朝3回、昼2回、夕食3回
 - 利用予定ホテル カトマンズ/アンナプルナ、ポカラ/ニュークリスタル(スーパークラス) [デラックスホテル利用はお問い合わせください]
- | 出発日/旅行代金 ※最少催行人員15名 | |
|---------------------|----------|
| 1/21・28 | 124,800円 |
| 2/4・18・25 | 128,000円 |
| 3/4・11 | 131,000円 |
| 3/18・25 | 134,000円 |
| 一人部屋追加代金 | 20,000円 |
- ※要員 同約1名分が現地係員が保証いたします。

ニュージーランドトレッキングモニターツアー

① ミルフォード・トラックとマウントクック 10日間 <中級者向>

- 「世界一美しい散歩道」ミルフォード・トラックを、同然色豊かなトレッカーたちと1日4名限定のコース。大韓航空利用
- 日程 1日目/開空より空路クライストチャーチへ。2日目/国内線でクィーンズタウンへ。テ・アナウのホテルにてトレッキングのガイダンスを行います。3日目～9日目/ミルフォード・トラックを歩きます。7日目/ミルフォードサウンド・クルーズの後、クィーンズタウンへ。8日目/クライストチャーチへ。9日目/空路帰国の途へ。10日目/開空到着後解散。
 - 食事条件 朝7・昼5・夕5回付き ・利用予定ホテル テ・アナウ/セントラ、クライストチャーチ/グランド・チヤンセローまたは同等クラス
- | 出発日/旅行代金 ※最少催行人員6名 | |
|--------------------|----------|
| 1/17・24 | 284,000円 |
| 2/7・14・21・3/7・14 | 289,000円 |
| 一人部屋追加代金 | 12,000円 |
- ※要員 同約1名分が現地係員が保証いたします。

② サザンアルプス パノラマハイキング 8日間 <初級者向>

- 日程 1日目/開空より空路クライストチャーチへ。2日目/国内線でクィーンズタウンへ。テ・アナウのホテルにてトレッキングのガイダンスを行います。3日目/マナポウリ・ハイキング。4日目/キー・サミット・ハイキング。5日目/ミルフォードサウンド・クルーズ。6日目/マウントクックへ。フッカー・米洞ハイキング。7日目/クライストチャーチより空路帰国の途へ。8日目/開空到着後解散。
 - 食事条件 朝5・昼4回付き ・利用予定ホテル テ・アナウ/セントラ、クィーンズタウン/ライオンホテルまたは同等クラス
- | 出発日/旅行代金 ※最少催行人員6名 | |
|--------------------|----------|
| 1/18 | 249,000円 |
| 2/8・15・3/9・23 | 259,000円 |
| 一人部屋追加代金 | 35,000円 |
- ※要員 同約1名分が現地係員が保証いたします。

詳しくはパンフレットをお読みください。

お問い合わせ お申し込みは

TEL 075-213-2525 FAX 075-213-2533
日本通運(株)京都旅行支店 担当 末永・森
京都市中京区六角通与九条橋 WESTIN 4F

旅行主催
日通旅行 NIPPON EXPADIG
NIPPON EXPRESS



節分万灯籠（春日大社）

元朝の空の色
 藍と茜とが東天に融け合い
 匂い合っってその中に新春の気が
 ほのぼのと感じられる
 新しき年を迎えて
 過ぎ去った年を振り返り
 二十一世紀の未来像をさぐる
 松風のかすかな音が心にとまる
 一富士 二薬 三茄子
 朱塗りの柱と緑の連子窓が
 釣灯笼の光でほんのりと
 浮かび上がる
 静謐な空気が漂う
 静けさ やすらぎ 素朴 神秘
 春が忽然と姿をあらわした



流れ雲（法隆寺付近）

Photo essay

睦月空

題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収一
 文 松 永 恵一



元旦の黎明（東師寺）

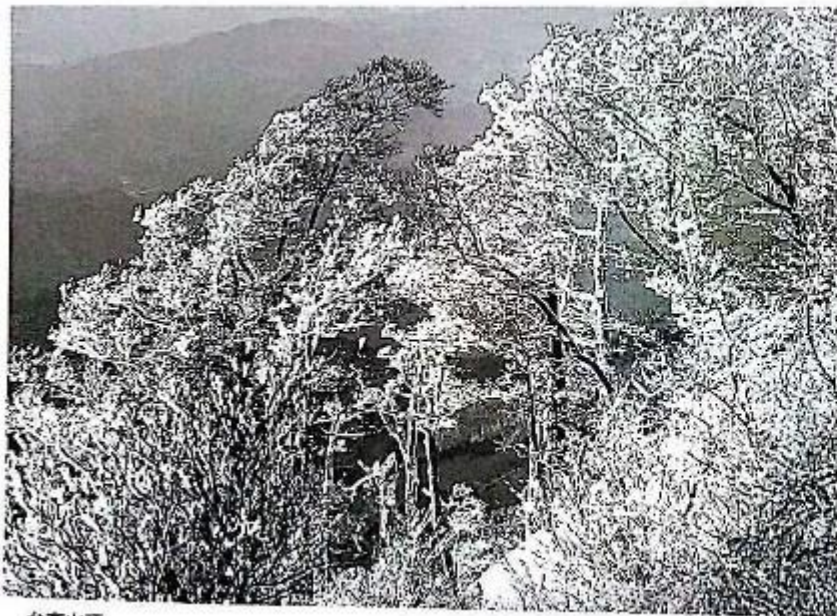
季節の



ネコヤナギ



梅林 (西宮野村)



台高山頂

実景

撮影 武市通治

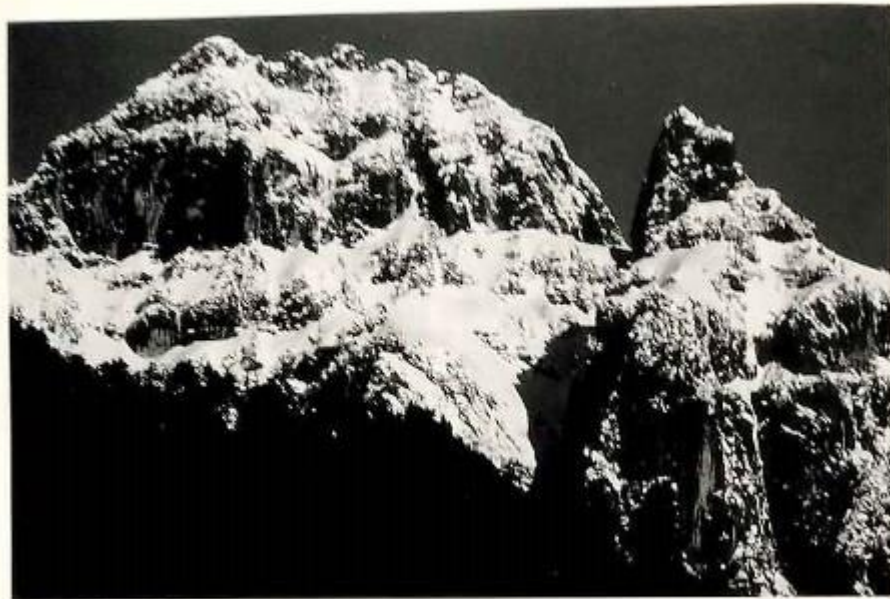
新春



霜の朝



台高遠望



中尾より錫杖岳（北アルプス）

吉沢 栄一



太尾の長池（鈴鹿）

小林 実



千石平より西穂高岳（北アルプス）

吉沢 栄一



霧氷の霊仙山経塚山（鈴鹿）

岩野 明

冬の金剛山三景

奥田 美一郎



伏見峠への道



参道を行く



山頂雪景 (伏見峠付近より)

新刊 別冊 関西の山
昭和44年1・2月 第44号

●目次

表紙：松田敏男「深沢ノ頭より冬の甲斐駒ヶ岳を望む」(関アルプス)
●特別プロファイル ●44年、京都市生まれ、京都府立芸術大学卒、1967年より山岳映画、山岳の歴史を撮影。(京都平野西區、関アルプス149の小屋、東京キナプリール一書、他) 京都市と野山、新刊文芸春秋、日本山岳協会、一等三角測量員、元三井物産株式会社

沿線ハイキングガイド	72	新ハイ關西山行計画と趣旨	79
サービステーション	73	バス時刻表と乗車	94
せせらぎ	74	編集後記・応答集	96

コース ガイド	距離	所要時間	難易度	備考	掲載
① 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	藤次郎	60
② 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	吉村	62
③ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	山形	64
④ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	流之	68
⑤ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑥ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	西条	68
⑦ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑧ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑨ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑩ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑪ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑫ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑬ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑭ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑮ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑯ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑰ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑱ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑲ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
⑳ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉑ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉒ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉓ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉔ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉕ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉖ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉗ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉘ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉙ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉚ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉛ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉜ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉝ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉞ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㉟ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊱ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊲ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊳ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊴ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊵ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊶ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊷ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊸ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊹ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊺ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊻ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊼ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊽ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊾ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68
㊿ 關西山(丹波)	11.0	3.5	★	栗田	68

新しい年、今年も元気でハイキングを楽しみましょう。

以前、滋賀県の伊吹山で11月以上の積雪を記録したことがあるそうです。うそのような話ですが本当のことです。その年から日本は14年目に大雪に見舞われ、「二八寒害」(昭和元年)と云ふ言葉が(昭和元年)とかの記録があります。今年はその14年目の年に当たり、大雪が心配されています。近年の暖冬傾向から一気に厳しい冬になりそうです。

そういうことになれば、この冬は登山でも思いきり雪山が楽しめそうです。引き締まった雪山にランゼンをかきかき木林のなかを歩くのは楽しいものです。また水々には氷凍の花が咲いて目を笑ませてくださいました。

新ハイ關西山では冬山登山は練習して行くことができませんが、京都市北山や鈴鹿などの雪山歩きを計画しています。

雪山を楽しむには、時期を気にしないで歩ける種類の軽いシューズを立てることが大切です。まずトレースのあるビブウェーな雪山シューズを履いてから、新当の山や平生はブッシュで歩けない区限歩に挑戦してみよう。

新ハイ關西山(丹波) 村田 賢哉



若山牧水と富士山

内田 嘉弘

幾山河越えさきり行かば寂しさの
終てなむ国ぞ今日も旅ゆく

この歌の石碑は沼津の千本松原の松林の中にある。牧水は昭和三年に没するまでの半生をこの千本松原で送ったことから、没後六十年日にこの歌碑の近くに沼津市若山牧水記念館が建てられた。

九州日向生まれの牧水は、延岡中学で校友会誌や東京発行の「中学文学」に短歌を投稿。早稲田大学では北原白秋と出会い、回覧雑誌「北斗」を発行している。大学卒業後、中央新聞社に半年勤めたが、その後は給与を買っての生活はしていない。明治四十五年、二十八歳の時、嘉志子と結婚。大正六年、歌集

「白梅集」を嘉志子との共著で出版。大正九年、三十六歳の時

東京から沼津市上香貫の借家に転居した。「いま私の借りて住んである家からは先ず真正面に愛蔵山が見え、その上に富士が仰がる。……雲や日光やまた朝夕四季の影響が實に微妙にこの山の單純な山の姿に表はれて、刻々と移り變る表情の豊かさは見てゐて次第にこの山に対する親しさを増してゆくのだ。」と「四邊の山より富士を仰ぐ記」に書いている。四邊の山とは愛蔵山・乙女嶽・天城山・天間山・焼嶽のことである。

富士山を詠んだ歌は約百三十首あるが、愛蔵山を詠じた富士山が望める沼津の香貫山の麓に移住した大正九年から大正十三年にかけては約八十首もある。牧水は酒の歌が約三百首あるが、富士山の歌も多い。

香貫山いただきに来て

吾子とあそび久しく居れば
富士峰れにけり

低山の香貫に登り其上なる
そびゆる富士を見つ時経ね

駿河なる沼津より見れば

富士が嶺の前に垣なせる
愛蔵の山

牧水は、大正九年十一月に、「朝晩に見る愛蔵を越えての富士の山の眺めは、これは一つ愛蔵のてつべんに登つて其處から富士に対して立つたならばどんなに壯麗であろうといふ空想を生むに至つた。」として、富士山を見に愛蔵山（1100m）へ登っている。一糸縷はぬ富士山を見ようというやうやくたどり着いた山頂からは、「自分等の立つた頂上から最も手近に聳えた一つの峯は我等の立つてゐる山とは似もつかず削りなした様な鋭い岩山であつた。その切り



随想 (山のエッセイ)

立つた岩山を抱く縁にして富士山は豊え立つてゐるのであつた」と記している。「嬉しい岩山」とは延岳（1296.6m）一帯のことであろう。

裾野かけて今は積みけむ

富士が嶺の雪原に登る

愛蔵の尾根を

愛蔵の峯によち登りわがあふぐ
まなかひの富士は真白妙なり

大正十年十月遊嶽に登つて、

群山のみねのとがりの

まさびしく連なるはてに

富士の嶺見ゆ

大正十一年天城山に登り、富士山を望む。

わが登る天城の山のうしろなる
富士の高きはあふぎ見飽かぬ

天地の隈みをどめる春の日の
躰えかがやくひとつ富士が嶺

伊豆半島の天城山にて詠んだもので、そこは沼津から眺めるより裾野が広がり、富士山の姿がよく見える場所である。「愛蔵からと云ひ乙女嶽からと云ひ、警浄を言ふ様だが實は少々近過ぎる感がないではなかつた。丁度の見頃だとおもふ距離をおいて仰がるゝのはこの天城山からであつた。」と書いている。富士山の姿を求めての山登りは、天城山からの姿に接して満足したようだ。

大正十二年の関東大震災で住宅難になり、香貫の借家から立ち退きを迫られ、翌年千本松原に移つた。沼津市街から見る富士山は右に宝永山の爆発の跡を見せ、その下の愛蔵山を従えている。それが千本松原の海岸沿いからだとな愛蔵山の最高峰・位標岳（1150.7.5m）が少し

右にずれ、そのぶん、富士山の左の裾野が覗いてくるから、こちらのほうが香貫山の麓より富士山はより大きく見える。千本松原から富士山を詠んだものに、

松原のしげみゆ見れば松が枝に
木がくり見えて高き富士が嶺

松原のなかゆく道のいつか曲り
海辺に出でて富士の山見ゆ

他にも富士山を多く詠んでいる。

夏雲の垂りぬ蔭にうす背み

沼津より見ゆ富士の裾野は

笠なりのわが呼ぶ雲の笠雲は

富士の空に三つ懸りたり

たすね来て泊れる人を

ゆり起こす夏めずらしく

今朝の富士見よ

今朝の富士見よ

今朝の富士見よ

今朝の富士見よ

今朝の富士見よ



随想 (山のエッセイ)

延びたとか、縮んだとか話していませんよ。また地元の小学生も卒業記念で登ります」との話。どうやら登れそうである。そこで標高からして「一時間くらいで登れますか」と訊ねると、「はい、登りは一時間、でも下りは2時間かかります」と言う。「ええっ」私はその意味が判らず、一瞬声が出なかった。

問い質してみると、登りは上へ上へと行けばよいが、下りはついでに降りやすいほうに行ってしまうので、左の沢におりたり、右の牧場のほうに行ったりしてしまっただりして遠回りになり、時間がかかることが多いとか。どうやら道が不明瞭らしい。

お寺から5分ばかりの白山堂まで登道があり、お堂の裏から雑木林の尾根を直登して行く。下草がなく落ち葉がいっぱいで、どこでも歩ける。よく見ればわずかに踏み跡があり、土は茶色も残っている。登山道ではな

いので、根根上を一直線に急登して行く。昨夜の雨をたっぷり含んだ地面は滑りやすく、木の枝をつかんで這い上がる急登の連続で、やっと到着した山頂も草に埋まっていた。

地元の小学校の卒業記念登山の標柱と、山名を記した柱が草のなかに立つだけ。草を分けて2等三角点の標石は確認できたが、霧雨で展望はなかった。

さて問題の下りである。確かにくだり始めからして、やぶで道が定かでない。話を聞いていたので、不明瞭な所にはテープを足して来たから迷うことはなかったが、雨雲りの空の下、林のなかに薄暗く、たくさんあるテープも古くて分かりにくく、安易に登ったら同じ所にくだれなかつただろう。

それにしても、「登り1時間、下り2時間」とはよく言ったもので、「行きはいい、帰りは怖い」山であった。

秋神温泉にて

英田 英一郎

拜野の白雲の胡蝶島(岐阜県初日村)という山荘のはずれに、秋神温泉(かつて、そう呼ばれていた)という隠びた一軒宿の温泉がある。

高瀬松と白樺の疎林に囲まれた宿の裏には、アマゴの釣れる秋神川が流れていて、部屋から眺める景色がよい。春から夏にかけては、広い庭一面をクリンソウが彩り、秋の紅葉の季節には、部屋の中の人の顔までもがあかく映えるのである。

自然派志向の若主人は、近くで採集した昆虫や植物などと共に道徳からの出土品もていねいに整理し標本にしている。敷地内には、昔、わらび粉を取っていた頃に使われていた小籠など

急げぬくるしき時は門に立ち 仰ぎわびしき富士の高嶺を

等は私好みの歌である。牧水は四十四歳で亡くなった。「無酒の努力を重ねたが、愛する酒の前ではどうしようもなく、最後には愛する酒のために死を早めた。」と若山牧水記念館に書かれてある。

人の世にたのしみ多し然れども 酒なしにしてなにとのたのしみ

行きはいい 帰りは怖い

生駒 豊峰

但馬の山に登った時のことである。2等三角点のある須留岐山(須留登山)で、その「須留」という名が気になっていた。近くに、以前登った須留ヶ峰とい

う山があり、「須留」という語源が何に由来があるのか知りたかった。後日、山名ルーツ辞典を開いてみると、単に砂地のある山とのことで、少しがっかりした。

また、20万分の1地勢図や山名辞典では、須留登山となっていて、2万5千分の1地形図では須留岐山となっている。

さて登路だが、地形図には記入されていないし、登山の対象にもなっていないので資料が全く無い。「点の記」を調べてみると、山の北側の日高町から沢沿いの林道を車で入り、林道終点から登ったとある。

車を乗り入れて行くと、林道は草ぼうぼう、ほとんど車の入った形跡がない。仕方がないので回柱できそうな所に車を置いて歩きます。道はずでに崖道に近く、終点からの山道も草がぼうぼうだった。

さらに沢伝いに草を分けたが、

疎林がぼろりと全くのやぶに遮られ、沢の源流に頭を持ち上げている山頂までは相当のやぶこぎが必要だ。折から梅雨の最中、時々ばらばらと降る雨でやぶはたっぷり水を含み、ずぶ濡れは必至。どうも気が進まないのでも引き返した。

「点の記」の記録も、古いものは陸道になっているものも多く、当てにならない。

さて地形図を調べてみると、南の八鹿町側の山麓にお寺のマークがある。お寺や神社にはよく背後の山に聖宮等が置かれ、参道のあることが多い。そこで浅間の村に車を走らせる。すると浅間寺の道標があり、山腹のお寺まで車を乗り入れた。

日光・月光の菩薩像が有名なお寺らしい。そばの住居にお寺の大黒さんの姿が見えたので、山に登りたいと話すと、「5年に一度くらい測量の人が登ります。大山との距離を測って、1



も大切に保存されている。

雪の季節には、こたつ付きの馬そりに村の子どもたちを乗せて雪道を走らせる。また、夜の冷え込みを利用して、近くの樹々に落葉を付けて凍らせ、「氷点下の森」などと名付けて楽しませてくれるのである。

宿は家族だけでやっていて、細やかな気配りがある。山菜料理にしても、ナツメの汁粥や、山ウドの味噌煮、梅のしそ巻き、天然ワサビの味噌あえ……全てにちよつとした工夫と手が入っている。

飛騨は味噌の国、ユニークなのは「石焼き味噌」。平たい自然石の上の糀を味噌で固め、そのなかに、七色(戻)のエキス(きのこ類など)と豚肉とを載せ味噌煮きにする。ふつふつと焼き上がった石を、そのまま枯れ山水に見立てた小さな器の上に載せる。イワナの串焼きや、ヒメマスの造りなどと膳の上に並

ぶのである。

宿の周辺は低い里山で、どの山に登っても、北には栗飯岳が、南には御嶽山が眺められる。秋に近くの名もない峰に登ったことがある。落葉松の落ち葉が敷き詰められた道をたどって、頂近くまで来た時、さくさくと土を掘るような音が聞こえてきた。この山奥で、何だろうと、ちよつといぶかしく思ったのだが、一人の女性が黙々とわらびの根を起していたのである。

顔も上げず、ひたすら掘り続ける姿の、気おいに押されたのか、声もかけずに通り過ぎてしまった。ほんの一瞬のことだった。彼女が背に負った生活の重みでも感じたのだろうか……。

そんなことがあった年の冬、また一人で秋神を訪ねた。宿から歩いて、往復半日少々のあるところにある匠見峠から雪の御嶽山を見たかったのである。寒い夜、夕食に例の「石焼き

味噌」を賞味した後、薪ストーブのある部屋で、お茶をいただいた。ちよつと、一日に二便しかないバスの運転手さんたちがいっしょで、若い二人の話をこもこもに聞いていた。

「せっかくだ、都会から見えられタナナラー、なんて言うのか、山の幸が、イッパイアルー、素朴な温泉の、そんな雰囲気タ所が、エニジャーナイデスカ」

「立派なホテルハ、お客さんハ、すすめられないネエ」
「目もとを紅潮させた車載さんも続けて話してくれるのだった。」

「ぼくラー、都会ハ、なにもおもしろいと思わないネエ。どう言うタラエエカ。都会ハ、シミジミしたものがないネエ。高山の町も、近代的になるハ、反対だネエ！」
窓の外には音もなく、雪が舞っていた。冷たい静かな夜だった。が、薪は気持ちよく燃えて、



随想 (山のエッセイ)

部屋はぬくぬくとしていた。なるほど、運手君たちの言う。シミジミ。したものはこれだなあ、と思いつながら黙って話を聴いていた。

四方山話 (7) 近江富士礼讃

芝野 泰明

近江富士と呼ばれる三上山は、雄嶽太(雄嶽秀雄)の百足退治の伝説とあわせてなじみ深く、J.R東海道本線の車窓から美しい姿を見せている。

台風が過ぎ去った快晴の一日、三上山を中心とする周囲の低山めぐりに参加した。時期がマツタケ狩りシーズンのため、入山料500円を要請された。今はどの程度産出するのか知らないが、昭和初期には、この山を始め湖南の山々をマツタケの香り

に包まれていた。入山料を支払ったのにもかかわらず、裏参道の通行は許可されない。裏参道の女山径田の登山道を通んだ。マツタケはそのかけすら見えなかった。

標高は500以上に及ばないが、独立峰で千羽の鳥の運びだ。しかも台風の名残の巨木が多く、むしろ裏参道の岩場のほうが楽かも知れない。

頂上から東へ花綱公園側へくだりは大濠の階段で、かなり荒れた急勾配で苦勞する。花綱公園や希望ヶ丘公園を右眼下に、春には桜の花に飾られる。あろろ中腰の整備された遊歩道。だる。裏参道とは異った風化砂岩で滑りやすい。倒立正三角形の三上山を背にして心地よい風のなかを石門をくぐって古代峠に達する。

このあたりから西方に琵琶湖が望まれ、目線の妙光寺山が前方左に、緑のない兜山が右

に並んで見える。
遊歩道から一段高くなった妙光寺山に向かう尾根にのると道標がある。少々のアップダウンを繰り返して若い妙光寺山は雑木のなかで相界皆無。少し戻り、道標に従って険しい谷筋をくだると、かわいい地蔵尊が浮彫りされた磨崖仏に出会う。さらに北へ進むと十数基の石仏が点在する福永寺石仏群が、やわらかな木漏日の上に埋もれていた。

かつては麓の村々の生活に欠かすことのできない役割を果たした、所謂「入会山」が次第に里人から見離されて自然に還りつつある。

時間に追われず体力に合せて遊歩するのが似合うようになった人たちに、このような里山歩きが見直されている。明るい健康的なハイキングの新しい方向になるだろう。

雪中ハイキング

雲取山

くも とり やま

北川 浩

京都北山

一月初旬、夫婦での初登山。今年は北山の雲取山へのミニハイイク。雪があれば楽しいだろうと計画した。

雨を降らせた低気圧が太平洋岸を通過し、昨日は東京で大雪がわき。そのあと大陸の高気圧が張り出して冬型に変わり、関西の天候は回復しそう。しかし、冬型で気圧の谷の影響が残る北陸・山陰側はしづくれるらしい。

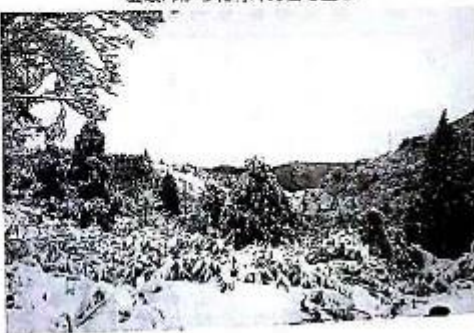
自宅（京都府南葛）を朝七時に出発する。強い冷え込みはないが、昨日の雨で自動車の水筒が凍結していた。暖冬とはいえやはり1月は寒い。鞍馬まではしづれ気味の曇り空、鞍馬を過ぎても路面には積雪もなくとんとん走る。ところが花

背峠にかかるすこし手前から急に道端に雪が見えだし、峠の登りでは一気に10センチほどの積雪になった。

付近にアンテナのある花背峠の広場には地元消防車が出動していた。「スリッパ注意」ということか。スタッドレスタイヤをはいているから問題なく登れたが、くんだり道はやっぱり用心、用心と転をくだる。くだって行くと「別所」という地名標識が出てくる。

「あれ、もう花背やで」と言いながら、さらに行くと大きなおそば屋さんがある。左へカーブして花背の谷に入っていく。右にカウベルという喫茶店があり、さらに行くところJA（農協）のマーケット、そ

雲取峠から花背峠方面を望む



の左手に学校がある。「学校やで、スキー場の横や。ここから登るんや」と駐車場を探す。結局このJA前の駐車場に駐車を頼むことにする。

「そこに駐めはったらええで」と言う返事だから無料かと思いきや、「お金もらいますよ」ときた。500円。どこも有料らしいから、まあ仕方ない。あとで広場がある。人の足跡も、何もない白い雪面の峠を越え、しばらくくぐるとすく一ノ谷の分岐で谷筋に出た。小屋が一軒建っている。谷筋をまたぐように崖床に建ててある。一〇〇〇クラブ山の家」とあるがよく読みとれない。

小屋の手前で流れを渡る。左手に谷と小屋を見ながら登っていく。杉林がなくなりササの道になる。やや高巻き気味に登っていく。雪はそんなに強くは降っていない。積雪もたいしたことはないのだが、ササに雪がかなり道を隠している。一度降りてまた凍ったような雪の付き方でササが頭をたれ、道を塞いでしまっているのだ。時には流れの前で道がなくなり、対岸の道が分からなくなる。赤札や青いリボンがコースを覚えてくれるが、このリボンも氷結していて、よく見ないとそれと分らない。

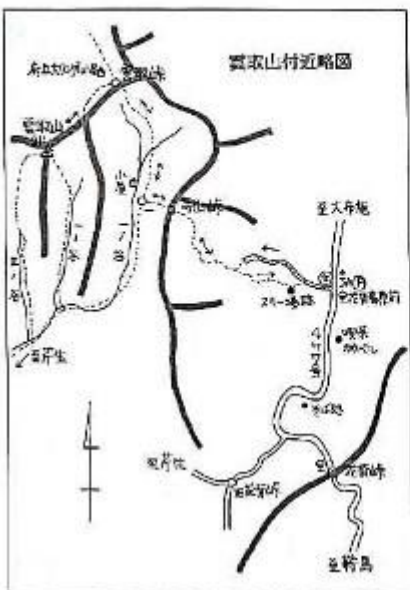
どんどん登ってササの道は谷から高く離れ、左手はブッシュの谷という感じになった。足は滑雪したササに押し出され、つい左の谷側に置いてしまおう。

でも、ずっと雪のサラ道。先行の踏み跡もない気持のよい雪道。しかもアイゼンも何も要らない軽い雪道。そのせいで

気がついたが、わが母校の私立〇〇学園のボロボロの夏期宿舍というのが目の前にあるではないか。「なんや、ここに駐められたのに」

駐車して身仕度を始めたらボタバタとぼたん雪が降りだしてきた。軒を借りてカッパを着用、スパッツも付けた。少しも寒くない。これならアウターなんて不要、フリースのセーターに直接カッパを着て出発した。

学校の林道に入る。校庭の斜面に看板がある。「スキー場入場禁止、無断入



場は三千円申し受けます」とある。短くて古びた看板だ。そのまま林道を登っていく。左手にスキー場。入り口にロープが張ってある。入るなということだろうが、そのロープも、うっすらと雪をかぶった入り口の板橋も汚れて古くさい。人の出入りがなくなると久しいようだ。機にある食堂風のプレハブもガラスは割れて廃屋同然。ベニヤ板もめくれ散らばる。

林道をそのまま登って行く。左手は小さな谷を隔てて元のゲレンデ。右手は美事な杉林。この林道もしばらく行くと細くなった。杉林のなかの登りになる。雪解け水が流れを道になった。払い落とされた杉の枝が足元にうるさい。流れを渡りながら登って行く。湿気の多い林だ。

林を抜けると寺山峠で、四時半ほどの小さな



等山峠へ杉林のなかを行く

でササがうるさいのだが、もっと雪が多ければササも寝てしまうだろう。谷の向かい側は切り開かれた尾根がのびる。山肌は枯れ木が立っていて山火事跡のようにも見える。

「山火事があったのかなあ」と言いつつ登って行く。

やがて雲取峠に着いた。ここは等山峠に比べ開けた広くて明るい峠だ。すぐ前



雲取山三角点にて

山頂には他にくだる道が二つ見える。きれいに雪がついて踏み跡はもちろんなし。二ノ谷・三ノ谷へのくだり道だ。そちらへ入って行きたかったが、12時20分過ぎなので思いとどまり、来た道を引き返すことにした。

サッサとくだって雲取峠。リョウブの樹氷を写真に撮る。山火事跡の尾根の向こうに花背峠の大きなバラボラアンテナ

方にくだっていく広い道があり、小屋が見える。とりあえずあの小屋の前で休憩しようとした。とてついでに。

手作りのテーブルとベンチがひっそりと雪をかぶっている。「京都府立大学ワンゲル小屋、りょうぶの小屋」とある。なるほどあたりにはリョウブの木があり、たくさんの実を付けたまま赤く氷に固まっている。この小屋のある谷筋が北の方へくだって、まっすぐ風が吹き上げてくる。おまけに粉雪が舞いだしたのでベンチは寒くていけない。春はリョウブの新緑が、夏は広い葉陰で涼しく、気持ちのよい広場だろう。秋の黄葉も見事だろう。今だって風さえなければ……。

「Hさんご主人が学長の大学の小屋やで」と妻。とは言え、何の関係があるわけでもなし、小屋の錠が開いてくれるわけでもない。小屋の陰にかくれるようにして、おにぎりとナルモスのお湯の粉スプでお昼。腹ごしらえをしてから峠へ戻る。

峠のまわりもリョウブの林がある。見事に着雪、結氷。美しい樹氷だ。スケッチに値するが時間がない。雲取の山頂へ向かう。

が陽に光っている。雪に輝く山や林がまぶしい。

等山峠を越え杉林をくだって山道は終わった。林道右手の小さな尾根の向こうにスキー場跡のゲレンデが原えた。そちらへも雪をかぶった道がうっすら見える。

「バックンやで」と後ろの妻から言われながらもその道へ入る。私が戻らずにどんどん行くものだから妻も仕方なくついて来る。

カヤを刈りとって山にしてある。青いビニールシートがかぶせられた小山だ。雑草が薄雪の上に頭を出した元ゲレンデにこの小山が数個点々とある。白い雪原に青く目立って不自然だ。向こうの端にはリフトの塔が並んでいる。錆ついて赤黒い。リフトのスタート台の大きな両車も錆ついて痛ましい。

ゲレンデを、右へ左へ遊び半分にS字を切りながらプランプランとくだる。気がつけばそこはスキー場の下。朝見たロープをまたいで林道へ戻る。

しばらくくだるとおじさんが登って来た。その風体から地元の人らしい。「ホラつかまった。ボーエンキョーで見

峠から山頂へはややラッセル気味。取りつく道が見えない。ササが隠しているのだ。リボンを見つけて入っていく。30分ほどの積雪だろうか。もぐるより足にまとわりつくササの葉がうるさい。もっと雪が多ければササも雪の下なのに。ガサガサ、ポコポコと尾根筋よりやや右の西北斜面を推いて行く。ほどなく林のなかへ。ササが消えてヤレヤレだ。林のなか、左に尾根を見ながらしばらく行く。

ゆるくくだらだだっとなって林がなくなるとまたササ道。尾根を登りだすと山頂は近い。北面から雲取山頂(911m)へ着いた。

ここも新雪の小さな広場で気持ちのよい山頂だ。先ほどの峠の風もここにはなく、晴れ間ものぞきだした。蘆木のなかだが産側がやや開け、北山の山並みが見える。しぐれ雲が走り去ると陽光が当たり雪面が光る。

ザックの上にかメラをのせて、二人仲よくオートシャッター。標柱のポストにノートがある。この6日にも交えている人がある。「新雪で気持ちよし」とある。こちらも「新雪気持ちよし風が冷たく長居できぬ」と書いて早々に下山だ。

てはったんや」と言いつつ距離がつまむ。

「せりょうからですか?」と聞かれた。われわれにはそれが「昼からですか」と聞こえて「いえ、10時から」と答えてしまった。

「雲取山へ行って来ました」と続いて言うが、おじさんもいまいに「そら大変や」と言いながら山のほうへ登って行かれた。

「なんや」「せりょう(学生)からですか」と聞かされたんや」と気がつく。妙な返事をしたものだ。罰金は取られなかったがとんだ失礼をしてしまった。

下山後、ふもとの喫茶店カワベルでコーヒーを飲んでささの雪中ハイキングを締めくくった。

(平成10年1月9日歩く)

- △コースタイム▽
- 花背高原スキー場跡(40分) 等山峠(5分)
- 一ノ谷分岐(50分) 雲取峠(20分)
- 雲取山(20分) 雲取峠(25分) 等山峠(30分) 花背高原スキー場跡
- △地図▽昭文社「京都北山1」

迷い歩いた冬の鈴鹿

冷川岳

松田敏男

鈴鹿

鈴鹿の冷川岳。馴染みの薄い山名だ。御池岳と藤原岳という人気の高い山の間に位置している。単なる通過点のような山だが、北東方向に丸尾という尾根を張り出して、一応そのあたりでは1000以上のラインを越えているところから見る人によれば存在感のある山だ。それを目的とする山行はそうないだろうが、私には目的とするだけの価値が丸尾という尾根にありそうなので、御池岳周辺の池巡りを目的の二つ目に加えて山行を計画した。

池巡り計画の理由は、「新ハイキング関西」38号の山本久雄さんの案内文に惹かれたのがきっかけだった。コピーをし

てザックに備えた。どの池でもいいからそのほとりの雪面にテントを張れば、幻想的でいいのではないかと考えていた。どの池にするかは、丸尾の登りにどれだけの時間がかかるかによって決まるので、登りながら考えることにした。

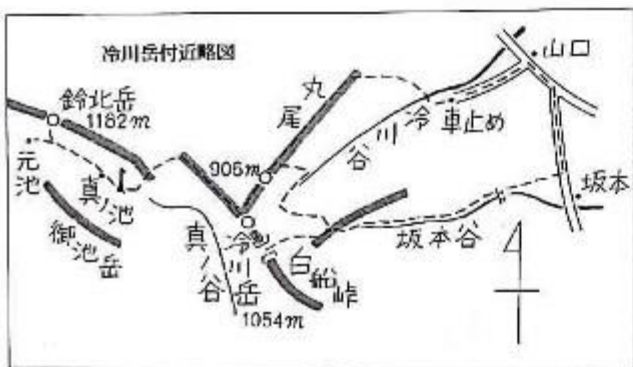
今回の山行は、田辺さんの車に西村さんと三人である。丸尾の登山口となる山口からの入る道がすぐに見つからなくて一度行き過ぎたが、注意深く戻り返して林道を見つけて入る。暗い樹林のなかの道を5分程進むと、水道か何かを調整する所のようなコンクリートの小さな建物が金網の中にあった。その前あたりが車を乗り入れる終点のような感じである。

テント場にした小さな池（真ノ谷頭頂）



左手の樹林のなかに白船峠の小さな標識があり、はっきりした登山道がある。これは谷の左だから丸尾へ登らないのは明らかだ。帰りは白船峠からここへおりてきたら車の前にびったり着地できていいねと話しながら林道を少し進むと、また道幅が広くなり左斜面が荒々しく崩壊している所に出た。どこことなくほったらかしの風情で、荒れた印象だ。目の前の川、

すなわち冷川を渡って、向かいの斜面に取りつかなくてはならない。どこに地形図にある破線の古道があるのか。こうして探すことが山行の楽しみのひとつ。坂の向こうに何となく踏み跡らしきもの



が見える。それは尾根を上がっているらしく地形図の谷道とは違うようだが、こういう所では現場の状況で判断していくほうがよい。

古い根拠を渡って踏み跡をたどる。このまま登れば自然に丸尾の上に出るだろう。やぶが生え込んではいくが踏み跡はしっかりしているので、季節がらそんなに妨げになることもなく、雑木のなかの登りとなった。

だんだん林相が整ってきて、鈴鹿北部らしい二次林と石灰岩の美しい尾根に変わってきた。いいルートを選んだものだ。下の区道から風の向きにより聞こえてくるバイクの音が少々わずらわしいが、私たちは豊かな自然の真っ只中。905mの標高点あたりまで登ると雪が現れた。途端に明るくて繊細な風景になった。

急な登りを標高差150m登って主線に呑まれた。幅広い道に出た安堵感と、いい所が終わってしまったという感情とが入り交った奇妙な気分のまま、すぐ南の冷川岳に着いた。雪の上で昼食とする。山頂とは言い難い通過点のような所だが、雪の上での昼食はこのほか来しい。他にだれも通過する人はなかった。

北へ戻って尾根上の幅広い道を御池岳の山上の一角へ向かう。霧がおりてきたのか、それとも標高が高くなったのか、一面霧に包まれた道となり、ササのなかの小さな乗越を越えて真ノ谷の分岐に着いた。真ノ谷をくだる急坂はあまり人が通っていないのかササがふさぎまわっていた。

丸山への道を戻送る、霧のなかの樹林を進む。もう夕方になっていたので、テント場は小さく木の間隔が広い平たい所ならどこでもいという気持ちになっていた。そうしたら一段上がった雪のなかに小さな池を見つけた。決まりだ。テント場はこの池の裏がいい。直径10mほどの小さな池。春になれば湧いてしまう程の小さな池。今は半分凍って御池岳の魅力の一翼を担っている池。まわりの細やかな枝々の表情を眺めながら、きょうも一日いい山行ができたという気持ちでふっつとわいてきた。田辺さんはビールを飲まないし、西村さんもお付き合い程度だから、私一人でビールを飲むながら、よかったですよと満足感をヒートアップすることになった。

次の日も霧だった。テントをそのままにして池巡りをする予定だったが、あい

《第19巻新発売》
 一山の随想集—
山との出会い
 A5判 320頁/定価1680円(税込)
 新ハイキング誌常連寄稿家
 55名が書下した山の随想集
 山との出会い、花鳥とのであひ、いで
 湯とのであひ、人びととのであひ、さ
 まざまなであひ、その他、55編
 発行所 新ハイキング社
 〒114-0023 東京都海野川7-6-13
 ☎(FAX共用) 03-3915-8110

にくの天候だったので鈴北岳までの往復にきりかえる。途中に真ノ池があった。登山道の側にあるのに、以前通った時は気が付かなかったようだ。元池の分岐に張ってある。雪が積もって高山的な雰囲気気が少しする所だった。元池に寄ってある。大きい池だった。雪の季節は周囲の木葉が落ちて、大きく見えるようだ。暗い水の色が寂しかった。鈴北岳の山頂は風が少し強く吹いていて、ゆっくり過ごす気持ちにはなれなかった。

テント場に戻って早目の昼食をする。きのう歩いた道を冷川岳までたどり、その先をくだる。白船峠まで来れば、その先は以前二回歩いた道。慣れていることで気持ちが放漫になるのを注意しながら、車止めで見つけた登山口へおりの分岐を見落とさないようにくだる。

ひとつ小さな尾根を乗り越えて、次の谷に入る。その谷にくだり始める手前で、左へ山腹を下降気味にトラバースしている非常に明瞭な大きい赤布の列を見つけた。足元がはっきりしていないから、たぶん赤布を付けて迷わないようにしてあるのだろう。右下へ石車で降り落ちる

いようにしながら慎重に斜面をトラバースしていく。

しかし赤布はいっこうにくらだって行かなかった。浮石の多い急斜面をトラバースするよりも、ジグザグを切って下降していくほうが効率的な下山方法だと思ふのだが、別の尾根が谷まで行くかのようには下降することなく赤布は続いていた。別の目的で付けている赤布なんてあるのだろうか。赤布をたどることに見切りをつけよう。とにかく下山の目印ではないようだと感じ始めた頃は、すでに危うい所を引き返す気持ちは薄れていた。右下の谷を見ればおだやかな斜面に明るい色の小石と草地が庭園風に開けていた。谷の源頭の険しい所を下降して、ルンルン気分の谷歩き。青空が広がり始めた。初めての日差しだ。流れの音が聞こえ出し、その澄んだ水に青空が映るのを見て、今夏のソーマン山行(登山)にソーマンをついて負べることが目的のひとつの私たちの会の恒例の山行)の場所に最適ななあと、三人の話は弾んだ。

最後の残雪を見送り、草地を歩いたり濡い流れのなかの小石を伝ったりしながらくだる。流れがいつしか伏流となり、

論になった。そのほうが足場の悪い斜面の距離が短いと判断したのだ。現在地は特定できないが、標高7300m付近と、おおよその見当はつく。

草付斜面を這い上がって、灌木の根や幹をつかんで登る。小さな支尾根に上がるまでは無我夢中の心境だった。時刻はまだ早い、小雲混じりの空は夕方かと思ふほど暗い。小さなコブにたどり着くまでがたいそう長く感じられた。

コブはすっかり霧のなかで、いわゆる五里霧中だ。なぜかわりがすべて低くなっている、頂上のようになっているのだろう。そこはきのう通過した丸尾の908m付近点だったのだが、霧のなかではそうとは断定できなかった。はっきりした踏み跡があるのでもなく、別のルートから上がったことともあり、またずいぶん歩いたという思いもあって、もっと上にいるという考えが無意識のうちに入っていたようだ。地図と磁石によって方角の見当をつけ、赤布をこまめに付けながらルートを探してみる。

と突然、人間が霧のなかから現れた。ハンターである。他の二人が現在地はどこなのかと地形図を出して訊ねてみるが、

ハンターは自分のカンで歩いているようで、話が成立しない。それどころか、「あんたみたいな人がいるから山が荒れるんだ」と不機嫌な面持ちである。居丈高な態度の鼻を折ってやりたかったが、私には余裕がなかった。私たちは自力で自分たちの能力に合ったルートで、自分のおりるべき所へくだらねばならない。

赤布を付けながらルートを探しているとき、その先に登りの斜面を見つけた。これだ。この斜面が冷川岳への登りの斜面だ。コブの所は適当に歩くので踏み跡が見つからなかつたようだ。少し登れば、所どころはっきりとした踏み跡のある、残雪混じりの見覚えのある尾根道だった。尾根上を登っているのだから、もう間違いないとは言えるもの、主稜線に出るまでは緊張が解けなかった。きのうのようにこの登りが山行のハイライトと楽しんでいる余裕もなく、また皮肉な二日目という思いさえも浮かばなかつた。

雪の稜線に出てもほっとするには時間によとりがなかつた。三度目の冷川岳を疲れを覚えながらさっさと通過して、もう一度白船峠へくだる。数時間前の分岐

に著く。

やはり今見てもはっきりした赤布が続いているから、それをめざしても何の不思議もない。そう思いながら右へ明瞭な急坂をくだった。岩のゴロゴロした坂本谷に降り立った。これまで二度もくだっている道なのだが、岩がゴロゴロとしていてと先程の突然の空滝のようなのがまた行く手を阻んでいるのではなどと思ってしまう。もう夕方近くなっていた。三人は無言でただたださっさと歩いた。記憶のある滝の横を過ぎればすぐに下界に出た。

車道を山口へと向かう。ふり返ると、暗くなつた山体に黒い雲がおおいおきかっていた。山口の分岐からは、奥の暗い林道を私たちの車に向かって歩いた。ヘッドランプの明かりも森の間に吸収されて暗かった。

(平成10年1月3日〜4日歩く)

△コースタイム▽
 山口冷川谷林道(5時間) 真ノ池南方の小池(2時間) 元池・鈴北岳往復(6時間30分) 冷川谷林道
 △地形図▽2万5千1:5万1:10万1:25万1:50万1:100万1:250万1:500万1:1000万

黒部五郎岳から双六岳(下)

鷺見守康

北アルプス

北ノ俣岳から黒部五郎岳へ
北ノ俣岳から、隊列の先頭をサブ・リーダーのAさんに代ってもらい、私は最後尾をぶらぶらと歩いた。体調がすぐれないのが第一の理由だが、写真撮影のため断続的に立ち止まるには、やはり、最後尾のほうが気が楽でもある。

中俣乗越から少し登ってまた少しくだと、いよいよ黒部五郎岳への登りである。北ノ俣岳あたりまではよく晴れ上がった天候も、次第にガスが湧き、西隅を包むように広がっていく。

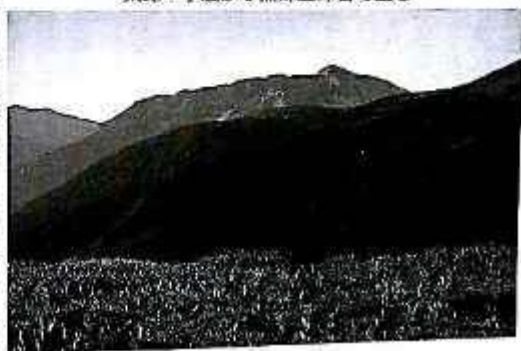
北ノ俣岳から3時間ほどで、黒部五郎の頂に達する。同から山頂を經由して尾根通しに五郎平へ至ることもできるが、

黒部五郎ではカール底を歩くことに決めていたので、ザックをデポして空身で山頂まで往復した。ガスのため見晴らしはきかない。昼食休憩後、カール壁に沿って少し稜線を進み、まもなく壁を下降する。

私たちがカールの底に達すると、まるで待ち兼ねたようにガスが切れた。見上げる山頂は青空を背にそびえている。

黒部五郎のカールの美しさは比類ない。雄大さと端麗さとを兼ね備えた岩壁。残雪が生み出す凄烈な流れ。精気にあふれた花々。芸術的に配置されたかのような巨岩。まさに神々の遊戯庭というにふさわしく、限らないやさしさと明るさに溢

太郎平小屋から黒部五郎岳を望む



ちている。大休止後、五郎平をめざしながら、立ち去りたい想いを胸に何度もふり返った。
カールからやがて沢沿いの道となり、樹林帯を抜けると三角屋根の黒部五郎小屋に到着。夕食にはソバも出た。ソバは黒部五郎の黒山荘以来だ。
部屋は、私たちに一部屋が割り当てられたが、他の男性登山者が2人同室とな

た。山旅も2日目ともなれば、メンバー相互間の親しさも増し、一人一人の個性が遺憾なく発揮されるようになる。今回のメンバーは女性に存在感あふれる人が多く、自然に会話も弾む。指庄に心得のあるDさんによる「指庄教室」が開かれるや、場は一気に盛り上がった。男と女の微妙な会話も飛び交い、同室の登山者にもバカ受けで、私はそんな和やかな雰囲気を楽しんでいた。

鷺羽岳・三俣連華岳から双六岳へ
朝、五郎平は雷雨であった。きょうの

行程は、三俣連華岳から双六岳を越えて双六小屋まで。標準タイムも時間ほどのところであり、時間的に余裕がある。実はこの日、私には双六岳周辺で遊ぶ目論見があった。高山植物、高山蝶、構造土などの地形、そして樹・穂・露・雪などの山岳景観を業し、写真を撮影し、北アルプスの奥ん中でのゆとりとした贅沢な一日を通すつもりであった。

けれど、この日記をそのままメンバーに押しつけるのは、やはり、どうしても後ろめたさがつきまとう。そこで、二班に分けて、一つの班は双六岳周辺で遊ぶ



三俣連華岳への道は小舎の裏から始まり、ガスのなか、すぐ樹林帯の登り口になった。まもなく分岐点となり、捲き道を進むと、雪田周辺に咲く花たちが盛り姿を呈せてきた。今、残雪はほとんど見られないが、このあたりでは最後まで雪が残ったのだらう。
稜線直下の斜面はのびやかな広がりを見せ、次第に花が豊かになる。ガスも時々動いて、頂上には青空がのぞくようにもなった。清々しい流れに出て、休憩。花たちがつくる株があるこちにいっぱいである。早咲、花の観察が始まり、メンバーから名前を尋ねる声が上がると、ジンヨウスイバがあった。私も初めて対面する花であり、産が腎臓のような形をしているスイバのことである。アオノツガザクラ

の群落が見事である。
 カメラタイムの休憩を終え、雪道を一つ越えて三俣山荘に到着し、ここで二班に分かれた。はっきりしない天候とはいえ、鷺羽岳を目前にするとやはり寒通りするのむづかしい。残ったのは3人だった。鷺羽岳への班を見送ったのち、また雨模様となった。

3人の班は大休止とし、山荘の喫茶店でレギュラーコーヒーを味わう。コーヒーを入れてくれたのは、山荘の主人、伊藤庄吉さんであった。彼は「黒部の山脈」の著者であり、私は数年前に読んだことがある。ゆっくりりつろいでいると、外は本格的な雨となった。

雨が小降りになった頃、山荘を出発し、三俣連華岳へ向かう。双六槍き道との分岐点にザックをデポし、急登を15分登山頂に立つ。ガスで四周は乳白色の世界。そそくさとして、分岐点で昼食をとっている。雨脚が強くなって来た。そのまま双六岳中腹の捲き道を進んだのだが、実はこれは私の誤りで、この道が双六岳山頂へのルートだと思ひ込んでしまっていたのだ。

言い訳がましいが、この誤りはむしろ



弓折岳から双六岳を望む

私はひとり、ふり返りつつ双六岳を撮影していた。昨年、同じようにこの被線から撮影した双六岳の写真はカメラの故障で光線が入り、増感状態だった。撮影しながら、双六岳との巡り合わせのなさを感じていた。昨年も、そして今年も双六岳では深いガスに包まれていた。「来年こそ……」と心のなかで念じた。来年は、おそらく更鏡座コースから双六岳へ

幸いだったかも知れない。丸山から双六岳の中腹は幾つかの沢の清冽な流れに加え、お花畑が見事であった。やがて被線連しの道と合流し、双六岳をくだる。溝状の道で、今回の山行で初めてシラタマノキに出会う。葉をちぎったり枝を折ったりするとナロメチールの香りがする。

13時15分双六小屋着。まもなく、雨は激しくなり、およそ1時間後、鷺羽岳隊の12人が到着した。

すっかり濡れた衣服を着替え、夕食前の時間を談話室で和やかに過ごす。すでに3日目となって、人の名前の覚えが悪い私でもメンバーの名前と顔とがはっきりしてきた。

雨は夜まで続いてしたが、夜半、トイレに立った折、ひとり広場に出てみると、天気は回復して夜空は活天の星。雄大に流れる天の川を久しぶりに仰いだ。以前、小人数や単独でアルプスを歩いていた頃、星降る夜にはいつもこうして夜空を見上げていたものだった。

新穂高温泉へ下山

空は青々と高く、すっかりと気持ちの

至ることになるだろう。

笠ヶ岳との分岐点で休憩。ここから被線を除き、鏡平へくだる。まもなくアツというまにガスが出て、抜けるような青空と明るい陽光が消えてしまった。斜面の草やかなお花畑も色を失ってしまったかのようだ。カメラのトラブルで隊列からかなり離れてしまっていた私は、撮影をあきらめてひたすらくだった。

やがて、鏡平山荘に到着。いくぶん気温は低くなったが、名物のかき氷を味わって再び出発。

槍・穂高連峰を水面に写すことで有名な鏡平の池も、今は人影もない。この鏡平からシンドダ原・秩父沢付近まで、かなり不思議な風景が展開する。亜高山帯のうっそうとした針葉樹林が出現しないのだ。シンドダ原の大ノマ薬草との分岐で休憩。このあたり、シンドダというよりウラジロタテが多く、タテヤマアザミ・オニシモツケ・タカネスイバなど丈の高い草が広がっている。

わがパーティのベースは、かなり遠くになった。新穂高温泉で4日間の滞在を終え、疲れを癒したいという声が多く、足並みが揃ってきたようだ。私を含めて数

まい朝であった。四方の山々が朝日に映えている。昨日は、その山容さえはっきりしなかった三俣連華岳が双六岳の背後に見える。そして鷺羽岳。双六池の可愛たには笠ヶ岳と鏡平岳、アルプスのこんな朝は気分が爽快である。メンバーはだれもが写真撮影に忙しく、活気に満ちている。

6時過ぎ出発。私はまたサブリーダーに代えて、隊列の最後から写真を撮影しつつ歩く。しばらく被線下の露面をトラパス気味に進み、弓折岳に続く被線に出るといっせいに歓声が上がった。

槍・穂高連峰の雄姿であった。朝日のなか、天空に雲翳で荘嚴なシルエットを描いている。この雄大な光景を堪能できるようにと、サブリーダーのAさんは展望タイムをつくってくれた。くっきりとしたスカイラインからは、穂高のひとつひとつのピークまでもが識別できる。

この被線は、このまましばらく槍・穂高連峰を横にして進むのだからたまらないう。いつまでも放心したように見つめている人、写真撮影に余念のない人、感激を語り合う人と、隊列がどうしてもぼらけてくる。

人は遅れ、花を觀察しながらぶらぶら歩いている。左俣谷林道も花が多い。わさび平小屋に着くと、先着のメンバーは小脇名物のソーメンに舌つづみを打っていた。全員表情は晴れやかで、和やかな雰囲気だ。これからの各々の予定を考えて、ここで解散とした。

(平成10年7月19日、21日歩く)

▲参考タイム▼

- ＜20日＞黒部五郎小舎6・05―三俣山荘9・06(以降二班に分かれる)
 - A班 三俣山荘10・00―三俣連華岳分岐10・35―三俣連華岳10・50―分岐11・00(昼食) 11・25―双六分岐12・50―双六小屋13・15(泊)
 - B班 三俣山荘9・20―鷺羽岳10・25―55―三俣山荘11・30(昼食) 12・20―三俣連華岳分岐13・00―双六分岐14・25―双六小屋14・30(泊)
 - ＜21日＞双六小屋6・10―弓折岳7・20―鏡平小屋7・50―8・20―わさび平小屋10・30(解散)
- △地図▽
 昭文社「総・立山」
 「上高地・槍・穂高」

『信府統記』

日本靈山紀行 番外編 (増補)

浅野孝一

信州一帯の地理を調べるには『信府統記』が一番詳しい。他には『信濃野史』『蓮光寺名所図会』『木曾名所図会』などがある。また『信濃玉座』もあるが、これは明治期になって編輯されたものである。

『信府統記』は、享保九年(1724)12月、筑摩郡松本城主水野忠恒の生命により家臣鈴木重武、三井弘篤が編輯したものである。

一七〇〇年代すなわち元禄期後半になると、各藩において地誌の編輯が行われた。『信府統記』が完成したのは、昌平坂学問所による『新編武蔵風土記稿』が完成した文政十一年(1828)に先立

つこと、約百年も前のことであった。

明治期に至るまで信州一帯は天領、旗本領が錯綜していて、明治九年(1876)に長野県に統一された。

信州の地誌が『信府統記』と名付けられた理由については『信府統記凡例』は「此書ヲ信府統記ト名ツクルコトハ、松本ノ城ハ信州ノ府中タルニ依リテ、コレニ本ツキ、國中ノ諸城ヲ初トシテ、統ベテ見聞ノ及フ所ヲ記セル故ナリ、」と説明している。

『信府統記』は全三十二巻より構成されている。私が知りたいのは個々の山についての記事であるが、山名などについては各巻に分散されているので、それを

見つけ出すのに若干骨がおれる。しかし、机上登山の楽しみをそこに見出すこともできる。

気になる山川を抽出してみる。

「戸隠山 当郡ノ西ニテ、安曇郡ヘ山統キ、……多田仲清信濃國戸隠山之泉、余五将軍平維茂亦教戸隠山鬼、神社考ニ見ユ、・浅間山 上野國ニテモ同名、当國ノ名所ナリ、・荒船山 峯通國境上野國ニテモ内山道ヨリ南同名、此山峻壁ナリ、・十文字峠 峯通國境 三國山ヨリ夫ノ方、武蔵國ニテモ同名、此峠道落合・梓山村ヨリ武蔵國松本マテ九里四町余、」とあり、文中「松本」とあるのは松本のことである。

続いて、「大横峠 武蔵・甲斐・信濃三ヶ國ノ境ナリ、此大横峠峯通國境武蔵・甲斐兩國ニテハ國師ヲ掛ト鳴フ、」とあるが、これは明らかに誤りで、現在の甲斐信濃である。

この誤りは『武蔵通志』も誤記してしまつた。「甲斐國志」もこの誤りによるものである。

「金嶽山 大山巖ナリ、峯通國境前後共ニ前山多シ、甲斐國ニテモ同名、大横峠

ヨリ西ニテ当ル、」

八ヶ岳についての記述は少ない「八ヶ岳 嶺通國境 甲斐國ニテモ同名、」

伊那郡は松本藩領ではないが、

「此郡ハ当國中ニテ大部故、知行高モ多シ、御藏入地御代官所モアリ、小身衆知行モ多シ、」と記されており、

山に關しては、

「木曾界駒ヶ岳委ク築摩郡ニ見ユ、高山ナリ、西ハ木曾、東ハ伊奈ナリ、此嶽ニ村々アリ、山麓ナトアリシ所ト云、當郡ニテハ此嶽冬雪積リテ春ニ至リ、其雪ノ消ル形駒ニ似タル故名タト云ヘリ、」と山名の由来まで記している。山嶽とは入会地での紛争がしばしばあったということである。

中山道(木曾路)に關しては、

「築摩郡木曾、此郡松本ノ橋ヨリ南ハ木曾ト稱シテ、原張殿嶺分ナリ、……凡木曾ハ深山幽谷ノ地ナリ、」とあるが、木曾の御嶽山については、

「御岳ハ西ノ方福島ヨリ申ノ方十里ハカリ、常ニ雪アリテ大山ナリ、」と言葉は少ない。

南アルプスの峰々についての記載はほとんどないので『甲斐國志』に依らざる

を得ない。

松本平を囲む山々についての記述も詳しくあるが、今日から約三百年も前のことであるから一部の山名以外は判明されていない。而して山・有明山・常念寺・雲ヶ岳は山名が明記されている。

白馬岳あたりは全然判っていない。このあたりが判つたのは明治期に入ってからである。梓川流域についてはその記述を拾ってみる。

「穂高岳 梓川出口ヨリ大野川マテノ中程西ノ方ニアル大山ナリ、此岳ハ往古ヨリ神高大明神ノ山ト云ヒ伝ヘテ此名アリ、嶮山ニシテ、登ルコトアタハズ、體ニ大明神ノ御手洗トテテラ池ト云フアリ、広サ三四町四方程ノ池ナリ、深サ計リカタシ、いわなト云魚多クアリ、仙人夜ニ乘リテ是ヲ釣ル、此外梓川ヨリ西ノ方ニ山岳多シトイヘトモ、深山ニテ往來ナケレハ、山ノ号モ知レズ、」とあり、上高地については「梓川水上ハ遙北ニテ、上河内山ノ奥、飛騨ノ國境白石ト云処ヨリ出テ、上河内ノ山中ヲ南ヘ大野川マテ五里余流ル、此川筋山中ノ平原ニテ橋一里余、或ハ二三十町程アル所モアリ、但シ此地夏五月マテ雪アリ、……此左右ニ温泉三

ヶ所アリ」と記している。

以上の記述全ては村々による書き上げによるものである。

『信府統記』は享保七年(1722)に調査を始めてから完成に至つたのは享保九年(1724)の約二年間の短日時であつたので現地調査もできなかったものと推測できる。しかし、信州一帯の地誌については右に出る文獻はこれ以外にないものと考えられる。

『信府統記』は現在『信濃史料叢書』の中に収められている。その「例言」には「本書は信府統記一部三十二巻を収む。書中載する所、松本藩領内を主とすると雖ども、併せて、當時信州各藩の大體に及ぼし歴史の、總記としては、最も浩瀚大観なるものたり。」と解説している。

松本藩主水野忠恒は十五万石の藩主であつたが、享保十年(1725)7月28日、江戸城中にて狂気のため、毛利水正師就に刃傷に及んだので改易され、その子忠毅は信濃佐久郡高野において七千石の旗本となり明治期を迎えた。



はるばると訪ねた1等三角点

能高山から安東軍山へ

台湾

生駒 聳 峰

能高山は日本統治時代には、新高山(玉山)・次高山(雪山)と共に「台湾三高山」と言われていた。この三つの山はそれぞれ「高山」の文字を持ち、新高山は3952m、次高山は3884mと、台湾の一番と二番の標高を誇っている。しかし能高山は3261mで、台湾百岳には入っていないものの、標高では七十一番目ではない。

一般に能高山と言われるのは、能高山主峯のこと、その周囲には北峯・東峯・南峯の二つの峯が連なっている。通常縦走する場合は、廬山温泉から入って天池山荘に泊まり、北峯・主峯・南峯と經由して安東軍山から奥萬大溪に下山する。

能高山系は台湾中央山脈の中央部にあり、玉山と雪山の間に位置し、縦走には通常4泊5日を要する。山小屋は1ヶ所だけで、後はテント泊となる。

この間に台湾百岳に含まれる高山が六峯を数える。北から能高山北峯(南嶺山)・能高山主峯・能高山南峯・光頭山・白石山・安東軍山である。さらに少し北に足をのばせば、奇萊主山南峯も登頂可能な位置にある。

この縦走には入山許可やガイドも当然必要で、テント泊の装備や食料で荷物の量も多いから、ポーターも雇うことになる。当然一人では経済的な負担も大変なので、今回は札幌の山岳会の山行に参加

能高山主峯



させてもらった。

札幌の人たちは男女合わせて7人。ほかに私とガイド・ポーター一人ずつ、総員10人のグループとなった。計画では、現地ガイドがテント・食料・炊事用具などを持参して食卓をつくる。私たちは食器・寝袋・マット・防寒着等を各自が持参し、昼食も各自が負担することになっていた。水は各テント場で確保できると

のことであった。もう若くはない私はなるべく軽くと考え、昼食にはビスケットの軽いものをばかりを準備した。残念だがアルコール類は断念した。

初日は日本から台北に飛び宿泊する。2日目は車二台に分乗して台中市へ走り、役場で入山許可をとり埔里市に到着。きょうの行程は廬山温泉までで時間的に余裕があるので、紹興酒の工場を見学して行く。埔里は台湾一の紹興酒の名産地である。日本語の説明ビデオ等も上映していて、現地の観光客もたくさん来ていた。

霧社は日本統治時代に現住民が反乱を起こし、たくさん犠牲者の出た悲しい事件のあった場所、記念碑が建てられている。さらに奥へと車を走らせ、深い谷間にくだると廬山温泉到着である。

廬山温泉は谷の両側に十数軒の旅館と食堂・みやげもの店が軒を連ねていた。温泉だけのこじんまりとした町である。台湾の温泉はどこも同じだが、大浴場などは無く、単にホテルのバスに温泉が出るというだけの所が多い。日本の温泉街とは全く雰囲気異なるので、日本人にはもの足りない感じがする。

しかし、台湾の人たちもたくさん訪れていて、レストラン等ではカラオケでにぎわっていた。

翌日、さらに登山口まで林道を登る。すでに地道の急坂で、大型車は入れず四輪駆動車が欲しいくらいである。やがて屯原登山口に到着する。すでに谷を隔てた右手に能高山脈が大きく姿を現していた。

登山開始。きょうは天池山荘まで5時間程の行程で、ここはすでに標高2000m。天池まで400m余りの高低差で、山腹をぬう登りの少ない道である。道幅も比較的広く、バイクや小型トラクターが走る。きょうの泊まりの天池山荘までの荷上げはバイクがするそうである。初日でもあり、天気も良く登行時間も短いので、のんびりと能高山脈を眺めながら歩く。やがて山中からお経の音楽が聞こえてくる。不審に思いながら進むと、登路にお堂が現れここから音楽が流れている。雲海小屋で、中年夫婦の番人が駐在し、宿泊(茶前まり)も可能とのこと。

この谷には高圧線が花蓮港まで敷設されていて、その保守のための小屋が登山者にも利用されているようだ。小屋には雲

海保線所とあった。山中にバイクの音が響き車が走ってくる。吊り橋や棧道もあり、がたがた道はまるでトライアル競技のようで、危険の上ない。これらも保線作業に利用されているらしい。

やがて行く手の山腹に白い小屋が見えて来た。天池山荘到着である。

小屋は新しく清潔で感じがよい。室内は炊事場と二段ベッドの部屋三室に分かれ、トイレは別棟が建っている。すでに高嶺の若者たちのグループが20人ばかり到着していて、私たちにお茶をすすめてくれた。

ひと休みして能高北峯に登りに行く。縦走路は北峯の山腹を巻いているので、きょう中に登っておくことになる。小屋の背後からササのなかの道を天池林に登りつく。北には奇萊連峰の南峯から主峯への稜線が走り、南には能高北峯の稜線がのびていた。稜線は30mくらいの低い小ササの草原状で、すばらしい展望が得られる。廬山温泉は深い谷間に沈んでいるが、登って来た山々や高原の村々、茶畑が一望である。縦走路上の能高主峯から南峯が美しい斜面を見せていた。東には立霧大山から太平洋までも望まれた。

北峯の三角点は最高点を通り過ぎた少し低い地点にある。

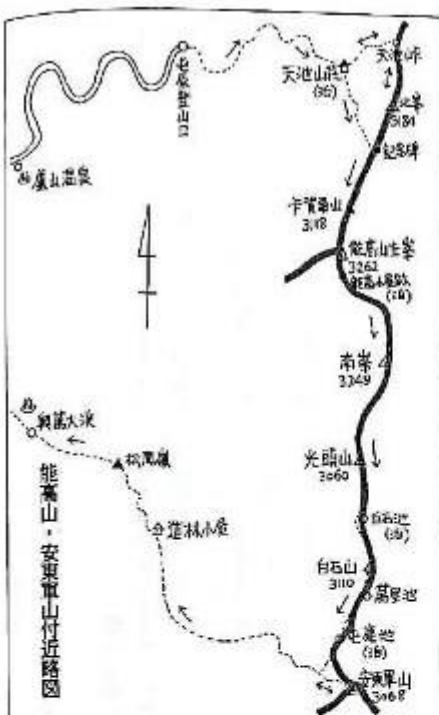
夕食はカレー汁や野菜の煮つけ、米粉等。山では御馳走が並んだ。料理を担当したボーターはヒマラヤ登山にも同行したというベテランで、この後も毎回おいしい物を食べさせてくれた。

西に真つ赤な太陽が沈むと、東から満月が顔を出した。小屋では花蓮の小学校長だという男と登山取材のテレビカメラマンたちと、片言の日本語で話ができた。札幌の人たちはお酒が強く、大量に担い

で来ていて、この後もお相棒にあずかった。

翌朝は快晴、気温は12度。朝食のお粥は気圧のせいであまり固かったが、おいしかった。

北峯の山腹を登く道は水平で、幅も広くタイヤの跡が着いている。峠には「光被八表」の大きな記念碑が建っていた。この石碑は故郷介石総統の墓になる「利海民生、光被八表」の文字が刻まれ、登山口からも見えていて、いったい何なのかと、興味を持っていった。碑の少し先で



高圧線が峠を乗り越して花蓮港にくだって行く。見下ろす東海岸は思ったより近く、町並みの先に海が輝いていた。高圧線と共にパイク道もおりていた。

パイク道と分かれ本格的な登りにかかる。カ賀山に登り着くと目前に能高山峯が大きくそそり立つ。樹林のない縦走路は山頂まで一望で、先行する若者たちの姿が点々と見える。だいたい汗を絞られそうだが、ザックが肩に食い込む。寝袋まで推いで急登は久しぶりであった。

あまり広くない主峯山頂には二等三角点があり、日本統治時代に設置され、360度何一つ遮るものもない展望が広がる。明日登る巨匠の南峯の垂直に近い壁が気にかかる。縦走路のやせた尾根は南峯の壁で行き当たり、登陸をその先にくら探しても見つかることができない。いったい道はどこを登っているのだろうか。全員でいろいろ探してみたが、登路らしい所は見つけられない。見ているだけで体が緊張するのを感じた。さらに稜線は長々と続き、その先に最終目的の安東軍山が小さく見える。はるかに玉山連峰が霞むふり返ると遠く雪山山脈。その前には白姑大山。稜線のかなたには奇岩連峰から立霧大山。昨夜泊まった天池山荘が白く小さく光っていた。

ントを設営しているのが手にとるように見える。今回の山行のメインの能高山主峯は、苦しい登りであった。が、期待を裏切らないすばらしい山であった。

能高山の八合目くらい。稜線の小さい窪みのテント場には、プレハブ小屋の鉄骨と鉄板が散らばるだけで、すでに小屋は跡形もない。

この水場は暑い。その上少し濁っていてそのままでは飲料に適さないの、煮沸して使用した。

昨夜の校長たちがイタチのような動物の皮を剥ぎだした。訊ねると、昨夜小屋

近くで捕まえたそう、名は「黄鼠狼」と書くとか、煮つけて食べていた。今夜も月がこうこうと輝き、風がひたひたとテントを揺らしていた。

明けて3日目。朝はも度、風が少し強い。高度計は3115mを示している。南峯の壁に向かって稜線をたどる。道は徐々にやせて狭くなっていく。南峯はどこを登るのかと興味津々だったが、何と先行する人たちは草付きの壁をそのまま直登して行く。両側のヤサをしっかりとつかみ、路面を踏み外さないよう注意しながら登る。その場になってみると、そ

れ程危険は感じないが、何しろ急なので、両で息をしながら一歩一歩の上になっていくようだ。登りついたら南峯の山頂は主峯より高いが草原状のおだやかさで、主峯同様の大展望が得られた。

能高山脈は台湾海峡方面が急な岩壁になっているが、太平洋方面はおだやかな小ササの台地状で、この先の縦走路はもう険しい所はなく、はるかに安東軍山まで草原状の山並みが続いていた。そうは言ってもまだまだ先は長く、幾つものピークが待っている。

山と高原地図シリーズ

定価750円(税込)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ※ 村松・真白・朝田 河津(4冊 行予定) | 35 白馬山アルプス |
| 1 ニセコ・羊蹄山 | 36 黒岳・黒部峡アルプス |
| 2 大雪山・十勝岳 | 37 越前・立山アルプス |
| 3 十勝岳(八ヶ岳)・奥山 | 38 上高地・穂高アルプス |
| 4 八ヶ岳(八ヶ岳)・奥山 | 39 安曇野アルプス |
| 5 奥野・早池峰 | 40 御嶽山 |
| 6 奥野・早池峰 | 41 中央・南アルプス |
| 7 奥野・早池峰 | 42 木曽野・木曽アルプス |
| 8 奥野・早池峰 | 43 甲斐野・北南アルプス |
| 9 奥野・早池峰 | 44 奥野・赤石・奥南アルプス |
| 10 奥野・早池峰 | 45 奥野・早池峰 |
| 11 奥野・早池峰 | 46 奥野・早池峰 |
| 12 奥野・早池峰 | 47 奥野・早池峰 |
| 13 奥野・早池峰 | 48 奥野・早池峰 |
| 14 奥野・早池峰 | 49 奥野・早池峰 |
| 15 奥野・早池峰 | 50 奥野・早池峰 |
| 16 奥野・早池峰 | 51 奥野・早池峰 |
| 17 奥野・早池峰 | 52 奥野・早池峰 |
| 18 奥野・早池峰 | 53 奥野・早池峰 |
| 19 奥野・早池峰 | 54 奥野・早池峰 |
| 20 奥野・早池峰 | 55 奥野・早池峰 |
| 21 奥野・早池峰 | 56 奥野・早池峰 |
| 22 奥野・早池峰 | 57 奥野・早池峰 |
| 23 奥野・早池峰 | 58 奥野・早池峰 |
| 24 奥野・早池峰 | 59 奥野・早池峰 |
| 25 奥野・早池峰 | 60 奥野・早池峰 |
| 26 奥野・早池峰 | 61 奥野・早池峰 |
| 27 奥野・早池峰 | 62 奥野・早池峰 |
| 28 奥野・早池峰 | 63 奥野・早池峰 |
| 29 奥野・早池峰 | 64 奥野・早池峰 |
| 30 奥野・早池峰 | 65 奥野・早池峰 |
| 31 奥野・早池峰 | 66 奥野・早池峰 |
| 32 奥野・早池峰 | 67 奥野・早池峰 |
| 33 奥野・早池峰 | 68 奥野・早池峰 |
| 34 奥野・早池峰 | 69 奥野・早池峰 |

※ 昭文社の「山と高原地図」は年々増版として毎年増版発行されます。この山の期はなるべく最新版をご利用ください。また、昭文社の「山と高原地図」への著作権、ご自身がごさいましたら、昭文社「山と高原地図」担当までお気軽に右欄までご連絡ください。また、新情報等お知らせいたします。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3262)2141(代) 102-8238

支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(303)5721(代) 532-0011

営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・新潟
金沢・静岡・名古屋・京都・広島・福岡



安東軍山

とる。この水も溜まり水で濡れが必要だ。日差しは暑い、日陰はひんやりと涼しい。草原状の光頭山に登る。小学校の校長とテレビカメラマンは、ここから東にのびる線路上の、台湾原住民居住地と言われるばたん岩を取材するために、縦走路から分かれて行く。彼らはまた縦走路に戻ることだが、私たちはより一日遅れになるだろう。

光頭山(知聖千山)は特徴もない山だが、それでも台湾百岳の一つで、3等三角点がある。行く手にはきょうの泊まり場の白石池が大きく望まれた。

平坦な草原のなかの白石池は思ったより広く、透明な水を清々とたたえていた。注ぎ込む沢も見当たらないから、地中より湧き出しているらしい。我々は二日ぶりに思う存分喉を潤し、顔を洗った。水の豊富な泊まり場は身も心も休まる。今夜も月光の下で晚餐が始まる。日本人は食事の前に飲むのだが、中国人は食事の後で飲むので、タイミングが合わない。それでも楽しい夜が更けていった。テントの中は夜も月の光でほの明る。すぐ側で何回も鹿の声を聞いた。池は動物たちの水場にもなっている。

きょうも快晴。テントを出ると台湾の人たちの姿は一人もなかった。普通のコースでは、きょうは安東軍山に登って下の沢のテント場まで下山するのだが、昨日ばたん岩に行った校長先生たちを待ためらしく、もう一泊余計にとって屯鹿池泊まりと、半日行程になっていた。お蔭で出発はゆっくり、途中の休憩も長く、我々は少しいらしたがるが、それもガイド

ドまかせでは仕方がない。きょうはのんびり山行である。

白石池から白石山に登ると今度は萬里池に急下降。湿度はすでに30度を越えている。水は透明だが、ちょっとそのまま飲むのはためらわれる。長い休憩の後、ゆっくりと登り返すと、屯鹿池の泊まり場に到着した。ガイド一人を殺し、ザックを置いて軽装で安東軍山に向かう。そのまま縦走路を南下し、下山口の三差路から山頂に向かう。安東軍山も名前のわりにはおだやかな草原状の山で、簡単に山頂に立つことができた。ここには日本統治時代に設置された一等三角点があり、私の今回の山行の一番の目的は、この三角点の頂上に立つことであった。

本来この三角点に到着するには、どこから登っても山中だけで2泊3日が必要で、どこから登ろうかと思索していた。できれば能高山脈縦走で登ったほうがすばらしく、安東軍山は付録のような位置にある。今回の計画を知って、グループに参加させてもらった。グループの人たちも私の意志を知っているの、三角点では大いに賛同してくれた。それにしては、もはや遅いものがある。

屯鹿池は名の通り鹿の多い所である。夜、外に物を置いておくと、靴まで持っていくられるそうで、全部テントに持ち込んで寝る。夜は頭の上で何回も鹿の鳴き声がした。

きょうは下山の日である。もともとまだ途中で一泊が必要だが被褥からはおさらばだ。今朝は冷え込んで寒暖計は12度を示し、テントの中は自分たちの息で真っ白になっていた。

昨日行った三差路から尾根をくだる。二便と見ることのない安東軍山にきょうを告げる。道は逆落しの上り坂だ。きょうは1400mほどのくたまりが待っている。しかし、くだりともなると足も軽い。やがて水音が聞こえてきて沢の源流にたどり着いた。通常はここで泊まりとなる。

道は沢に沿って降りたり上りしながらどんとどんと下り、やがて広大な萬大溪の河原に降り立った。幅200m、300mほどの河原は、石と砂で埋まり、強い風が吹き抜ける。先年歩いたネパールのプリカンダキ河の強風を思い出した。道は支流を渡って積木のなかに入る。林のなかには日本と全く同じである。やがて鉄板張りの荒れた作業小屋が現れると、ガイド

がザックを下ろした。きょうの泊まり場の造林小屋到着である。荒れて傾いた床だが、テントよりは広々として落ち着けそう。個々の文流で体を洗う。清流を喉いっばいに流し込んでよく見ると、何と、おたまじゃくしがたくさん泳いでいた。夜、小屋の周りを登が飛び交う。自然の徴を見るのは子どもが喜びだ。今日は月明かりがすがすがしく、台湾は南国である。標高も下がって暖かい。残り少ないウイスキーを分け合って最後の夜を楽しんだ。

きょうは半日で下界に帰れる。最後だといつもよりかえって早い出発となる。しかし、車の待つ萬大溪の発電所までは、400mほどの松風橋を乗り越えねばならない。もう登山は終わりの思っている身にはこの登りはつらい。やがて観光客の姿が見えだし、吊り橋を渡ると萬大溪公園で、山行は終了となった。待っていた車で薪の町に戻り、食堂で酒杯を上げる。数日ぶりの料理はおいしく、ビール・紹興酒がどんと空になった。ほろ酔いの私たちを乗せた車は一路台北に向かった。(平成9年11月歩く)

☆コースタイム☆

- 第1日 大阪⇄台北(泊)
- 第2日 台北⇄台中⇄埔里⇄霧社⇄廬山温泉
- 第3日 廬山温泉⇄屯原登山口(1時間30分)雲海小屋(3時間30分)天池山荘(1時間20分)能高北嶺(1時間)天池山荘(泊)
- 第4日 天池山荘(45分)記念碑(2時間)卡賓爾山(1時間50分)能高主峯(15分)能高小屋跡(30分)能高小屋跡(3時間50分)能高南峯(2時間30分)光頭山(1時間)白石池(泊)
- 第5日 白石池⇄白石山(1時間50分)白石山(1時間)萬里池(1時間10分)屯鹿池(1時間20分)安東軍山(50分)屯鹿池(泊)
- 第7日 屯鹿池(30分)三差路(1時間10分)溪底(4時間30分)造林小屋(泊)
- 第8日 造林小屋(3時間40分)萬大溪公園⇄薪社⇄台北(泊)
- 第9日 台北⇄大阪

滝山から岩阿沙利山・音羽

秦 康 夫

楊梅の滝



おかげで雄滝へ簡単にに行けるようになったのはありがたい。道なりにくだると雄滝の少し下流に出た。岩壁に對岸に渡って撮影ポイントを探し、足場を注意しながら記念写真を撮る。

水量はそう多くないので、下から見上げてみると威圧感はないが、流急近くへ行くと水しぶきが降りかかり、清涼感を通り越して寒気がするほどである。

おりてきた道を少し戻ると、右に小道が分かれている。少しの急坂を登り、あとは等高線に平行する平坦な道をたどって、涼峠への登山道に出た。すぐ近くに滝を遠望するのに絶好の岩があり、ここで小休止。

涼峠への道は尾根の両側に付けられている。九十九折れのなかなかの急坂だ。昔の老刈り唄を紹介する立て看板なども

網を渡れば涼峠への登山道となるが、楊梅の滝へは、指導標に従って橋の手前から右に折れ、急な石敷きの段々を登る。谷沿いの危険箇所には手すりの付いた木の橋があり、5、6分で雌滝に出た。落差は15メートル。目当ての雄滝（落差40メートル）へは、岩を伝って右岸へ渡り、雄滝を高捲くように急な坂道に入る。

すぐ道が二つに分かれ、右へおりの道は流れを渡って左岸から行く岩登り気味の滑りやすいコース。従来はこの道しかなかったが、今は流れを渡らなくてもよい道が、右岸沿いに整備されている。

金属製の立派なハンゴが現れた。まだ新しいものだ。この三十三段のハンゴの

比良山系の最高峰は武奈ヶ岳（1214メートル）だが、では比良随一の滝は、といえば楊梅の滝（楊梅の滝ともいう）を挙げることが多い。私などは、明王谷の三の滝がその豪快さにおいて断一だと思うが、五段の滝からなる楊梅の滝の落差合計76メートル、県下一ということになっているようだ。

前回、予定外のルートをとって、楊梅の滝をパスしてしまったので、きょうは始めに滝を鑑賞してから縦走路に出るという行程にした。

総勢23名が、JR北小松駅を8時30分に出発。広い舗装道路を20分ほど歩くと「懸え橋」と名付けられた分岐点に着く。

見られ、地元の心遣いがしのばれるが、左のクシヤマ谷に一気に落ち込む危険箇所もあり、注意して通行する必要がある。

両サイド岩むき出しの、細い廊下状の所を通過すると間もなく涼峠に着いた。程巨湖大橋から湖阿アルプス方面の展望がよい。ここで道は三方に分かれる。右上への道はすぐ急なくだりに転じ、楊梅



涼 峠

の流の上流、シシガ谷へおいて行く。左の道はヤケ山へ、寒風峠へは真ん中の道をとる。

くだり気味の道はすぐ沢に近づく。石の橋を渡ったあたりから、小さな水流が何度も道を横切るようになり、ジメジメした湿地帯の様相を呈してきた。オトシと呼ばれる地域の一角に入ったらしい。オトシとは変わった呼び名だ。このあたりに生息する鹿や猪が水場にくるのを狙って、落とし穴のような罠でも仕掛ける猟場になっていたのかも知れない。

登山道のあちこちに吹くササユリに出会うごとに、女性たちの歓声が上がり隊列が活潑する。白い清楚な姿に似合わぬ妖艶な香り。目を閉じて、うっとりした表情で匂いを嗅いでいる男性もいたが、花街の脂粉の香りでも思い浮かべているのだろうか？

きょうは寒風峠までは行かず、オトシのなかを通って直接、滝山へ出る計画になっている。古い石柱の標識を過ぎ、涼峠から約10分ほど歩いた頃、灌木を透かして右に長方形の岩が見える。われわれは長石と勝手に呼んでいるが、4、5人がその上でゆっくり座れる横長の大きな

岩である。ここが滝山へのルートの入り口になる。

長石を乗り越えて（または回り込んで）オトシに突入。じとじとした地面をそろりと通り抜けて東に向かうと、踏み跡程度の細い道が現れる。そのまま行けば小さな沢を横切ることになるが、滝山へはその手前で左に折れ、沢の右岸に沿うように北に進む。

このあたり道はないが、数ヶ月前、このコースをおりたとき付けておいた目印の赤いリボンテープが残っていた。これを利用して北北東方向めざして、小さな沢を三ヶ所ほど横切り、小規模な樹林に入る。踏み跡程度の不鮮明なものだが、細い道も現れたのかと思われる。耳らかな台地に突き当たった。人工の積み石の跡らしきものもある。ここで一服。ルート探しに神燈を使っていたが、破れた感じになったが、時計を見ると長石からまだ10分くらいしか経っていない。

地形がなだらかなので、顕著な谷はないが、まわり一帯を扇形状に取り囲む山々からの水が集まってくるため、細い水路が無数にあり、それらもひと冬越すごとに

流れの標幛を変えようである。落ち着いて眺めるとなかなかよい所だ。静寂を際立たせるせせこぎの音と、時おり聞こえる鳥の音。いつもはぎやかな女性たちの話し声も自然と低くなる。広大な、しかし忘れ果てた大庭園の中にあるような感覚を味わった。

道は積り石跡に沿って右(東)に曲がり、湿地帯というより泥濘地帯のような所を通る。数10分で沢に出合う手前に、北からくだってくる小さな尾根の先端があり、これが滝山から派生する支尾根の一つである。

しっかりと道を北北東に向かって、



ゆるやかな登りが続く。小さなピークを越えて、尾根は東方向に向きを変える。槍の混じる自然林で、足もとには小ササが茂る気分のよい尾根道だ。

尾根ののってから30分弱で、滝山からの登山道に出合った。前回、滝山からおりてきた際、この支尾根に入る道をうっかり見過ごして通過してしまった地点である。少し分かりにくいが一応十字路になっている。左に折れて15分ほどで滝山に着いた。山頂直前で道はササのなかに消えてしまうが、一番高い所をめざして進めば、灌木帯のなかに滝山(703m)の表示板が見つかる。東に少しおりて、疎林のなかの小広場で休憩。

前回来た時グループの女性が本手に囲っておいしギンランに再会できたのは幸運だった。

滝山からは一分足らずで縦走路に出る。北に向かってとんとんくんで行く。10分ほど歩くと扇谷ヶ

岳の標幛があるが、顕著なピークはなく、展望もきかないのでそのまま通過した。その代り、少しくだって縦走路を逸れ、左の山道を入った所に絶好の展望台を見つけた。蛇谷ヶ峰から武奈ヶ岳に続く奥比良の山脈が一望のもとである。眼下には登山起点になる黒谷の集落、畑の集落。十分展望を楽しんで縦走路に戻った。

扇谷の峰から広域林道・鶴川村井原を横切って、いよいよ岩阿沙利山への登りが始まる。標高によると距離は0.5mだが、標高差は約130mある。とにかくジグザグのない直線の急登で、しかも道幅が広く滑りやすい土道なのに、手につかむ木もほとんどない。

息遣いも荒く、大汗をかいて一気に登りきった、といいたところだが、実は途中二度ほど息継ぎのため立ち止まり、やっと岩阿沙利山のピークに出た。時間は11時45分。686・4軒の三角点は縦走路から西に入った所にある。山頂付近は登山者で混雑しているから、縦走路を少し戻り、昼食をとってから、ゆっくり展望を楽しむことにした。

頂上直下には、上に登れる大きな岩が三つあり、なかでも、少し西におりた所

にある岩からの展望が抜群である。地図によると仏岩というらしい。先ほど扇谷ヶ岳付近の展望台から見た景観と同じだが、岩の上からだとは高度感が加わるので、また異なった感慨を味わうことができる。

昼食と展望に時を忘れ、縦走再開は13時過ぎになってしまった。10分ほどくだると八下子という標高があり、小広場になっている。ここから自然林のなかを登って、尾根筋に出るころから大きな岩が目立つようになり、そのうち岩場だらけになってきた。立ちほだかる巨岩の隙をすり抜けたり高松いたり乗り越えたり、縦走路は岩を巧妙に料理して東に走る。このあたり本日のコースで最も楽しい所である。

あとは見過ごしのきかない尾根道がしばらく続くが、音羽山への分岐を過ぎて少しくだると、オーム岩という、また絶好の展望台が現れる。オーパーハンダグ味の広い大きな岩だ。武奈ヶ岳・ツルベ岳から北にのびる奥比良の稜線、最北端にでんと構える蛇谷ヶ峰。ここからの眺めが一番すばらしかった。グループの女性二人、蛇谷ヶ峰まで届けとはかり、「ヤッ

ホー! ヤッホー!」と二重唱のエールを送るが、呼べどおえぬ片想い、こだまの返ってこないのが残念そうだ。

オーム岩からは、ほぼ一本罫子のくだけりが続く。岳山を過ぎた所の薄暗い石室をのぞくと、中に石仏がまつられている。風化した砂地のガレ場ニヶ所を慎重に通過し、岳観音跡におりてきた。数年前、ここのお堂で雨宿りさせてもらった記憶があるが、今は完全に取り壊されて、棚間だったらしい模様の入った腐材の山と、石の灯籠だけがその名残をとどめている。縦走路脇のおいしい水で喉をうるおし、琵琶湖を眺めながら最後の休憩。

石段をくだり終えると左手に、真っ白のこんもりした砂山が見える。本物の砂丘のように風紋までついている。珍しい光景だ。あとは散策気分を参道をもんびり歩き、音羽の大炊神社到着は16時過ぎ。バス道をJR近江高島駅に向かい、湖西線新快速に乗車した。

終日好天に恵まれ、滝見物、オトシの深索、オーム岩からの展望と、北比良の魅力をも十分に堪能した一日だった。

(京都北山グループ例会・平成10年6月7日歩く)

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発株へ!!



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0371 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(745) 3911・FAX 06(745) 3983
(夜間・電話 06(946) 0816・FAX 06(946) 9044)

☆コースタイム☆
JR北小松駅(40分) 楊梅の滝・雄滝(30分) 滝跡(10分) オトシ入り口の長石(30分) 滝山への登山道出合(15分) 滝山(45分) 岩阿沙利山(50分) オーム岩(50分) 岳観音跡(45分) 音羽・大炊神社(15分) JR近江高島駅
△地形図△
2万5千11北小松・勝野
昭文社「比良山系」
ヤマケイ「比良・北山東部」

連載

カラコルム見聞録 ④ (最終回)

イスラマバードから バンコック、そして帰国

芝野 泰明

パキスタン

第十日目 (晴れ) イスラマバード

カラコルムの終り終わりに近づき、この旅行の二つ目のイベント、待望の「エア・サファリ」である。朝食後、勇んで空港へ駆けつけるが、北部山岳方面は天候不安定視界不良のため中止と宣告され、落胆した。代替に市内観光をという話にも失望から立ち直るにはいたらぬ。

ラワールピンディ(旧市街)のバザールを歩く。徐々に気温が上昇してくるのも腹立たしい。同種の商店が街区ごとに集って大阪のような雰囲気。歩道には露店が連なり、昔なじみの射的遊びもある。ラチス梁型の電柱から分配される何本もの引き込み線と、赤々しい油煙板が空を狭

くする。バザールは人々の熱気と砂埃のなかで生き生きと息づいている。

鉄道の踏切を越え、北の新市街に入ると整然とした都市計画の大道路が縦横に並び、緑の多い静かな佇みである。諸官庁が並び、バザールとは好対象である。民族・伝統文化研究施設は国内各地方の芸術・手芸・服飾などが二ヶ月ごとにテーマを変えて展示され、多民族性を示して興味深い。日本大使館・国会議事堂・大統領府等の前を通り、マルガヒルの鏡の巨大なジャイファイサルモスクを見学する。このモスクは友好国サウジアラビアから贈呈されたもので建設費は明らか



バザールとスズキ

き90馬力。建物その他すべて白い大理石に包まれ、建物内へは料金を支払い鍵を脱いで入場する。安息日の正午にはモスク内だけでも一万五千人、庭を含めると十万人の信者が礼拝できる。最近モロッコに大きなモスクが完成するまでは世界最大を誇っていた。

午後オプショナルプログラムのロータス

フォート見学に14時出発。ラホールへ通じるグラントラントラントラントラントラントバスやトラクタの往來が盛んで、朝夕には大渋滞が生じるそうだ。道路は整備中で舗装済みの所と無い所が交互に出てくる。走行90kmでデイナのバザールに入り、右折してすぐ鉄道の踏切を越え、丘の上の細い道を行くと広い河原に出る。カヘーン川で流れのある箇所はガイドが車からおりて浅瀬と覚しきあたりを徒歩で渡り、車を誘導する。これが二ヶ所ばかりあった。河岸の堤を一気に上がると、ロータスフォートの灰色の長大な城壁が視界を遮るように現れた。

背の高いアシ類のやぶを抜け東門に着く。城壁の高さはゆうに10mはあるうか、その上端が廻の花弁状であることから

「蓮の巻」と名付けられた。周囲は延長5kmもあり、1540年に造られて以来、王と共に移って来た人々の子孫が今も居住し、種族も言語も少し異なるという。東門の脇から城壁へ上ると城門の上には居住可能なスペースがあり、城壁には狭間や石塔としも設けられている。さらに城内を突へ進んでソハール門をくぐる。この門も巨大な石造で圧倒される。駱駝を引き、水煙草具を吊し、斧を肩に担いだターバン巻きの老人が登場した。

門の付近で若い女性の一行に出会う。美人ぞろい。背は高く脚長く容姿華品。ファッション・デザインとそのモデルたちで、グラビアの撮影に来たと思われる。写真撮らせて欲しいと申し出ると、いったんは拒否されたが、

私たちは日本からの観光客で美しいお嬢さん方のお姿をぜひ一枚とお願いと、納得してポーズをとってくれた。女性の髪は黒く量も豊かでクセがない。一般女性の髪は乾燥か水のためか油気が少なく荒れた感じで少し野生的だが、このモデルたちはさすがに職業があつた。このモデルたちはさすがに職業があつた。このモデルたちはさすがに職業があつた。このモデルたちはさすがに職業があつた。

往路を戻ると、パンジャブ平原に陽が沈むところで、真紅の太陽が徐々に地平線に近づき、地上のものをシルエットから闇に引きずり込むように消えた。18時29分であった。日没の速度は1分間に太陽の大きさだけ沈むといわれる。夕食は明朝別途につく東京朝との最後の宴となった。

関西の山日帰り縦走

中庄谷 直著

四六判・二〇〇〇円

新刊

六甲、多紀、京都北山、比良、湖北、生駒、鶴城、金剛、和泉、全48コース。

一日で縦走できるコースを厳選して詳細地図付で紹介。交通機関や所要時間も。

わっさか沢歩き(近畿編) わっさか沢歩き

同人わっさかわっさか沢歩き 四六判・二五〇〇円

大峰、台高、南紀など50沢を進行図付で解説。

大垣山岳協会編 四六判・二五〇〇円

東濃、南飛山山地図付最新情報。全三巻完結

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
075-751-1211 751-8316

アミューズトラベルの山歩き

大峰・和佐又山 美しい樹氷と大峰山脈の眺望 1/31(日) ¥9,900
 小笠原 乳頭山とホエールウォッチング 2/2(火)~8(月) ¥178,000
 西表島縦走と於茂登岳 亜熱帯のジャングルへ 2/12(金)~15(月) ¥138,000
 美ヶ原と霧ヶ峰 富の日本百名山2座へ 2/20(土)~21(日) ¥35,000

新企画! 韓国最高峰 ^{ハンラ}漢拏山(1950m) 登頂3日間
 極生保護のため積雪期にしか山頂を登ることができない山です。装備は軽アイゼン(6本爪)でOK。
 '99年1月22日(金)~24日(日) 特別価格 ¥88,000!!

新企画! 世界遺産登録地2カ所を巡る 中国五大名山
 泰山ハイキングと孔子の故郷 曲阜を訪ねる5日間
 出発日 ①'99/1/18 ②'99/2/8 ③'99/2/22 特別価格 ¥66,000!!

ヒマラヤ大展望プーンヒル(3194m)トレッキング8日間
 白き「神々の座」ヒマラヤ 気軽に楽しめる8000m峰の大展望
 出発日 ①'99/2/10(水) ②'99/3/10(水) 料金 ¥288,000

新企画! カナダ オーロラとナイアガラを歩く7日間
 イエローナイフで夜はオーロラを鑑賞、昼は犬ぞりなどを楽しめます。
 期日 '99年2月12日(金)~18日(木) 料金 ¥268,000

ミルフォードトラックとマウントクックハイキング12日間
 世界一美しい散歩道、ミルフォードトラックとマウントクックを歩く旅
 期日 '99年3月7日(日)~18日(木) 料金 ¥478,000

歩いて回る 首都北京と万里の長城4日間
 北京の市街地をウォーキングし、万里の長城をじっくりと散策します。
 期日 '99年3月11日(木)~14日(日) 料金 ¥77,000

エベレストゆったりトレッキングとホテルエベレストビュー9日間
 ナムチェバザールから エベレスト街道をゆっくりとトレッキング。
 期日 '99年3月27日(土)~4月4日(日) 料金 ¥338,000

阪阪順一氏(医師・登山家)と歩くシリーズ
 ニューゼalandベストハイキング 8日間
 マウントクック、レッドターズ、ペンローモント山をハイキング。
 期日 '99年3月11日(木)~18(木) 料金 ¥398,000

阪阪順一氏 大阪講演会開催! テーマ「健康と山登り」
 ◆期日 / '99/1/22(金)14:00~ ◆場所 / 大阪市上本町 大阪府教育会館
 ◆参加費 / ¥500 但し、弊社メンバーの方は無料です。 ◆お電話でご予約下さい。

国内は総合パンフレット、海外は詳しい資料あります。お問い合わせ下さい。
アミューズトラベル株式会社 電話 06-265-3303
 運輸大臣登録旅行業第1365号(社)日本旅行業協会正会員
 〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3本町三井ビル2号館8F FAX 06-265-3306

第十一日目(晴れ)

イスラマバードからバンコック
 早朝5時 東京雑居を見送る。雷の抜け
 たような空遠感。午前中は自由行動なの
 でバザールをめぐる。バスターミナルで
 自動車を撮る。大型バスや大型トラック
 は日本のトラック野郎の足元にも及ばぬ
 全身緑塗りのものすごい奴で、ベイント
 のないのは車輪のゴムタイヤだけ。走る
 西蔵仏教や回教の寺院並みの華麗さ。ト
 ラックは荷台の廻りに一列に鈴が吊りさ
 げられ、馬車のように鳴る。これに比べ
 るとスズキは少し控えめだが、車の後部
 におら下がる人々が不足分を補っている。
 道路工事人は地方からの出稼ぎなのか現
 場のすぐ横で寝ている。

ラホール行きの早い航空便がとれたの
 で、反省会をラホールのうまい中華料理
 店ということになり、早々にホテルを
 出発した。空港でドライパーと別れる。
 連日の安全運転の労をねぎらい幾何かの
 贈礼をする。ロビーで搭乗案内を待って
 いると、突然重音が轟き桶裏が走り、激
 しい夕立が来た。ラホールからの便が到
 着しなければ出発できない。出発は2時
 間遅れ、そして次々と変更されてついに

20時45分まで6時間30分を待合室で過
 すはめになった。そのためラホール23時
 50分発の便まで時間の余裕がなくなり、
 結局ナヨナラパーティどころか夕食さえ
 お預けになり、空港ロビーでクッキーと
 清涼飲料でしのいだ。機内後提供された
 飲物と機内食、そして乾天の慈雨のよう
 なビールとウイスキーで生気をとり戻し、
 睡眠に入る。時計を2時間進める。

第十二日目(晴れ)

バンコックからわが家へ
 定刻6時バンコック着。またまた3時
 間のつらい出発待ち。空港ロビーは八年
 前よりずいぶん拡張され、食堂・宿泊所・
 美容院も設けられたが、ショッピングコ
 ナーは変わらず、目新しい品物も見当た
 らない。定刻9時10分離陸。時計を2時間
 調整。朝の機内食をとって眠り、昼の機
 内食を食べて眠り、もう横というところ
 で関西空港へ着陸した。

お互いに旅の間の親交を謝し、健康を
 祝福して解散する。
 自宅の玄関を開いた途端、鼻をつく
 カレーの芳香。即食連続カレー攻めの最
 後の締めくくりであった。(了)

KOBEの登山専門店

手作りザックの店です。
 心ときめき、背負い易いザックです。
 トレックオール45



- 2~3泊の小旅行から本格的な山歩きに
対応出来るオーソライティモデル
 - フロントにメッシュポケットと大型ポケット
 - 前面には片面はスルーポケット、片側はインサイドポケット
 - 両サイドに大型ラウンドポケットコンプレッションベルト
 - 角度調節可能なインサイドフレーム内蔵
- カラー ベージュ×ネイビー、ベージュ×ワイン
 ベージュ×モスグリーン
 サイズ 45L 重量 1,700g
 セイブ 15×35×70cm
 素材 東レセルヌパン
 価格 ¥15,500(税別)ハイ価格

登山シーズン到来
 新雪・樹氷・雪けむり
 ストック・アイゼン・輪かんしき
 雪山ハイキングの
 準備は大丈夫ですか?

IMOCK
 神戸ザック
 〒210 神戸市東灘区大塚町1丁目3-1
 TEL(078)621-0851
 FAX 671-2228

東北と北海道の山旅

坂井久光

昭和60年7月13日、日本山岳会北海道支部の例会が留萌山地の主峰・男寒別岳(1491m)であることを会報で知った。札幌に行き一泊して、事務局長の平野氏、支部長の山川氏、棚田源子女史やアメリカ人の女性2名ほか、各地から集まった多数の参加者と登った。長い行程を虫に悩まされながら登頂した。お花畑で高山植物を愛で、棚田さんお点前の玉露をいただいたり、各人持参の飲みものや食べものも多くなって楽しいひとときを過ごした。下山後、山麓の山小屋で盛大な宴会を開いた。

翌7月14日、深川市の田中利一宅に引き泊りしてもらった。近くの三頭山(1100m)を登る。

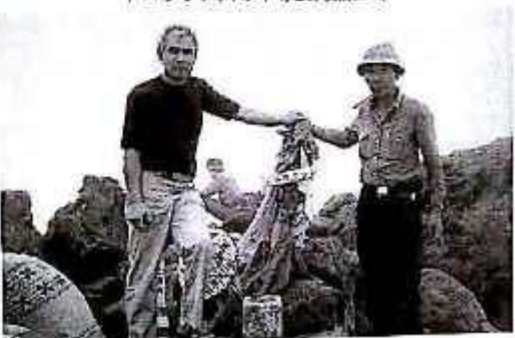
再来日し、沼津市で英語教師をしてい

る。旅館に行き、日本山岳会員の橋田春男氏の案内で大干山(1073m)に登った。下山後、山麓の知内温泉に入浴してから別の車で湯の里に送ってもらい、彼と別れ、江差町の民宿で一泊した。翌20日、フェリーで奥尻島に渡り、航空自衛隊に電話して神威岳(976m)に隊員の案内で登頂した。下山後、島内の一等三角点首尾も探訪してからフェリーで江差港へ戻った。札幌に出て、まず定山浜温泉までバスで行き、山本ホテルに荷を置き、バスで豊田ダムの登山口に行き冷水沢コースをとって札幌岳(1393m)に登った。展望広大、付近は苔野で、奥・南面は断崖となっている。仕路を下山して山本ホテルで一泊。翌日バスで、新緑温泉へ。スキー場へ行き、リフト沿いに奥内山(620m)へ登ったが、第一リフト終点からは道がなく根曲竹のやぶこきりで、わずかの距離に汗を一斗くらい流す始末で、登り着いた山頂はゴルフ場になっており、バカらしくてへなへなと腰を下ろした。ゴルフがクマかと思っ

てびっくりしたとか。しかし、展望は良く、眼下に洞爺湖や羊蹄山、西に内浦湾を眺めた。ゴルフクラブの喫茶店のコーヒーで喉をうるおして下山した。旅館で一泊して翌30日、バスでオホソレ峠を越えて登別温泉へ行き、小さい宿を見つけ荷を預けておく。バスで東室蘭に行き、厚岸線で留芽台温泉の登山口に行き、室蘭岳(登別岳・912m)に登った。山小屋の老人は「今年今西博士も来られた」と言う。前泊名簿には今西さんや持子さんの名も記載してあった。山頂には遊難碑と釣り鐘があった。境内へくんだり、バスで登別温泉へ戻り一泊した。翌8月1日、国鉄で新津へ行き、バスでトムラウシ温泉へ入った。平日だが町営宿舎は満員だった。宿舎で富士宮市の熊沢さんと知り合って、翌2日、午前中に二人で出発した。カムイ天を登って沢を登り、雪沢を登ってお花畑や美しい池塘を見ながら、ガスに包まれたトムラウシ山(2141m)の山頂へ着いた。岩盤帯にコマクサが保護されてたくさん咲いていた。宿舎でもう一泊し、翌3日バスと国鉄で札幌から小樽へ出て、新緑行きのフェリーで帰京した。

8月16日前山から立山(雄山・2998m)

トムラウシ山の1等三角点にて



れ、3等三角点であったのにはびっくりした。

下山後、阿寒湖畔のユースホステルに投宿。途中知り合ったドイツ系アメリカ人・フイリップ君と翌23日、雄阿寒岳(1371m)に登り、24日は阿寒富士(1476m)に登頂するなど親交を深めた。彼はミネソタ州出身で、日本巡遊中であつた。以後も交友が続いた。のちに

は良く、眼下に洞爺湖や羊蹄山、西に内浦湾を眺めた。ゴルフクラブの喫茶店のコーヒーで喉をうるおして下山した。旅館で一泊して翌30日、バスでオホソレ峠を越えて登別温泉へ行き、小さい宿を見つけ荷を預けておく。バスで東室蘭に行き、厚岸線で留芽台温泉の登山口に行き、室蘭岳(登別岳・912m)に登った。山小屋の老人は「今年今西博士も来られた」と言う。前泊名簿には今西さんや持子さんの名も記載してあった。山頂には遊難碑と釣り鐘があった。境内へくんだり、バスで登別温泉へ戻り一泊した。翌8月1日、国鉄で新津へ行き、バスでトムラウシ温泉へ入った。平日だが町営宿舎は満員だった。宿舎で富士宮市の熊沢さんと知り合って、翌2日、午前中に二人で出発した。カムイ天を登って沢を登り、雪沢を登ってお花畑や美しい池塘を見ながら、ガスに包まれたトムラウシ山(2141m)の山頂へ着いた。岩盤帯にコマクサが保護されてたくさん咲いていた。宿舎でもう一泊し、翌3日バスと国鉄で札幌から小樽へ出て、新緑行きのフェリーで帰京した。

8月16日前山から立山(雄山・2998m)へ。当時点燈は破損されて神社の隣にあつたが、のちに右書きの標石が新設されている。その後、唐松岳・五重岳・奥島嶺岳・兼岳と縦走し、兼岳岳(3028m)に登って8月22日帰京した。

9月20日大樽屋山(6993m)に登り、翌21日、釈迦ヶ岳(17993m)を塩原温泉から登った。下山後温泉に入り、旅館で一泊した。そして、日光に行き三根岳を登り、次いで谷川岳燧土塚にある高波さんの民家に泊まり、翌日彼の家内で苗場山へ。2145mの山頂には彼の山小屋があり、久しぶりに彼との登頂を喜ぶ。大きな展望を楽しむ、神楽ヶ峰を登って下山し帰京した。

10月には、那須の三本槍ヶ岳(1917m)を12日に単独登頂。下山後、甲子温泉へ行くも後員で、新甲子温泉高原荘で一泊した。翌10日白河駅から二本松駅へ。西のため所温泉の国民宿舎で一泊。翌14日安達太良山(1700m・2等三角点)に登り、下山して福島駅前旅館で前泊。

15日、切針山(1949m)へ。バスで浄土堂に行き、皆は銀池や吾妻小富士へ向かったが、私は一人で山頂へ。展望広

大で、勢陽山や吾妻連峰、那須連山が雲上に浮かんでいた。下山は五色沼から家形山まで歩き、引き返して鉄池を放棄して浄土堂に出て、バスで小野川へ行き上温泉の民宿で泊まった。翌16日は百名山で有名な会津磐梯山(1819m・3等三角点)に登った。稜線でひと休みして弘法小屋を経由して山頂へ出た。大勢の登山者がいたが、川上から登ったのは私だけだった。さすがに展望広大で、安達太良山・一切経山・吾妻連峰・那須・塩原の山々、これから登る猪鹿ヶ岳が見えた。眼下に猪苗代湖・秋元湖・松原湖が絵の如く眺められ、時の経つのも忘れる程だった。昼食後、猪鹿ヶ岳(1404m)へ。約40分で行けた。眼下に建國沼が、北に松原湖が、一切経山や磐梯山が指野の間に見えた。

下山後、バスで会津若松へ行き、流ノ原の三滝旅館で一泊。翌17日小雨だったが、主人の車で登山口まで送ってもらい、七ヶ岳(1696m)へ。雨具を着け、沼の狭く沢筋を登り、ガレ場をザイルで登り急登すると樹木の尾根の直下に着いた。ひと休して進むと西側に廻り込み、ガレ場に出て急坂を岩や木の根を頼りに

踏み跡のルートを登った。巨岩の下に出て北へ廻り込み岩の間をぬって登ると岩壁に出て、小広い山頂に着いた。小祠と1等標石や山名の柱があった。

展望はガスで望めなかったが雨は止んだ。しばらく休んでから北へ良い道を開く。下岳へ。ここもガスで展望は良くなかった。急坂をこけて林道に出てヒッチハイクして田島に出て、バスで芦ノ牧温泉に行き橋畔の宿で一泊した。翌18日大戸岳(1410m)へ。舟子沢コースをとって無線塔に行き、そこからやぶこきで山頂へ。展望は良く北に会津若松市を見下ろし、東に猪苗代湖を、北に磐梯山や猪鹿ヶ岳、吾妻連峰が、南に七ヶ岳、那須連峰、西に会津の山々を見る。天狗の休場・鷹ノ岩を経て下山した。若松から郡山経由で東京へ出て一泊した。

翌19日、信越線で小諸から大羽黒へ。菅原の湯で「一等三角点研究会」の一行と合流した。翌20日、一行は茂来山(1718m・2等三角点)へ。途中浩宮殿下登頂碑があり、山頂で一同万歳三唱後、写真を撮ったりして小憩。紅葉が美しい椎木林を通り、やせ尾根を通って赤羽の頭(3等三角点)に登った。そして地蔵さ

んのあるピークを登り、本日目的の四方原山(1632m・1等三角点)の頂上へ全員が登頂した。朝からの長い山道を無事到着して感激の万歳三唱。小憩後、北側の十匡峠の園道へ向かって下山し、夕刻に林道の登山口に着いた。会員の車で八千穂まで送ってもらい、会員の夫岡・野未さんと二人で小諸に行き、駅前の旅館で一泊した。翌21日、国鉄で中野井沢へ行きタクシーで信州白根山へ。快晴の有料道路を快適に走り、浅間山や広大な六里ヶ原の高原、白樺の林、紅葉の林、牧場を眺光して荒涼たる白根火山へ。百名山の貴族のある巨峰も今や観光地化しており、たくさんの方が登っていた。火

口湖や池沼、展望台を巡って最高点へ。小憩後ケーブル車を経て白根火山駅へ下山し、バスで湯田中へ。電車で長野駅へ出て、金沢線由北陸線で帰宅した。

11月は東北の山旅に出た。12日名久井岳(655m)、13日折原岳(852m)と登り、16日に新雪の姫神山(1142m)を一人で登ったが、三角点は金属標で岩に埋めてあった。18日に室根山(895m)、19日に田東山(512m)に登り、翌日帰京した。(次号へつづく)

〈山のレポート〉①

百名山に想う

稲葉克己

昭和45年、連れられて行った後立山の五竜岳の頂上で見事な青空に魅せられ、山登りを志した。

平成3年3月、定年退職と同時に新ハイキングクラブに加入したら、数多くの人が「百名山」をめざしていることが分かった。それなら私もと思い、それまでに登った百名山を数えたら55座で、それなら何とか達成できるのでないかと思っ

た。

山を志してから二十六年間、百名山を志してから五年二ヶ月の平成8年7月31日、二十三年もあたためていた飯沼本山に登頂して百名山を完登した。そして改めて深田久弥氏の著書「日本百名山」を読み返した。読み返してみても、深田久弥

氏が選んだ百名山とは何であったのかを、いくらかでも知ることができたように思った。

深田氏は百名山を選ぶにあたって、さまざまな想いがあったようだ。選定の基準として、山の品格、山の歴史、山の個性のほかには付加条件として、山の高さを挙げておられる。

さらに、選びたかったけれども登っていないために選ばれなかった山や、その山域での代表として選ばれた山がある。また、後記で「今後、再版の機会があったら、若干の山を差し替えるつもり」と述べておられる。

その意図を考えると、深田氏が試みと

して選定された百名山に登ることは、もしかしらば、選ばれたかも知れない山にも登ることも大切なのではないかと思っ

た。

深田氏が選定の対象にして、選べなかった山を列記すると次の通りである。

- 二百名山の中では、ニベソツ・石倉野原・ベテガリ岳・声別岳・渡島駒ヶ岳・樽前山・秋田駒ヶ岳・栗駒山・守門岳・鳥甲山・女峰山・仙ノ倉山・白砂山・岩倉山・無垢山・船綱山・大無間山・荒ヶ岳・七面山・雲岩岳・針ノ木岳・蓮華岳・毛勝山・奥大目岳・有明山・明苑岳・燕岳・大天井岳・霜沢岳・波ヶ岳・氷ノ山・由布岳・市房山・櫻島山の34座である(深田クラブでは、深田氏の選定を離れて、これらの山々を二百名山として選定している)。

そして、二百名山の中では大笠山、深田クラブ選定の二百名山の中では荒沢岳、一等三角点研究会選定の中ではウベサシケ、登山禁止のため登れなかった山に雌阿蘇岳があり、これらの山も加えると計38座になる。さらに、読み進めていく

と、文章の内容から推察して、次の山も加える必要があるようにも感じられる。

☆ 北海道 奥別岳

☆ 東北 以東岳(朝日所からの縦走で)

☆ 関東 飯倉山(飯倉山)

☆ 越後 牛ヶ岳・割引岳(巻機山連)

☆ 関東 茶臼岳・朝日岳(那須岳山塊)

☆ 中部 地蔵岳・鈴ヶ岳(赤城山塊)

☆ 中部 軽ヶ岳・塔ノ岳(戸沢山塊)

☆ 中部 万二郎岳(天城連山)

☆ 中部 雄山・富士の折立(立山)

☆ 九州 白山(御前峰・大波峰)

☆ 九州 高千穂峰(霧島連山)

☆ 九州 永田岳・黒味岳(久保山塊)

☆ 九州 これらの山を加えて、選定の対象として考えられた山は1500座を超えることになる。

深田久弥 山の文庫1

日本百名山



『日本百名山』(朝日新聞社刊)

また、次の山は双耳峰の両ピークに登ることの必要もありそう。谷川岳・筑波山・奥島槍ヶ岳・水品岳(黒岳)など。

そして、巻機ながら、私が登った山々のうちで、深田氏が選定の対象にしなかった山で、考えられてもよかつたと思われる山を挙げてみると、カムイエクワチカウシ・別巻別岳・赤牛岳・能郷白山がある。

なお、九重山群では中岳と言う人があり、そのように書いてある本もあるらしいが、深田氏の『日本百名山』の本を読むと、久住山のようにある。深田氏が久住山に登られたとき、九重連山の標高は久住山・中岳・大船山の順であったが、後の測量の結果、高さが中岳・久住山・大船山の順に変わったことに原因があるようだ。

この久住山に代表されるように、百名山はどの山か、またはどの峰かということになると入さまざまのようだ。

阿寒岳は雄阿寒岳ということのようであるが、氏は二つの阿寒岳に登る予定であったのに、雌阿寒岳は噴火していて登頂を断念したといういきさつがある。こ

が含まれていないので、実際には301座ということになると思う。

ところで、「百名山を登ったから山登りはやめた」とか、「もう、目標にする山がない」と言うのを聞いたことがあるが、その方々は深田氏の『日本百名山』をつぶさに読まれたのだろうか。少なくとも、深田氏の意図した百名山を考えると、先述したように約1500座の山々を登り終えて、初めて、「百名山を完登した」と言えるのではないだろうかと思っ

た。深田氏が試みとして選定した百名山が氏の意図とはうらはらに、現在は独り歩きしている傾向にあるようだ。山の会でも旅行社でも、氏の意図を十分に読みとらないで企画し、大勢の人を案内していることもあるようだ。

こう考えると、「百名山に登った」とは言っても、深田氏が意図されたように登っておられない方が大勢いらっしゃるのではないかと推測できる。

横走を意味して書かれている。石鐘山のピークは三峰あり、氏は最高峰の天狗岳に登らねばといわれている。霧島山は1700峰と書かれているから韓国岳であると推察できるが、記述の大半は高千穂峰のことについてである。その他の山については粉らわしいことではないようである。

百名山の中には、現在登山禁止になっている浅間山があるが、5月8日の山開きの日には、条件が良ければ登頂できる。

蛇足として付け加えれば、二百名山のうち平成10年現在、登山禁止の山に雄山・櫻島山があり、二百名山元登は無理ということになる。

なお、日本山岳会が選定した二百名山の中には、深田クラブが選定した菅沢岳

のことを考えると、「阿寒岳に登る必要もありそうだ。

八甲田山は大岳だけではなく、縦走することを勧められている。新山には登られていないようだ。

飯倉山は飯倉岳・大日岳・飯倉山を含む連続縦走を勧められている。吾妻山には代表的峰がないと言われているが、記述から推察して、ここは最高峰の西吾妻山でいいようだ。

那須岳は茶臼岳・朝日岳・三木槍ヶ岳を指しておられる。

巻機山はニセ巻機・割引山・牛ヶ岳・最高峰の巻機である。

丹沢山は山塊の中の一峰であり、個々の峰ではなく、全体としての立派さからであるとされていることから考えると、丹沢山だけではなく、塔ヶ岳・睡ヶ岳・松洞丸にも登る必要があるだろう。

富士山は三峰山塊が二つあり、ピークは富士八面と言って八つある。

天城山は1407峰と記されていて、文を読むと天城の中樞部とあるから、万二郎岳と万二郎岳に登ればいいのか、

低山登山～本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの会員証で割引します。



とスキーのヨシミ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231

JR天王寺駅
北山出口右へ
歩道橋渡ってスグ

〈山のレポート〉②

赤布はだれが 何のために付けるのか

西尾 寿一

かなり以前、本誌に「赤布」などを無闇やたらに付けて歩く人のことを書いたが、その後も、この「赤布」問題が決着していないとみえて、「山の本」24号にて長尾和郎さんが、中日新聞の記者欄「発言」に投書されたものうちから賛否両論を数点紹介されている。

長尾さん自身の意見はかなり抑制されたもので、もっと議論しておく必要を提示されているのかも知れない。

登山を二十年以上も続けている人なら標識などの存在はいかなるものかは実践を通じて理解されているのだが、経験の浅い人には、そのところがどうしても理解を超えているとみえて、腑に落ちないようである。従って「赤布」は絶対必

要であり、それを取り去る人がいるのは遺棄者が出た場合には責任問題になる、と押しに近い言葉を投げつけることになるのである。これにも経験者は冷笑するのみである。

こんなことをいつまで続けていても仕方がないので、経験の浅い人たちの理解を超えた部分について可能な限り詳しく説明して理解を求めめる必要があるのではなからうか。

① 赤布(標識)には目的がある
一応ここでは標識一般を「赤布」と表現するが、それを設置する人には目的があるという当然のことが忘れられている。赤布を付ける人は登山者に限らない。測

れる実力が必要なものである。特に下降の場合は……。

救急者のように常に赤布に身を預けるのでは命が幾つあっても足りない。他人の赤布を信じてはならないのである。

③ 自己責任であること

赤布にせよ、踏み跡にせよ、これを利用する場合は、利用者側に責任がある。

例えば、冬山で先行者のトレールがあるとする。これを利用すれば、ラッセルから開放されるので後続は列をつくるが、雪庇がゆるみ後続が転落する可能性がある。あるいは先行者の後を行ったので責任はないと発言したが、これではリーダー失格である。先行者の後を追うのも追わないのも後続の判断次第である。まして先行者に責任転嫁するなど論外である。

④ 都市の道標と同一ではない

都市の道標に近いのが整備されたハイキングコースである。これなど管理者側の責任問題が生じる場合があるが、赤布は全く個人の目印であり、他人の利用を考慮していないから、そのつもりで対応

しなくてはならない。

⑤ 赤布を付けたら自分で回収する

専門家や熟達者の赤布は数が少なく、実在的であるが、経験の浅い人は濃密である。しかも不動産屋の別荘地販売のように派手で始末が悪い。しかも安定セザジグザグを切ったり余計な所を通ったり迷ったりで、これがそのまま放置されているのでは後続は迷惑する。

赤布を付けた人は必ず下山時に回収しておくべきで、他人のために残すなどと放言してはならない。放置されている赤布を回収する人に対して、遺棄者が出たら責任問題などと放言するなどは都市住民特有の感覚で自然には通用しない。

⑥ 実力を超えた山に入っている

実力を超えた所へ踏み込んでいることに気づくべきで、それを赤布のせいにしていないか考えてほしい。本当の実力者なら、赤布がなくても、自分の思う通りの山行ができるはずである。一つしかない命を赤布に託すなどの無茶は絶対やめてほしいのである。

量・山仕事・動植物の調査・講師・工事関係・信仰・流場の進入路・山菜採り・炭焼・絶山調査・環境調査など多岐にわたる人々が、それぞれの目的に従って赤布を付けている。これを登山に利用する場合には、その目的を的確に見定めないとけない。盲目的な利用は危険で命とりになるときがある。

登山のように山頂に至り、また安全に下山ができるためにのみ赤布が設置されているわけではないのである。

② 道に迷った場合 赤布に従っては危険

投書者の言うように「道に迷って赤布に助けられた」というのは、同じく別の投書者の言う「運が良かった」であり、次もまた運が良いとは限らない。

道や踏み跡が突然消える場合もある。赤布をたどって来たのに消えたのでは茫然自失となるが、この場合も赤布の設置者に怒りを押しつけてはならない。その赤布が登山のために付けられてはいなかったからだ。

他人が付けた赤布をたどる場合には、その結果いかなる事態が起きても乗り切

【この花・この草】

スイセン (Muscicapa asiatica, Thunberg)

ヒガンバナ科

清々しい香りが早春の訪れを感じさせてくれる水仙。実青はナースィサス。果面に映る自分の姿に恋するあまり溺死して、水仙の花と化した(ギリシア神話)。彼の名が、いわゆる「ナルシスト」の語源である。

その名を学名に持つスイセンは、世界中に分布し、交配等によって育成された新品種は英国工立園芸協会に登録され、今では一万種を超えている。

スイセンは多年生草本。鱗茎は卵状球形。外皮はこげ茶。花期は冬より早春で、生薬としては、鱗茎を6~11月の休眠期及び栄養期に掘り上げ、切片にして生で用いる。アルカロイド(リコリン・タセツテン)、揮油、フラボノイド配糖体、スイセングルコマンナン等を含有。

中国では活血調経薬として月経不順にも用いるが、ヒガンバナと同様に、アルカロイドは有害であるため服用は危険。外用として生のまま擦り下ろしたものを腫れ物、耳下腺炎等、患部に直接貼って用いるが、肌荒れを起こしやすいので長時間は使用しない方がよいでしょう。

信楽道を歩く

紫香楽宮を繋ぐ古道探索 (貴生川駅～信楽駅)

コースとコースタイム JR東海線貴生川駅(30分)①総社神社(1時間30分)②瑞心山(1時間)開成寺(30分)③信楽宮跡(30分)④信楽寺(30分)⑤日吉神社(50分)⑥天竺神社(20分)⑦正法寺(30分)⑧新宮神社(40分)信楽宮跡(30分)貴生川駅(徒歩約16分)

企画・先達 武蔵善一郎氏

中村敏文

勸請(こうぎん)総社(そうじ)や、真夏の麦酒作りの神事は盛大に行われ、末社津島神社の花笠をつくる祇園祭もめずらしい。

総社神社前の信楽道には庚申山への石標が立ち並び、庚申道とも呼ばれる。信楽道は国道と分かれて牛飼の集落を抜ける。柴林寺・立泉寺前を通り、総社神社から半時間も歩くと再び国道と重なる。



立泉寺前を通り、総社神社から半時間も歩くと再び国道と重なる。信楽道は左へ

分岐し、若宮神社の前を過ぎると国道と交差する。国道を横切り、信楽宮跡(信楽宮跡)を下をくぐり抜けると庚申山(瑞心山)を北西へ廻り込み、小野村へのゆるい坂道を半時間余り上がる。

② 瑞心山広徳寺(水口町山上)



山上庚申、広徳寺

小野村から10分ほどくだり、庚申道は左へ分岐して標高407mの庚申山(瑞心山)へ向かう。雑木林の山腹を上る庚申道は、山頂まで車道に整備されていて歩くとき半時間ばかりかかる。

山頂には山上庚申、瑞心山靈苑と号する広徳寺がある。延暦二年(783)に最澄が開いたという曹洞宗の五辻宮が金剛童子ヶ峰で、北朝方の京極氏との戦いに敗れた記録が残っている。寺伝によると、文禄二年(1593)

① 総社神社(甲賀郡水口町牛飼)

貴生川駅から少し西北へ歩き、左折して南へ向かい袖川を渡ると、旧街道筋に町屋が並び郵便局などがある三本柳に入る。国道307号線に入り、信楽高原鉄道を越えると総社神社がある。室町中期の棟札に総社大明神とある社で、正月の慶を信楽道が通じている。

に山上村の藤左衛門が飯食を譲りて貞徳の製法を感得し、江戸初期に京都で貞徳製法に成功した。巨富を得て庚申堂等建立し、その後、藤左衛門の成功にあやかり貞徳元祖の寺といわれ、金物商人の信仰を集めた。江戸末期には三郎金物屋中が本邦貞徳祖神として多くの道標を参道に建立している。



紫香楽宮跡(水口町)

現在は西北にある684mの瑞心山(瑞心山)と比べ登山者は少ないが、西側の車道のはかにも東側の山上集落から1kmの山道が通じている。山頂の展望台も整備され、北方の水口の町並みが眼下に見渡せる景勝地となっている。住職の愉快な寺の話も聞いて下山したが、15分で信楽道までくだれた。

③ 信楽鉄道

事故遺蹟(信楽町) 庚申道から信楽道に戻り、10分も歩くと小野地蔵が道端にまつられ、高原鉄道が右手に並行して走る車の多い国道と重なる。国道を1kmも歩くと左へ外れて東海自然歩道に入る。地道の歩きやすい快



紫香楽宮跡(甲賀郡信楽町牛飼) 慰霊碑から少し南へ歩き、サファリー博物館前から右折すると、10分程で内裏野または寺野といわれた小丘陵の紫香楽宮跡の跡に入る。大正十五年に国の史跡に指定されたが、昭和五年からの発掘調査で寺跡と判明した。東大寺式の伽藍配置の寺院遺構で、南から中門・金堂・講堂が南北に並び、金堂と講堂の間の東側には鐘楼、西側には経蔵跡が確認された。金堂の東には塔院があった。東西106m、南北115mの寺院遺構は近江国分

分岐し、若宮神社の前を過ぎると国道と交差する。国道を横切り、信楽宮跡(信楽宮跡)を下をくぐり抜けると庚申山(瑞心山)を北西へ廻り込み、小野村へのゆるい坂道を半時間余り上がる。

新ハイキング選書

一等三角点は、山のダイヤモンドだ。それぞれの山の上で輝いている。新ハイキング社刊行のシリーズ3冊で一等三角点の山280座がそろそろ。全巻そろえたい

◀第9巻▶

一等三角点の名山100

安藤正義／市川静子／多摩雪雄
／高田弘平／松本 浩 共著

日6判・336頁・定価1632円(税込)

100山すべてコース図と写真入りで実用性が高い。新ハイキング社の一等三角点の本は、どれを見ても良い山が多い

◀第18巻▶

一等三角点の名山と秘境

安藤正義／多摩雪雄／高田弘平
／松本 浩 共著

A5判・340頁・定価1835円(税込)

全国一等三角点の地方別の配置図と全国の一等三角点の総覧が付いている。一等の山100座を紹介。地図が大きく見易い

◀第20巻▶

一等三角点の山々

山口ゆき子／横山 隆／高柳生雄
／川越はじめ／岡村美邦 共著

A5判・310頁・定価1680円(税込)

一等三角点の山シリーズ、280山の総索引と高度順一等三角点100座が付いている。80座を紹介、有名な山が多い

振替 00130-9-146915
(送料当社負担)

発行所 **新ハイキング社**

〒144-0023 東京都北区滝野川7-6-13
TEL/FAX 03-3915-8110



玉桂寺

熊を留めた鎌倉時代の石造五輪塔と、平安・室町時代の阿弥陀如来像二体は重文である。樹木の多い境内に群生する

高野朝は滋賀県天然記念物で、溪流大戸川の吊橋を渡れば玉桂寺前駅も近く、信楽鉄道の近江保良宮ゆかりの寺として休憩場所によい。

⑧ 玉桂寺より大戸川右岸沿いに西へ1.5ほど歩き、再び大戸川沿いに1.5も歩くと信楽駅へ8分の駅前通と交差する。丸辰製陶前で右折して信楽町役場、伝統産業会館前を直進すると新宮神社へ着く。

⑨ 新宮神社(信楽町新宮)
信楽駅より10分余りの町中に鎮座する長野の氏神は明治初年に遷社となり、素盞鳴命・稲田姫命・大山津見命をまつる。延暦二年(784)創建の古社である。中世には近江守渡佐々木一族の崇敬を得

て安泰。江戸時代からは信楽焼の中心地長野に大・中・小・分の宮座を組織して祭祀する。

経済力のある信楽焼関連の町衆と律儀な周辺の農家に守られた社は、隅々まで千人れが行き届き宮座の建物も一部が残る。寺として文安5年(1448)銘の駒口と室町時代の狛犬などがある。

新宮神社から産業会館へ立ち寄り、信楽陶芸村入場をあらかじめ、伝統会館をのぞいたのち、信楽駅から信楽高野線鉄道で貴生川駅へ半時間の乗車となった。

現在、この寺跡遺跡は国史跡の兼香楽宮跡として小社を建ててあるが、出土遺物の瓦の鑑定では、奈良時代から平安中期の特徴を示すもので、当初この地に建立されたのが甲賀寺か近江国分寺か、または兼香楽宮廃止後に寺院が建立されたのか不明である。

『続日本紀』の天平十五年(744)条に、聖武天皇が甲賀郡兼香楽村に離宮の造営を開始し、その後離宮を皇都として造営を継続し滞在していた記事がある。天平十七年4月に真木山・東山と二回も火災が発生し、4月末と5月1・2・3日の連続地震の災害と余震を恐る懼い、5月5日に恭仁京に移り甲賀宮留守居を任命して降都となる。

昭和五十九年以来発掘調査が継続されている黄瀬の北方2.5の宮町遺跡は、東西の幅400尺、南北350尺に及んで九棟を越える建物跡や溝・土壇が発出されている。

⑩ 天神神社(信楽町新宮)
勅旨に滞在中の淳仁天皇の天平(玉宇五年(761))の勅願によって、高皇産靈

宮跡から信楽道へ戻り、南下して左手に国立療養所を見て國道を横切る。雲井小学校の左側沿いに南へ行くくと雲井駅がある。築路沿いに10分も行くくと右手の永仙寺と相対して左手に日雲神社がある。

倭姫命が崇神天皇の命で天照大神の鎮座地を求めて遊行中に四年間滞在した地で、その頃に社が創始されたが、江戸時代は牧・黄瀬・宮町の氏神で天神社と称した。江戸後期に境内立木の相論の末に牧の氏神となり、明治十八年に日雲神社と改めた。境内にある嘉元四年(1306)の石灯籠、9月4日の例祭太鼓踊りは注目されている。

日雲神社からの信楽道は南へと高眼鉄道をぐるぐり岩倉川まで続き、右折して西へ曲がると半時間で八坂神社へ着く。

八坂神社から真南へ1.5も行くくと勅旨岸田山の八幡神社がある。八幡神社から勅旨駅を右に見て1.5も行くくと勅旨北端の鳥居廻りに天神神社が鎮座する。

⑪ 玉桂寺(信楽町新宮)
弘法大師を本尊とする真言宗寺院で「勅旨の弘法」と呼ばれ広く信仰を集めている。正式には秋葉山法王庵十輪院と号し、淳仁天皇が行基に命じて保良宮近辺に建立させた保良寺が前身で、現在は本堂と山門、並びには一般の人も宿泊できる「翠良荘」がある。

反花式基壇に立つ大和系の本格的な形

寺説もあり、甲賀寺跡ともいわれる。現在、この寺跡遺跡は国史跡の兼香楽宮跡として小社を建ててあるが、出土遺物の瓦の鑑定では、奈良時代から平安中期の特徴を示すもので、当初この地に建立されたのが甲賀寺か近江国分寺か、または兼香楽宮廃止後に寺院が建立されたのか不明である。

『続日本紀』の天平十五年(744)条に、聖武天皇が甲賀郡兼香楽村に離宮の造営を開始し、その後離宮を皇都として造営を継続し滞在していた記事がある。天平十七年4月に真木山・東山と二回も火災が発生し、4月末と5月1・2・3日の連続地震の災害と余震を恐る懼い、5月5日に恭仁京に移り甲賀宮留守居を任命して降都となる。

⑫ 日雲神社(信楽町新宮)
宮跡から信楽道へ戻り、南下して左手に国立療養所を見て國道を横切る。雲井小学校の左側沿いに南へ行くくと雲井駅がある。築路沿いに10分も行くくと右手の永仙寺と相対して左手に日雲神社がある。

倭姫命が崇神天皇の命で天照大神の鎮座地を求めて遊行中に四年間滞在した地で、その頃に社が創始されたが、江戸時代は牧・黄瀬・宮町の氏神で天神社と称した。江戸後期に境内立木の相論の末に牧の氏神となり、明治十八年に日雲神社と改めた。境内にある嘉元四年(1306)の石灯籠、9月4日の例祭太鼓踊りは注目されている。

日雲神社からの信楽道は南へと高眼鉄道をぐるぐり岩倉川まで続き、右折して西へ曲がると半時間で八坂神社へ着く。

八坂神社から真南へ1.5も行くくと勅旨岸田山の八幡神社がある。八幡神社から勅旨駅を右に見て1.5も行くくと勅旨北端の鳥居廻りに天神神社が鎮座する。

⑬ 平安時代に白河天皇は当社の改築を行ない、玉桂寺を社僧とし天皇の霊を慰めたが、南北朝の争乱で社殿が焼失し、鎌倉末期になって再建されている。

⑭ 玉桂寺(信楽町新宮)
弘法大師を本尊とする真言宗寺院で「勅旨の弘法」と呼ばれ広く信仰を集めている。正式には秋葉山法王庵十輪院と号し、淳仁天皇が行基に命じて保良宮近辺に建立させた保良寺が前身で、現在は本堂と山門、並びには一般の人も宿泊できる「翠良荘」がある。

反花式基壇に立つ大和系の本格的な形

寺説もあり、甲賀寺跡ともいわれる。現在、この寺跡遺跡は国史跡の兼香楽宮跡として小社を建ててあるが、出土遺物の瓦の鑑定では、奈良時代から平安中期の特徴を示すもので、当初この地に建立されたのが甲賀寺か近江国分寺か、または兼香楽宮廃止後に寺院が建立されたのか不明である。

『続日本紀』の天平十五年(744)条に、聖武天皇が甲賀郡兼香楽村に離宮の造営を開始し、その後離宮を皇都として造営を継続し滞在していた記事がある。天平十七年4月に真木山・東山と二回も火災が発生し、4月末と5月1・2・3日の連続地震の災害と余震を恐る懼い、5月5日に恭仁京に移り甲賀宮留守居を任命して降都となる。

⑭ 玉桂寺(信楽町新宮)
弘法大師を本尊とする真言宗寺院で「勅旨の弘法」と呼ばれ広く信仰を集めている。正式には秋葉山法王庵十輪院と号し、淳仁天皇が行基に命じて保良宮近辺に建立させた保良寺が前身で、現在は本堂と山門、並びには一般の人も宿泊できる「翠良荘」がある。

反花式基壇に立つ大和系の本格的な形

⑮ 平安時代に白河天皇は当社の改築を行ない、玉桂寺を社僧とし天皇の霊を慰めたが、南北朝の争乱で社殿が焼失し、鎌倉末期になって再建されている。

⑯ 玉桂寺(信楽町新宮)
弘法大師を本尊とする真言宗寺院で「勅旨の弘法」と呼ばれ広く信仰を集めている。正式には秋葉山法王庵十輪院と号し、淳仁天皇が行基に命じて保良宮近辺に建立させた保良寺が前身で、現在は本堂と山門、並びには一般の人も宿泊できる「翠良荘」がある。

反花式基壇に立つ大和系の本格的な形

かぎろひの丘を訪ねて

松永恵一

かぎろひの丘

大字院町庁舎の裏手に「かぎろひの丘万葉公園」がある。人麻呂の有名な短歌を刻んだ自然石の歌碑が建っている地は、万葉植物の植栽や茅葺きの休憩所・遊歩道・駐車場などが整備されている。

楠本人麻呂歌

ひむかしの野にかぎろひの立つ見えて
かへり見すれば月かたふきぬ

源信綱謹書

東の野を見ると、空はすでに暁の光がみなぎり、雲はくれないに染んでいる。ふとふりかえると月は西に落ちかかっていた。

〔萬葉集〕巻一・48

雄大な天地自然の情景がただちに目に浮かんでくる美しいしらべ。書は佐佐木

方には鷹ヶ岳、経ヶ岳、音羽山の稜線が連なる。

阿騎野の地は古くから狩猟場として、また薬草の産地として知られていた。

『日本書紀』推古天皇十九年(611)五月五日の条には、この阿騎野の地で薬獵が催された、とある。諸臣はそれぞれの位によって決められた色の衣服や装飾品の美しさを競いながら鹿狩りを行い、補精強壯剤になる若い角袋(鹿茸)をとった。

持統天皇六年(692)の暮れ、後に文武天皇とされる敏達皇子が阿騎野で狩猟された。敏達皇子の父である日並皇子・草壁皇子は、「壬申の乱」の兵を挙げられた父・大海人皇子に伴われて吉野を脱出し、宇陀に向かう途中、この阿騎野で食事をとられた。草壁皇子は十一歳であった。今、皇子は十歳、父・草壁皇子のことをなつかしく思っている阿騎野行きであったと思われる。

阿騎野旅行に付き従って楠本人麻呂が詠んだ長短歌は五首。大字院町中央公民館にはこれらの歌にちなむ故中山正直面拍の「阿騎野の朝」の壁画がかかげられている。かつて福原の大和歴史館(現福原考古学研究所付属博物館)の暗暗い建物

信綱博士、裏面は新村出博士の撰文。

第四十二代文武天皇 慈仁好字律令ノ
撰定 教学ノ振興ニ意ヲ盡シ給ヒ 御幼
児皇子ト称セラレ 射ヲ善クシ 御父
君草壁皇子ノ旧跡ヲ墓ヒテ安騎野ニ出獵
シ給フ延臣楠本人麻呂運使シ奉リ 此地
ニ雪ノ夜宮ヲ過シ 景仰懐旧ノ余 長歌
一篇短歌四首ヲ詠ス 人以テ万葉集中ノ
名吟 人麻呂作品中ノ秀逸トナシ愛誦措
カス 今碑面ニ勒スル所 即チ其一首ナ
リ 爾米一千二百有余年紀元二千六百年
ノ佳辰ニ方リ 大和宇陀郡松山町ノ雅人
衆議院議員松尾四郎翁 大阪朝日新聞社
刀祿館正雄氏ノ創意ニ基キ其ノ遺趾ヲ顕
彰セント欲シ此処ニ歌碑ヲ建設ス 乃チ
歌詞ノ揮毫ヲ帝國芸術院会員文学博士佐

に掲げられていた「かぎろひ」の「阿騎野の朝」は、万葉人が愛した薬獵の地に群やかに蘇った。「かぎろひ」は、嚴冬の良く晴れた早朝、太陽が水平線上に現れる約一時間前に太陽光線のスペクトルによる最初の陽光。人麻呂がこの情景を見たのは持統天皇六年(692)11月17日、太陽暦では12月31日午前5時55分前後であろうと、中山正直氏はその著「壁面阿騎野の朝」で推定されている。天文学上での算定をしたのは東京天文台の日光之助技師と寺田勢造編者技師であった。

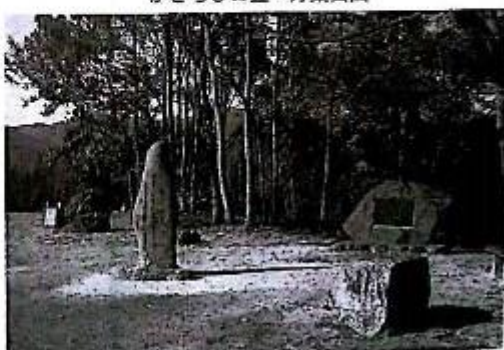
ナルセロナ・オリンピックのシンクロナイズド・スイミングで銅メダルに輝いた奥野史子さんが、地元出身の音楽家・東洋高氏の「阿騎野」の曲に乗って世界を轟かせたのは記憶に新しい。

雪の降る阿騎野の黎明を思うとき、ひとしお感深いものがある。

長歌の歌碑が樓林の前に佇む。

敏達皇子宿于安騎野時楠本朝臣人麻呂作歌
八咫知之 吾大王 高麗 日之皇子
神長柄 神佐備世須登 太敷為
宗平道而 隠田乃治瀬山者 真木立
荒山道乎 石根 林樹柳 坂島乃
朝越庭而 玉限 夕去来者 三雲落

かぎろひの丘・万葉公園



佐木信綱大人ニ求メ且予ニ囑スルニ碑背ニ由縁ヲ記サンコトヲ以テス 惟フニ翁カ尊皇ノ精神ハ愛郷ノ至情尚古ノ雅懐ト相俟テ文教ニ裨益シ歌聖ノ靈感広スル大ナリヤ必セリ 是予ノ之ニ応シテ敢テ無辞ヲ跋スル所以ナリ

文学博士 新村 出 撰並書

万葉のロマンにひたり頭を上げると東に高見山、南に槍の穂先のような山容を見せる鳥ノ崎屋山、その西に竜門岳、西

阿騎野大野余 旗須為寸 四能乎神降草枕 多日夜取出須 古昔念而

〔萬葉集〕巻一・45

あまねく天下を支配せらるるわが主君、高く天上を照らし給う日の神の御子敏達皇子は、神らしくふるまわれるとして、揺るぎなく宮まれている京都をあとにして初瀬の山は真木の茂り立つ荒々しい山道なのだが、岩や、道さえぎる木を押し伏せて、朝方その山道をお越えになり、夕方になると、雪の降る阿騎野の原野で、旅すすきや小竹を押し伏せて旅寝をなさる。古のことを偲んで。

大字院町庁舎の前庭に第四歌の歌碑がある。

日並みし 皇子の命の 馬並めて 御獵立たしし 時は来向ふ

〔萬葉集〕巻一・46

日並の皇子の命が馬を並べて、かつて狩場に踏み立たれた時刻は今まさに到来した。

人麻呂の阿騎野連作長短歌は、時間の推移によって構成された作品。宵から早暁にかけての間の時間帯に比重を置いて詠まれた歌は、暗夜の世界に身を置いてこそ、羅如として蘇ってくる。



阿騎野・人麻呂公園

コース概観

今回は、だれもが知っている柿本人麻呂が詠んだ有名な万葉歌の地、奈良県宇陀郡大宇陀町の阿騎野の地を訪ねてみた。古代の狩獵場「阿騎野」の中心施設がおかれていた阿騎野・人麻呂公園を訪ね、人麻呂歌碑の建つ長山丘陵のかぎろひの丘に登る。人麻呂の歌の雄大さに魅きつけられ、かぎろひのたつ黎明の阿騎の大野の夜明けを迎えると、はるか万葉の歌のころにひたることができる。
近鉄大阪線榛原駅下車。奈良交通バス



右に大宇陀町体育館、阿騎野・人麻呂公園が望まれる。国道166号線まで戻り右に進むと国道370号線と交わる。右手に入ると菓草料理で名高い大願寺。菓草料理を始めたのはそう古いことではないが、宇陀には古くから菓草にまつわる話が多い。「日本古紀」皇極天皇三年(644)三月の条は菓陀郡の人が芝草を食べて長生きしたという話を伝える。交差点に宿場町のイメージを出した道の駅「宇陀路大宇陀」がある。
国道を渡り大宇陀町の町筋を放棄しよ

う。伊勢と大坂、吉野と桜井を結ぶ街道の交差点として栄えた大宇陀は、大和盆地の「国中」に対する「山中」の要衝の地であった。中世には秋山氏の、関ヶ原の合戦後は福島掃部頭正頼(正則の弟)、大坂夏の陣後は織田氏の城下町であった町中のせまい道路が直角に幾重にも曲げられた城下町特有の街づくりが残る。京の岩倒れ、大坂の食い倒れ、大和の建て倒れと言われた立派な家が多い。吉野葛・宇陀紙・吉野杉などの集産地として繁栄した名残りが随所に見られる。
二元祖土吉野葛「大葛家」の看板を掲げた森野家。一階の檢査りの連子格子と二階の白い漆喰の虫籠窓とが品良く調和している。裏手にわが国最古の民間創設の禁園森野旧薬園がある。斜め向かいの黒川本家とともに吉野葛の老舗である。
しばらく行くと左手に宿屋の大黒屋、右に入ると神楽阿神社。人麻呂阿騎野短歌四首中の第二歌の歌碑がある。
主要の 過ぎにし君が
形見とぞ来し
この阿騎の野は荒涼たる原野ではある

境内のはば中央に能舞台がある。元和元年(1615)織田信長の次男、信雄は徳川家康から和州宇陀郡三万二千石を与えられた。二代高良、三代長頼、四代信武と元禄八年(1696)まで四代八十年続いた。能舞台は三代長頼が寄進したものである。宇陀織田藩の四代信武は

「大宇陀行き」に乗ると約18分で大宇陀高校前に着く。作家の黒岩重吉さんの母校。阿紀神社入口と書かれた小さな櫓柱に従い、本郷川の左岸の道を西に進む。ほどなく巨木におおわれた阿紀神社に着く。赤い橋を渡る。「奈良県宇陀郡神戸村大字迫間」と石柱に刻まれている。この地は神宮の神領であった。「倭姫命世記」に、「倭姫命、天照太神ヲ齋ニ奉リテ……大和ノ国ノ宇多秋宮ニ遷リタマヒ、四箇年ノ間ヲ積テ奈牟牟ル」と記される宇多秋宮の地である。「大和志料」は、天照大神の本拠地であり、宇陀郡一円を社領とし、一〇八の社家、一二〇の木社をもち、二十一年ごとに式年遷宮をし、三八〇間の井端をめぐらした社大な社だったと伝える神明造の御本殿に天照大神・天手力男神・邇邇藝命・秋姫命・八意思兼命をまつる。

阿紀神社の奥、本郷地区に龍桜(又兵衛桜)がある。大坂夏の陣で活躍した後藤又兵衛は、この地に落ち延びたという屋敷跡にある樹齢三百年とも言われる枝垂れ桜は、又兵衛桜と名付けられている。来た道を戻ると阿紀神社から本郷川を挟んだ東側、大宇陀町庁舎の裏手、織田藩の長山屋敷があったあたりにかぎろひの丘・万葉公園がある。旧暦の11月17日には、「かぎろひを観る会」が催される。

家老を斬って自害し(世に言う「宇陀崩れ」)、丹波柏原に回替えになった。社頭に万葉歌碑がある。自然石に万葉仮名で柿本人麻呂阿騎野短歌四首中の第一歌が刻まれている。
阿騎乃野余 阿騎の野に
旅宿人打摩 宿る旅人 うち摩き
寝毛宿良目八方 寝も宿らめやも
古部念余 いにしへ思ふに
今宵この阿騎の野に野宿している旅人たちは、のびのびとくつろいで眠ったりしていられようか。古のことが思われて。
〔萬葉集〕巻一・46
阿紀神社の境内を取り囲むように流れる本郷川には、源氏螢の幼虫が放流されている。

が、我々はじき皇子の形見の地としてやってきたのだ。〔萬葉集〕巻一・47
大宇陀町歴史文化館「菓の館」は江戸中期の建物で代々薬問屋を営んできた細川家住宅。右手に入り春日神社から秋山氏の居城、城山(47.3m)に登る。約30分登山。四周の山々、宇陀盆地が一望できる。町中の大橋のたもとに秋山城の松山西口関門(黒門)が残る。宇陀川を渡り国道166号線を北に進むと織田公墓所の徳源寺。四代の墓が肅然と並んでいる。
△コース▽
大宇陀高校前―阿紀神社―龍桜―万葉公園―かぎろひの丘―阿騎野・人麻呂公園―道の駅「宇陀路大宇陀」―森野旧薬園―神楽阿神社―大宇陀町歴史文化館―薬館―城山―松山西口関門―徳源寺
△費用▽
近鉄上本町駅―近鉄榛原駅 800円
近鉄榛原駅―大宇陀 400円
△地形図▽2万5千1:1古市場
△問い合わせ先▽
大宇陀町観光協会
0745(83)2251

特選コースガイド④

丹波

夜久野鉢山から

富岡山

中級コース(★★★)
慶佐次 盛一

JR山陰線「夜久野駅」で下車する。近年この駅に下車することが多くなった。居母山や深山、オオボウソウなど、この駅からのアプローチだったし、このあたりにはまだまだ未登の山があるのでこれからも利用することが多くなるだろう。

この日の目標は富岡山(707.3m)だった。この山は昨年の夏に登ったオオボウソウ(760.1m)・新ハイキング関西の山(740.0m)と同じ山脈の南側の山だが、夏はやはり苦しかったと、友人が1月の山行にセットしてくれたのだった。女性一人を含む六人のメンバーは、一台しかないタクシーで西垣までピストン輸送してもらった。西垣には町営バスの停

留所があり、居母山登山口の大きな看板が立っている。私たちはその上の集会所の前まで入った。東に居母山の山並みが望めるいい所だ。

奥会所から夜久野鉢山への道を進む。道は大きく迂回しているが、豊道を選びながら近道を林道に入る。地形図の林道は夜久野鉢山までしか記載されていないが、途中から新設された林道が谷沿いにのびていた。

まだ整備中の林道らしく繩が張ってあった。繩張りを越え、ゆるい傾斜の地道の林道を歩いて林道終点に着く。林道終点はまだ土砂が積み上げられたままで、土砂を越え小さな谷に入り、右側の竹林に取りつく。

竹林の上はかすかな踏み跡があり、雑木林のなかの踏み跡をたどりながら右方向へしばらく進むと山腹を登り、林道に出会い、その道を進んだ。しかし、この林道は一向に高度を上げる気配がなく、そのまま進めばどこまで行くのか見当もつかず、もうこのへんが限度と見極めるのが難しいところである。

地形図の読みと山腹の傾斜と広がり、そして長年つちかかってきた勘が、もうこ

の左上が山頂だと判断させてくれる。後継まで、標高差は2000弱であろう。山腹の植生が次の沢状の地形に移る手前で植道と離れ、左の尾根状の斜面に取りつき後継を目標にひたすら登る。

捨の植林帯で踏み跡もなかったが、たいたやぶもなく背の低いササやまばらな雑木が少々茂るだけの斜面だった。だが傾斜は思ったよりもきつかった。後継が近づくと雪が現れ、やっと後継に達した。積雪を心配していたが20分余りあり、これにはちょっと拍子抜けした。

後継を左折し、1000mほど歩くと富岡山の頂上で、ほぼ山頂を狙い撃ちできたことに満足する。簡易橋の下に、北向きの2等三角点が雪の中から頭を出していた。よく成長した捨と杉に囲まれた山頂で、展望は得られなかったものここで食事にする。

下山は山頂から西へ進み、そして南西



富岡山の三角点

に向きを変えて後継を追う。赤いテープが所どころ残っていた。すぐに平坦な後部にくぐり進む。その先の後継はやぶにおおわれている。後継通しに西の羽白へくだらうとの案もあったが、これでは時間がかかりそうだ。

ここは鞍部から南への後継をたどり、元の林道終点へおられたほうがベターだと考えた。鞍部から南への尾根の取りつきはササが茂っていたが、崖右に忠実に従うと残置テープが現れ、はっきりした植道に出会い、無事に南尾根にのることができた。

右に道を分ける所や、左に道を分ける所もあったが、あくまでも忠実に南尾根をたどる。伐採木が道を塞いだり、道が滑えかけたりする所もあるが、ほぼ南尾根に沿って踏み跡が続いていた。



富岡山付近地図

から左へ、南尾根から離れて植林帯の沢状をくだる。残置テープも見られる。始めは踏み跡も認められなかったが、くだるほどに踏み跡が現れ、その踏み跡がはっきりとした道の形になってくる。地形図の読みが正しければ、あとは道なりにくだれば林道終点に達するだろう。道をくだりながら、富岡山への登路はこのルートがメインではなからうかと思った。

道は苦むした石がごろごろと転がる谷道になり、思惑通り林道終点に出た。再び積み上げられた土砂を越え、西垣へくだる。林道の切り開きからまた居母山が正面に見えた。西垣では地元居母山クラブの男性と出会った。夜久野鉢山はロウセキを採っていたが今は廃鉱で、ロウセキは陶器や化粧品、ビスケットにも使われていたと話してくれた。

△コースタイム▽
JR上夜久野駅(タクシー約15分) 西垣(25分) 林道終点(1時間) 富岡山(30分) 林道終点(15分) 西垣(タクシー約15分) JR上夜久野駅
△地形図▽2万5千1直見

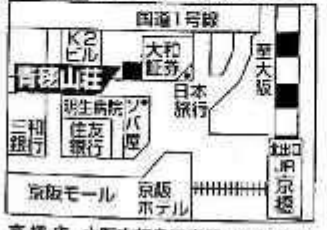
山歩きの一番重要なポイントは…「靴」です。

「靴」の選び方、合わせ方次第で、山歩きが楽しいものになるか、終始苦痛なものになるか、それはもうエライ違いです。初心者から上級者迄あなたの足に合う「靴」をアドバイスいたします。又、自分の山行に合うグループの紹介もしております。

- 山用品は全て安く揃います
- 登山・山スキー・専門店



青徳山荘



京橋店 大阪市都島区東野田町2-9-24 TEL 06 (351) 8691

日本海に近い樹林の山

横山岳

中級コース(★★★)

吉村 迪

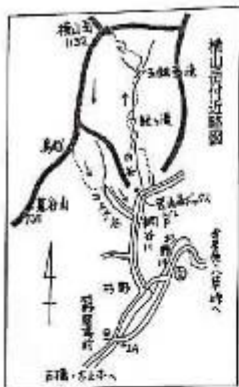
横山岳は大坂からの日廻りが可能な山とされている。しかし、日が短くなってくるとかなり忙しい山歩きになるし、湖国もここまで北上すると旅情が感じられるから、できれば山麓で一泊したい。

北陸線木ノ本駅前から杉野(横山岳登山口)を経由する金原(行きのバスが出ている。この路線で古橋まで行き、「己高庵」に宿をとるとよい。全館平屋建てでゆったりしているし、与志瀧神社に隣接しているなど環境も悪くない。

さて一日目は、木之本の古い町並みや木之本地藏(淨信寺)など見所に事欠かない。また、古橋バス停至近の与志瀧神社境内には、二棟の古仏取蔵庫がある。

イヌガヤ・チャボガヤ・サワシバ・ケヤキ・アケビ・サルナシ・マタタビ・ヤマブキ・チドリノキ・トチノキ・ミヤマホウソウ・クロツル・ウリノキ・タラノキ・ハクウンボク・タニウツギ。(高度約7000ft)

五銚子ノ滝もはるか下になり、道は左方に少し振れるが、あとは一本調子に尾根を登るのみである。展望地が一ヶ所あるが、またすぐに見通しの悪い樹林帯だ。高度約9000ft、ハイイヌガヤ・ミズナラ・ダンコウバイ・マルバマンサク・ワガラミ・アズキナシ・エゾユズリハ・ヤマモミジ・ハウチワカエデ・シナノキ・ハナイカダ・ヤマボウシ・センノキ・ホツツジ・ユキグニミツバツツジ・オトコヨウソメ・ミヤマガマズミが生えている。急登もようやく終わり、頂上が近いこ



部を離れたこの地に、これほど多くの優れた古美術がよくもあるものだ、一瞥せざるを得ない。なかなしく心ひかれるのは、己高山(信仰)の根本仏と目されている十二面観音像である。さらには古橋より8000ft東方の地に石道寺があり、当寺にも、とても美しい十一面観音像があるという。石道寺までは「歴史の小道」が整備されており、軽いハイキング(あるいはサイクリング)を楽しむことができる。ともあれ、この日は宿自慢の葉草風呂に入り(露天風呂もあり)、浴後の故策を楽しんだりして明日の鋭気を養おう。

翌日は一番か二番のバスを捉まえ、12分も走れば、登山口の「杉野農協前」である。横山岳案内板が掲げられているその左側の旧道に入る。細長い集落を貫いてゆくと、網谷川に出合う。ここを左折、網谷林道を谷奥に向かう。網谷山入口、コエチ谷(経由)の横山岳入口をやり過ごす、ほどなく白谷(経由)の横山岳入口となる。ここには駐車スペースがあり、マイカー登山の場合は、当所が実際上の登山口となる(トイレあり)。

白谷沿いに登れば、やがて道は細路となる。三条3丁の小滝を見るが、これは

右側を越え、流れを右に左に渡り返してゆく。やや草深い道が続いている。三段17丁の落差で滑り落ちる経ヶ滝。これは左側を捲いて登る。沢の二股を左に入る。次いで、また二股となり、この右股に五銚子ノ滝が懸かっている。五本一組の滝だが、この時季、全体を一望するのは難しい。ここが最後の水場となる。



網谷林道から横山岳を望む

五銚子ノ滝の左側の急斜面を登る。少々滑りやすい道だから、注意を要する。このあたりから落葉広葉樹林の林下をゆく。だいたい五銚子ノ滝より下流の谷間は、およそ樹林が発達していない。これは、西岸から落下してくる雪の重圧によるものと思われる。

さて横山岳上部は、広葉樹林帯に十分な広がりがあり、かつ近畿において「日本海要港」に最も恵まれていると考えられるから、出現樹種を記しておこう。ハ

とが察せられる。高度約11000ftの出現種は、ハイイヌガヤ・ブナ・ミズナラ・ホオノキ・タムシバ・マルバマンサク・アズキナシ・ツルシキミ・ヤマウルシ・コミネカエデ・ヒメモチ・コマユミ・ヒメアオキ・コシアブラ・ムシカリ・ミヤマガマズミであった。

山頂は小ぶくなっているが、展望はさして良くない。帰路は三高尾根をとる。鳥越まで8000ftの高度差があるから、なかなか急だ。途中、林が切れて、己高山や湖上の竹生島などが見える場所がある。鳥越では猪に前を横切られた。なおもガサガサと枝葉がざわめいているので、思わず身構える。野猫の一群であった。図らずも私は群れを分断する形になった。歯をむいて怒っている大猿の顔が印象に残った。山は野生動物の領地で、私たちは大きな顔をして踏歩しているが、じつは闯入者なのだ。

鳥越からのくんだりも相変わらず急で、ようやく沢に降り立つ。そこはすなわちコエチ谷の林道終点。この林道をたどれば、網谷林道に合する。あとは往路を杉野農協前に戻ればかりである。

(平成10年9月20日歩く)

▲参考タイム▼

- JR米原駅 14・23 (電車) 木ノ本駅 14・48 (バス) 古橋 15・08 (泊) 古橋 7・29 (バス) 杉野農協前 7・41 網谷林道起点 7・56 白谷出合 8・31 40 五銚子ノ滝 10・35 高度9000ft地 12・21 40 高度11000ft地 13・20 40 横山岳 13・45 14・15 鳥越 15・35 コエチ谷 15・53 16・08 網谷林道出合 16・23 杉野農協前 16・58 17・39 (バス) 木ノ本駅 18・05 18 (電車) 米原駅 18・32

- ▲費用▼
 - 木ノ本駅 古橋 (バス) 300円
 - 古橋 杉野農協前 (バス) 400円
 - 杉野農協前 木ノ本駅 (バス) 570円
 - 己高庵 (1泊夕食付き) 7870円
 - (レンタサイクル3台保有)
 - 仏像拝観 (己高庵) ほか1) 5000円
- ▲地形図▼
 - 2万5千 近江川合・美濃川上
 - ▲問い合わせ先▼
 - 湖国バス長浜(営) ☎0749 (64) 1224
 - 己高庵 ☎0749 (82) 6020
 - 木之本観光案内所 ☎0749 (82) 5153

御嶽山・乗鞍岳を眺望する

風越山

初級コース(★) 精原 計画

南信地方には風越山と呼ばれる山が二つある。一つは伊那谷・飯田の風越山(1530m・1峰)と、もう一つが紹介する木曾谷・上松にある風越山(1598m・5峰)だ。

この山は晩秋か初冬の晴れた、見通しのきく日を選んで登ることをおすすめする。それはこの山の魅力が何と云っても、膨大な山容の御嶽山と、逆アーチのきれいな稜線を引いて並ぶ乗鞍岳の雄大な眺めにあるからだ。そして、それが初冬の頃には両山とも山頂部に白い樹氷をかぶった姿となり、いっそうすばらしい展望となるのだ。また、山頂部西側斜面にはスキの草原、いわゆるカヤ場が大きく広

がっている。平地ではスキ原だった所に外來のセイタカアワダチソウが大量に進出してしまい、昔の面影がなくなりつつあるが、スキの穂がゆれる姿に日本の秋の原風景を感じるのには、私だけではないだろう。

昔は、焼いた炭を入れる炭俵として、屋根のかやぶきの材料としても、カヤ場を大切にしたものだったが、そんな習慣もとうの昔になくなっていく。このカヤ場はふもとの国道からも眺められ、風越山を見分けるのに大いに役立つ。

車で行くのなら、中央道の中津川インターから国道19号線に入り、北上する。1時間程で上松に入り、沿川を渡ってJRの中央線が左側に現れた少し先で右折して、細い道へ入る。突き当たりで左折し、さらに次の三差路で右上への道を登っていく。道は山裾を滑川に向かって進み、川の側まで行った所で右に分かれて滑川を渡り、吉野の集落に入る。林道を山のほうへ入ってから二つの大きなカーブを越えると風越山の登山口に出る。

登山口には「風越山(鷹野屋登山口)」と書かれた木柱が立っているが、それは分りにくく、それよりも側の水に巻き付

スキの草原から御嶽山(左)・乗鞍岳(右)を眺める



けてある赤いテープを目印にするとよい。横には「大曾古道」の立て札もある。

歩き始めるといきなり急登につぐ急登のジグザグ道となるが、登るにつれ迫り上がってくる御嶽山を始めとした木曾の山々の展望を望みとし、こまめに休みをと

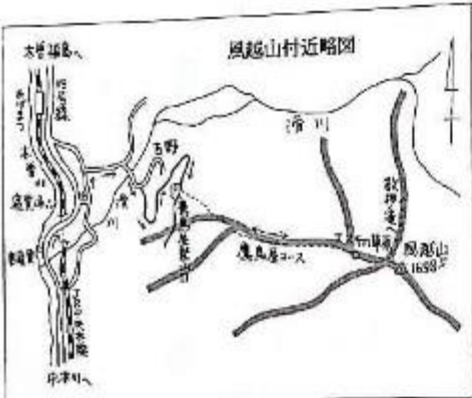
りながらがんばるしかない。始めは、二次林のなかを登って行くが、1時間もするとその林もまばらとなり、スキが現れます。さらに30分も登れば広大なスキの草原が広がる斜面に出

る。

ここがこの山のメイン会場と言っただろう。目の前にはすばらしいパノラ



風越山山頂にて



マ展望が広がっている。南は木曾谷が続く、その先に恵那山があり、次に小秀山を始めとした阿寺山系の山々が右に続く。大曾谷をへだてた正面には台ヶ峰、その右にはずっしりと御嶽山の巨体が座る。さらに開田高原の向こうに乗鞍岳もその秀麗な姿を現している。北には白く輝く北アルプスの峰々も見えることだろう。

道跡はなおも稜線上に付いているが、すぐにやぶでおおわれてしまうのでそれ以上先へは進まないほうがよい。山頂は樹林に囲まれて展望もなく薄暗いので、先ほどのスキ原まで戻って食事するのがよいだろう。腰の下ろしやすいつ所を履望を楽しみながらの昼食は、また格別なものだ。

三角点のある山頂へはまだ30分余りある。すでにここが山頂の一角と言えるところでもあり、ハイライトとも言える所なので、ここで折り返してもよいが、できれば記念に山頂を踏んで来よう。

ゆったりとした時を過ごしたら、来た道をたどり下山する。落ち葉の敷き詰まった道はとて滑りやすく歩きにくいので、いっそのこと何かお尻に敷くもの(小さな股ギール片でよい)を準備しておいて落ち葉の滑り台を楽しむとよいだろう。

草原と林の境目を登り、再び樹林のなかに入って行くと、すぐに小さな広場のような林のなかの丘に出る。そこから傾度向きを右に振り、少しくだつてから屋根状の所を登るとすぐに平坦な道となる。途中、左から上がってくる道を合わせるが、それは敬神ノ滝小屋からのルートである。なおも平坦な稜線上の道を行くと何の前触れもなく三角点に出る。三角点の標石や立て札がなければここが山頂だとは気づかずに通り過ぎてしまうような所だ。東側には、木々の間から山頂部の白くなった中央アルプスがのぞいている。

ち原の滑り台を楽しむとよいだろう。鷹野屋登山口から山頂までの往復だけなら3時間半くらいのもので、この山をじっくり楽しむために、山頂部での時間を十分にとることをおすすめする。(平成9年11月24日歩く)

△コースタイム▽

- 中央道中津川インター(車・1時間30分)鷹野屋登山口(1時間30分)スキの草原(30分)風越山三角点(20分)スキの草原(1時間)鷹野屋登山口

2等三角点のある山

道方山と局ヶ頂

山形 歳之

道方山 (661・4層・点名 道方山)

中級コース(★)

星森に伊勢路の山を訪れる。伊勢自動車道が開通して、関西方面からも日帰り十分可能な距離になった。

名阪国道を名古屋に向かい、関から伊勢自動車道に入る。大阪市内と違って車が少なくて走りよい。玉城インターで降りると、南島町に抜ける道を南下する。

道方山は度会町と南島町の境界に横たわる山脈の一峰で、2万5千分の1地形図にも山名は記載されていない。しかしこの連峰は長く横たわり、特に南の熊野灘側からの眺めがすばらしい。牛草山と獅子ヶ岳の間を抜け、峰に登



道方山付近地図

り着くと能見坂トンネルである。登山口はこのトンネルを南に抜けた所にある。この道は伊勢市から海岸沿いに走る国道260号線に通じていて、車の通行量は意外と多い。峠の地蔵さんかと覗いたお堂には、腿を生やした石像がまつられ、何かの記念碑も立っている。南の展望がすばらしく、熊野灘の入り江に並んで浮かぶ養殖筏が望まれた。ここはすでに標高300m程度である。

トンネル口から左に道がのびる。良い道と思っただけで、急斜面を水平に捲く道は幅も狭く、歩きづらい。あまり歩かれていないようで心もとないが、点々と黄色のポリ杭が打たれていて、人の気配が感じられた。やがて尾根を廻り込む所で下から切り開きが現れ、この切り開きにも黄色のポリ杭があった。この先の水平道にもポリ杭が続いてきたが、やがては後線に登るとだし、水平道は

歩きづらいうのでこの切り開き道に取りついていた。

この切り開きは登山道とは言えないが、直線に屋根上を登り、黄色い杭が続いて迷うことなく後線のピークに登り着いた。

地形図の508層の独添である。

後線には明瞭な道がのび、ここにも点々と黄色い杭が打たれていた。ひと息入れて少しくだると北側から良い道が合流してくる。こちらにも黄色い杭が見えたが、どうやら道はこのほうが本命らしい。稜線は広葉樹林帯で、落ち葉を踏みしめ、まるで遊歩道のように快適である。二つばかりピークを乗り越え、二ヶ所左折し



道方山山頂 (左方ピークが道方山)

て山頂の三角点に到着する。地元山岳会の小さい山名札があるだけの静かな山頂であった。この標石も伊勢地方に多い165°角の大石が入っていた。展望は良くない。

登山資料も無く、長い緩急歩きとやがこぎを覚悟していたのに、取りつきは悪かったものの後線は遊歩道並みの快適さであった。北からの登山口が判ればもっと楽に登れたはずである。

△コースタイム▽

能見坂トンネル南口(1時間) 標高508層(35分) 往標586層(40分) 道方山

△地形図▽20万伊勢 5万費浦

局ヶ頂(610・7層・点名 大江山)

初級コース(★)

道方山登山口から能見坂を南にくだり、国道260号線に合流すると左折して熊野方面に向かう。相賀浦のトンネルを抜けてくだって行くと、信号に相賀浦の道標が出てくる。この道標を右折してくだって行くと相賀浦の漁港に到着する。村の中程の学校の下で、左に橋が架かる所に



局ヶ頂登山口

「局ヶ頂登山口」の道標が立っている。村の中は狭くて駐車できないが、この橋を渡って大池の方へ400〜500層はかり行った墓地の隣に村の駐車場があり、車が駐められる。シーズンには有料らしいが、オフにはだれもいないので自由に車が駐められる。

道標の所から階段を上がる。学校はすでに南校で人影もない。校庭の裏から少し荒れた道を尾根の端に取りつくと、ブルドーザーで削ったような急坂の道が一直線にのびていた。この上のピークには浅間神社がある。

ここから尾根伝いの道がのびているが、登山道というより、後線の境界切り開きか防火帯といった所で、これもブルドーザーで一直

線に開いたような道である。周囲は低い雑木で展望が良いが、ガラクタの道は歩きにくく、日差しは強い。元々そんなに高い山域ではないが意外と小さいピークが多く、低い山と見くびられていたわりに長く感じた。昨日登った道方山がのび、目の下には国道260号線が走っている。最後の登りも直線の急傾斜。滑って登りづらく、これが登山道かと思いたいとこる。狭い山頂は南が開け、志摩の海がよく見えた。

三角点は四方が欠け、哀れな姿をしていた。西の林のなかにテープの付いた道がのび、こちらのほうが登山道の雰囲気があった。

相賀浦からの道は全く歩きづらく、登山道とは言えないブル道である。局ヶ頂と変わった名前にひかれて来たが、相賀浦からの道はあまり快適ではなかった。(平成10年3月16日17日歩く)

△コースタイム▽

相賀浦登山口(20分) 浅間神社畔(1時間30分) 局ヶ頂

△地形図▽20万伊勢 5万費浦

静かな尾根道

学文峰と井谷ノ峰

初級コース(★)

柴田 昭彦

大阪府河内長野市では、昭和56年度から五カ年計画で「かわちながの自然歩道(テクルート)」の整備を行なった(河内ふるさとのみちともいふ)。コースには幹線(主線)と支線が設けられ、案内標識が整備されているが、十年以上を経過して、道標はいささか古びてきて、修理が必要な箇所も増えてきているようだ。再整備が望まれる。ルートの詳細は「テクルートコースガイド」(河内長野市環境経済部商工観光課)にゆずるとして、初納・唐久谷・千早口・流谷・天見を結ぶルートを利用して登ることのできる学文峰と井谷ノ峰をとりあげてみよう。その山名には若干の変遷があり、古道上にあるはずの上

峰と下峰の位置についても考察しておきたい。

学文峰は伴西政一郎氏による「岩岩湖山・紀泉高嶺・友ヶ島」(ガイドA、引用文献参照(以下同))には「ガクモン山」と記載されていた。ガイドBの表記も同じである。同氏による「金剛山・岩岩湖山」(ガイドC)と「近畿の山」(ガイドD)では「ガクモン峰」に変わっている。そして「学文峰」という山名になったのは、同氏による「金剛山・岩岩湖山」(ガイドE)からである(ガイドF・Gの表記も同じ)。山名表記の変更の理由やその出典は不明だが、「大阪府の山」(山と渓谷社、1985年)の「がくぶんみね」という読み方が誤りであることは明らかである。

『小学館古語大辞典』によると、『黒本節用集』(室町中期の辞書)に「学文ガクモン又学問」とあり、『日葡辞書』(1803年)には「ガクモン、文ヲ学ブ」とあり、中世から近世にかけて、「学問」は「学文」と書くのが一般であり、また、「学問」と書くこともあったという。

井谷ノ峰はその南東の井谷に由来する山名で、ガイドC・Gに記載されているが、「テクルートコースガイド」には

側のへつり道を経て上峰から流谷におり、天見駅に出るコースがよく歩かれている。私道の道標もあり、分かりやすくなっている。

千早口駅前の道はちよつと分かりにくい。テクルートの道標で神納・地藏寺をめざすとよい。駅から右(北)へ向かい、すぐ左折すれば旧高野街道に出合うが、右に線路沿い(北)に進み、左折すると



先で「右加うや」と刻んだ石標に出合える。左(南)へ旧高野街道を進むと右手にコンクリートの細い道があり、橋を渡って国道を横断して、細い道を進むと新設道路に出る。右に進み、すぐに右端の狭い車道を行けば、ジルミ峠に続く道に入る。

ようだ。個人的には「ジルミ峠」のほうがふさわしい名称だと思ふのだが、なぜ変わったのだろうか。

峠からは尾根筋を進み、途中で少し左にそれて、登りが急になってきたら、左へ迂回するルートを経て右に登ると学文峰の山頂である。3等三角点がある静かな場所である。

地藏寺はホトトギスの名勝として知られ、河内長野八景の一つに数えられる。昭和57年の調査で、本堂は正徳五年(1713)の建立であることが判明している。本尊地藏菩薩は仏師連長の作で、造像は元禄四年(1691)である。

下峰と勘違いされてきた地点から東に踏み跡をたどり、いったんくたつて、登り返すと鉄橋に囲まれた反射板が現れ、

学文峰山頂



「井谷ノ峰」とあり、現地の山友会の道標には「井谷ガ峰」となっている。井谷の入り口の立て札には、昭和59年に開通した「伊谷山新道」(現在は廃道である)の案内があり、「伊谷山」の表記も現地では使われているようだ。



流谷八幡神社の勧請杉

ここが井谷ノ峰の山頂である。ここから「天見」という道標に従えば、鉄塔の建つ「斗山」に出られるが行き止まりとなる。また、鉄塔への階段の手前の数段で左（北）へ巡視路をくだれば、小手谷林道に出られる。国道の西側の道をたどり、歩道橋から北東に向かって南海線路跡の歩道から天見駅に出られる。

井谷ノ峰から南東にくだる道があるが、伊谷山新道も井谷に出る旧道もブッシュがひどいようだ。もとの尾根道に引き返し、西へ進むと古道を横切る地点に出る。ここが本文の「下峠」である。古いガイドA・Cには正しく記載されていたが、新しいガイドE・Fには誤った位置に記載されている。上峠道・下峠道の二つの古道はガイドE・Fに大まかに示してあるが、地形とは対応しておらず不正確である。

ある。

下峠道を右（北西）にたどると途中で少し深い所があるが、ほどなくテクルート支線の上峠道に合流する。また、下峠道を左（南東）にくだると、古道の趣がよく残っているが、谷道になると夏草が目立つ（通過可能）。ほどなく夏草もなくなり、イノシシよけのトタン板をまたいで道なりにあせ道をたどると、左手の民家（元は代官屋敷という）へ通じる川沿いの細い道に出合う。その手前すぐ左に、葛城第15経塚への登り道がある。物質小屋の左側を登り、畑で右に進み目印の所でトタン板をまたぎ、左手へ山道をたどると経塚である。「葛城二十八経塚」については、「行者さんといっしょ」（關山青年連合会版奈支部、平成八年）という案内書が参考になる。ただ、この本の第16経塚への案内はやや分かりにくい。川沿いの細い道に出て右折すれば、右手に「壺宮明仁親王殿下」という今上天皇が皇太子の時の石碑があり、先で車道に出る。

下峠から尾根筋を進み上峠に出る。右をとれば古道らしい道で、下峠道と出合う所に道標がある。谷道ではなく、右手

山の本紹介

辻涼一著

「鈴鹿夢幻」

発行 山人舎

0749(45)2458

発行 サンライズ出版

0749(22)0627

B884 定価1800円＋税

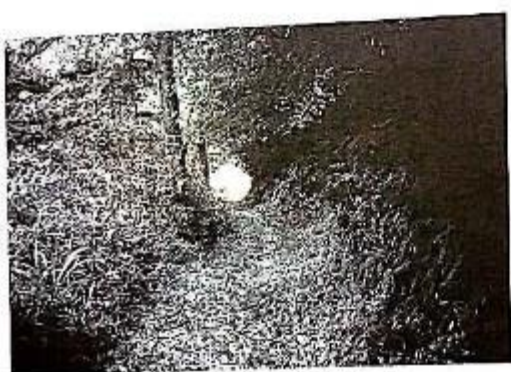
近江・鈴鹿山地の峠坂の山麓・溪谷に見る遙かな世界。人の気配の薄い岩々しい風景の中、夢と現実との境界で安らいでいく追憶の山旅。

の中腹をくだっていく。少し溝状にえぐられていて歩きにくい箇所がある。地道林道から車道になり、唐久谷から神納バス停に出る。ここからの便は少ないので、青葉台ハイックバス停から河内長野駅へ出る。

上峠から左（西）に向かえば、民家の右側から車道に出て、流谷八幡神社前を経て天見駅に出られる。八幡神社への入り口の車道左手に勧請杉がある。毎年、1月6日は石清水八幡宮から勧請した日として、氏子によりこの大杉と対岸の柿の木の間にしめ縄をかける神事がある。

△引用文献▽

- ◎ガイドA 泉州山岳会／仲西政一郎調査・執筆「岩湧山・紀東高原・友ヶ島」（登山・ハイキング53、1996年初版、昭和41年9月版、日地出版）
- ◎ガイドB 宮川良彦・御勢久右衛門調査・執筆「金剛山」（登山・ハイキング51、1999年初版、1994年版、日地出版）
- ◎ガイドC 仲西政一郎調査・執筆「金剛山・岩湧山」（山と高原地図60、昭和41年初版、1975年版、昭文社）
- ◎ガイドD 仲西政一郎編「近畿の山」（アルパインガイド38、昭和51年版、山と溪谷社）
- ◎ガイドE 仲西政一郎調査・執筆「金剛山・岩湧山」（山と高原地図53、昭和57年改訂初版、1988年版、昭文社）
- ◎ガイドF 根来春樹・ト藤手健彦調査・執筆「金剛山・岩湧山」（山と高原地図55、平成2年改訂新版、1998年版、昭文社）
- ◎ガイドG 松本昌親調査・執筆「金剛山麓」（登山・ハイキング39、1998年初版、日地出版）



カマ谷の古道

境内には樹齢三百年を越えると思われる銀杏の大木があり、市の天然記念物に指定されている。神社の創建はかなり古く、鎌倉時代には栄えていて、延元五年（1340）の鉄製湯釜は府の文化財に指定されている（河内長野をみるく／河内長野市教育委員会、昭和58年）。

モデルコースとしては、天見駅から八幡神社、経塚を経て流谷でテクルートの

上峠道（入り口で右手の道標を見逃さないこと）に入り、上峠から下峠を経て井谷ノ峰を往復してきて、学文峰に至る。ここで右手の「ジルミ峠」という表示に従う（まっすぐ進んで急坂をおりるとひといめにあつので注意）。ジルミ峠から右へ下早口駅に出るのもよいが、左をとり、神納・青葉台ハイック方面に出るカマ谷道も捨てがたい。落ち葉が散り敷き、雑木が織りなす風景が何とも心地よい。いったん左に迂回して、民家の横で車道に出合う。（平成8年12月25日・

平成10年8月23・24日歩く）

△コースタイム▽

南海高野線天見駅（45分）流谷分岐（20分）上峠（10分）井谷ノ峰分岐（20分）学文峰（15分）ジルミ峠（40分）神納バス停（10分）青葉台ハイックバス停
井谷ノ峰分岐（15分）井谷ノ峰（15分）
叶山

△地形図▽2万5千1岩湧山

△問い合わせ先▽

關山青年連合会版奈支部（〒560010
056 大阪府豊中市宮山町4-17-12
不動寺、☎06(855)0079)

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽「来光ハイキング」生駒山
 1月1日(祝)雨天中止(集合)放岡駅前4時30分(コース)放岡駅→放岡神社→栴檀原展望ハイキングコース→生駒山上(来光展望台)→宝山寺(解散)→宝山寺駅(約7分)・途中電灯・防犯員必携 参加自由・無料 上本町事業部 06(775)3566

▽「来光ハイキング」葛城山
 1月1日(祝)雨天中止(集合)葛城登山口ロープウェイ駅前4時30分(コース)葛城登山口駅→くじらの滝→葛城山→白滝展望(解散)(約3分)・途中電灯・防犯員必携 参加自由・無料 天王寺事業部 06(624)0362

▽「来光ハイキング」朝熊山
 1月1日(祝)雨天中止(集合)朝熊駅前3時40分(コース)朝熊駅→登山口→ケーブル跡→金剛堂寺→朝熊山上広苑→ケーブル跡→登山口→朝熊駅(約15分)・途中電灯・防犯員必携 参加自由・無料 天王寺事業部 06(624)0362

▽「来光ハイキング」朝熊山
 1月17日(日)31日(日)雨天中止(集合)大和上市駅前9時20分(コース)和佐又口→湯遊路散策→和佐又山ヒュッテ→和佐又口(バス)大和上市駅(約15分)・アイゼン必携 参加は中学生以上の健康な方、200名(電話申し込み制)・無料(バス代別途) 天王寺事業部 06(624)0362

▽冬の葛城高原まつり「樹氷登山 金剛山から葛城山へ」 2月7日(日)雨天中止(集合)富田駅南改

市駅

(バス)大又(明神堂)大又(バス)ふるさと村(希望者はやばた温泉入浴所・バス)大和上市駅(約15分)・アイゼン必携、参加は中学生以上の健康な方、200名(電話申し込み制)・無料(バス代別途) 天王寺事業部 06(624)0362

▽近鉄登山「お山開き三峰山」
 1月15日(祝)雨天中止(集合)藤原駅9時10分(コース)藤原駅(バス)まつえ青少年旅行村→葛城小屋→不動滝→まつえ青少年旅行村(バス)藤原駅(約10分)・アイゼン必携 参加自由・無料 上本町事業部 06(775)3566

▽近鉄登山「高原の和佐又山」
 1月17日(日)31日(日)雨天中止(集合)大和上市駅前9時20分(コース)和佐又口→湯遊路散策→和佐又山ヒュッテ→和佐又口(バス)大和上市駅(約15分)・アイゼン必携 参加は中学生以上の健康な方、200名(電話申し込み制)・無料(バス代別途) 天王寺事業部 06(624)0362

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二峰山 小白峰・大白峰・甲斐・打根(約15分) 湯遊路散策と内膳り散策(約15分) 葛城高原と内膳り散策(約15分) 湯遊路散策と内膳り散策(約15分) 湯遊路散策と内膳り散策(約15分)

福島・二峰温泉
 日鏡連 大和館

〒397-1161 4
 福島県福島市大和町新鹿原温泉
 電話 0249-910111

新鹿原温泉 真田屋
 〒397-1161 4
 福島県福島市大和町新鹿原温泉
 電話 0249-910111

東海登山・富士五湖
 (石川山・ハリモミ純林)
 三國山の麓
 コットンテール
 〒401-0502
 山梨県南都留郡山中湖村平野
 電話 0555-85115

大分県津久喜市津久喜(約15分) 湯遊路散策と内膳り散策(約15分) 湯遊路散策と内膳り散策(約15分) 湯遊路散策と内膳り散策(約15分) 湯遊路散策と内膳り散策(約15分)

山小屋 福ちゃん荘
 〒500-1100 0
 山梨県山梨市上野原2-2-2
 電話 0530-11417 93215
 (山小屋)

札幌9時20分(コース)富田林駅(バス)金剛登山口→千早城跡→楠木正徳墓→園原線跡→金剛山頂→葛城神社→水越峠→葛城山頂(約15分) 参加自由・無料(バス代別途) 天王寺事業部 06(624)0362

▽近鉄フリーハイキング「矢田寺から松尾寺へ」 2月10日(祝)雨天中止(集合)南生駒駅前10時15分(コース)南生駒駅→子供の森→東明寺→矢田寺→松尾寺→平野駅(約15分) 参加自由・無料(保費は別) 上本町事業部 06(775)3566

▽南河内観光キャンパイン第2回「酒公しのふゆ林から古墳の森を訪ねる」 2月28日(日)雨天中止(集合)古市駅前(北出口)9時30分(コース)古市駅→善田八幡宮→道明寺天満宮→津雲城山古墳→善井寺→阪南の森→雄略天皇墓→百村邸→大塚山古墳→宗徳神社→布衣神社→河内松原駅(約15分) 参加自由・無料 天王寺事業部 06(624)0362

中止(集合)押部谷駅10時20分(コース)押部谷駅→近江寺→住吉神社→性海寺(鬼おどろ)→押部谷駅(約10分) 参加自由・無料 神鉄観光事業部 078(521)0321

▽神鉄ハイキング「六甲山頂と魚屋道新巻ハイク」 1月24日(日)雨天中止(集合)鼓が滝公園9時50分(有馬温泉駅前約1分)(コース)有馬温泉駅→鼓が滝公園→紅葉谷道→日極茶屋→一軒茶屋→六甲山頂展望台→魚屋道→有馬温泉駅(約10分) 一般回・*アイゼン必携 参加自由・無料 神鉄観光事業部 078(521)0321

▽神鉄ハイキング「古寺山と多聞寺おぼまつりハイク」 2月11日(日)雨天中止(集合)有馬口駅9時45分(コース)有馬口駅→東光寺→古寺山→多聞寺(おぼまつり)→神鉄六甲駅(約15分) 参加自由・無料 神鉄観光事業部 078(521)0321

▽神鉄ハイキング「初木千年堂と六峰八幡宮ハイク」 2月21日(日)雨天中止(集合)茨木駅10時(コース)茨木駅→山田山→山田山古墳→新巻道(初木千年堂)→六峰八幡宮

無動寺・養老院(約12分) 一般回 参加自由・無料 神鉄観光事業部 078(521)0321

山陽電車

▽山陽ハイキング「鉢伏山・梶尾山ハイク」 1月17日(日)雨天中止(集合)須磨浦山展望台前10時(コース)須磨浦山展望台→梶尾山→鉢伏山(約8分) 一般回 参加自由・無料 山陽電車 078(731)2200

▽山陽ハイキング「播州・松めぐりハイク」 2月7日(日)雨天中止(集合)三軒寺山門前(山陽電車高砂駅下車南へ500m)10時(コース)三軒寺山門前→高砂神社(住生の松)→尾上神社(尾上の松)→浜の宮天神(金公お主権の松)→別所駅(約12分) 家族回(須磨浦遊園ハイキング係078(731)2200)

▽山陽ハイキング「大田遺跡・鶴林寺ハイク」 2月21日(日)雨天中止(集合)播磨町駅10時(コース)播磨町駅→大田遺跡→鶴林寺→尾上の松駅(約10分) 家族回(須磨浦遊園ハイキング係078(731)2200)

尾瀬 平ヶ岳深湯と約りの山小屋
 〒949-1210 0 新潟県中頸城郡妙高高原町
 電話 0255-1861226 1

清四郎小屋
 〒949-1210 0 新潟県中頸城郡妙高高原町
 電話 0255-1861226 1

汗をたっなり流せる温泉と
 汗をたっなり流せる温泉と
 汗をたっなり流せる温泉と
 汗をたっなり流せる温泉と

ナガサキロッジ
 〒949-1210 0 新潟県中頸城郡妙高高原町
 電話 0255-1861226 1

高山の花、湖原の花
 〒949-1210 0 新潟県中頸城郡妙高高原町
 電話 0255-1861226 1

黒沢池ヒュッテ
 〒949-1210 0 新潟県中頸城郡妙高高原町
 電話 0255-1861226 1

南から昇る朝日と海に沈む夕日
 〒949-1210 0 新潟県中頸城郡妙高高原町
 電話 0255-1861226 1

国民宿舎 大佐渡ロッジ
 〒949-1210 0 新潟県中頸城郡妙高高原町
 電話 0255-1861226 1

あせらぎ

題字・小林政三

1月10日、鳥羽摩訶寺の梅を見ながら、丸山(2888m)に登った。
三百五十年生きてきた紅梅の花も趣があったが、それにも増してイソノキ樹叢の幹の魁偉な姿に心惹かれた。さらに、珍しいコツプガヤを見た後、三角点をめざした。

登路にも、美しい自然林が残っていた。鹿の子模様が面白いカゴノキ、板根で立つスダジイ、うろに雨水を溜めたヒメジャラ、白い実をつけたイヌセンリョウ、他にもクチナシ、タイムンタチバナ、シロダモ等多様な樹が見られた。

寺から15分であつた山頂には、歴代住職の墓所があつた。展望しゅくを買いました。それ以後ずーっとワインを持ち歩いていました。

そして、今回は保冷の方法を学びました。保冷化をはかるため断熱材として白を付けたのが羽毛、羽毛として白を付けたのが羽毛、羽毛素材である雨カッパの生地を面からサンドイッチ状に仕立てそれを箱状に縫い合わせ、上部に蓋をファスナーで閉鎖するようにして完成したのが10月、時すでに遅し山頂では冷たい風が舞っています。おりに恐しくその頃羽毛布団の中綿抜き取り事件が発覚したのです。勢理子かあちゃんも口もきいてくれません。ともあれ作品は完成し、来年の夏を乗りこえることが出来るのか! (山形 明)

野夏、新ハイ制会山行で黒部五尾橋から双六岳を歩いたとき、山行のいよいよ、弓折岳にうっかりカメラの交換レンズを落し忘れてしまい、気が付いたのは、新開宮に下山した後でした。

登山指導センターに遺失物届を提出したのですが、応対したお巡りさんは「最近では、拾って

はぐくわず捨て、東に麓の加茂や滝ヶ峰、生油湖、西の嶺間に明解ヶ岳が見えた。住職の話では、待来、南側を拓いて展望台を作りたいたのことだった。もしそうなら登る人が増えても、ごみのない美しい森のままであってほしいものだ。
(藪木伸人)

7月上旬、早めの夏休みで北海道へ。初日は小雨で移動日。
2日目は午後から晴天の予報に、真狩コースから羊蹄山に登る。百名山とあって多くの人でにぎわっていた。

3日目、渡島駒ヶ岳新六合目駐車場へ、こもも満車状態。砂れきと岩石がゴロゴロした道を

も半数は届出がない。まあ、諦めたほうがいいね」とのこと。簡単に話を決めきれず、双六小屋と鏡平山荘を経営する小池さん宅へも電話で事情を説明し、協力をお願いしたのでした。

どこかとも何も連絡がないまま10日間も過ぎた頃「やっばり駄目か……」と諦めながらも、念のために小池さん宅へ電話をすると「すみません! 連絡するのが遅れてしまつて……」と叫んだ娘(?)さんから、それらしいレンズが見つかっているといふ嬉しい知らせ。

悪人は東京在住の男性でした。電話で丁寧にお礼を述べ、喜びを伝えた後一歩は、もう諦めていました「と」といって、「いやあ、山を歩く仲間はそのためのじゃないですよ。忘れ物だつて必ず届きますよ」と種やかな声。電話の前で悉くしつ、さわやかな気分になった。 (夏見守康)

ゆっくり馬ノ背に上がる。ここから纜索のように見える剣ヶ峯へ向かうが、入山禁止のロープが張ってあった。ほとんどの人が馬ノ背で下山するようだ。剣ヶ峯山頂部はガスにおおわれている。しばらく休んでいると単独行をのがれてきた。どこまで行ったのか不明だが、私も行ける所まで入山強行。落石多発の不安定な岩場を登りつめ、右側の岩壁へ出る。ここから見える最高峰は右へ回り込めば登れるのだが、ひこりで登った後の下降が心配。この地点で戻し、と自分に言い聞かせ、妻の待つてい岩場下へ急いだ。

4日目、ニセコアンヌプリに登り北海道を後にした。
(栗津浩二)

山頂でビールが飲みたい、夏はビールに限るといふものの冷えてないビールはうまくありません。この問題を解決すべく思索の末、缶ビールを凍らせて持参する方法を選びましたが、冷凍庫内でビールが凍き出し、庫内中にビールが液状に凍りついて茶色に変色し、家族中のひん

りを済ませた後、妻参道を土小屋へくだった。
初秋とは言え当日は真夏の暑さが続いている、厳しい登山となった。最も苦しいのは「試しの鎖」だった。

垂直に近いと思われる岩壁を、70斤の長い鎖に頼ってよじ登るものであり、勢いこんで登り始めたままではよいが、真ん中あたりで下方を見下ろしたところ、あまりの急傾斜にゾォッとして足が動かなくなってしまった。思切れも甚だしく、上下に人影なく一人だったのを幸い、鎖をしっかりとつかんだまま10分間も立泳みする間、後悔することしきり。そして最後の5斤を登りきった時には足がガクガクして、しばらくは動くこともできないありきだった。

<p>体感昼食入浴も歓迎 10名以上マイクロバスで送迎 箱根仙石原温泉 福 島 館 〒250-0631 神奈川県 箱根市仙石原1-13-34 電話 0460-419304</p>	<p>「伊豆の箱根」の管轄、レジャー宿 駅下河津川の清涼 湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘 ご宿泊の方へは、宇城山ハイキ ングコース案内書をお送りします。 〒413-0550 静岡県静岡市清水区湯ヶ野93 電話 0558-351722</p>	<p>四季繰り返す豪華温泉のハイク ト・温泉・乗鞍宿へ 冬はスキー けやき湯りと味の宿・日観連 温泉旅館 けやき山荘 〒390-1500 長野県南木曾郡南木曾町東横山 電話 02663-931255</p>	<p>さわやか信州 露天風呂 山吹の湯 湯田中温泉(湯波) 日野屋旅館 〒381-0400 長野県下 高井郡山ノ内町湯田中温泉御坂 電話 02669-331377</p>	<p>湯田中温泉(湯波) ハイキングにXCSキー 高 峰 温 泉 〒384-0000 長野県小市町高峰温泉 電話 0267-2512000</p>	<p>ハイキングにノースキーにノ 北野温泉 石の湯ロッジ バス 熊の湯温泉下車 電話 0269-342421 東栄社・東京駅前新築温泉宿 1-20-5 (新栄ビル) 除スノーシューヒル 電話 03341-0211</p>	<p>塩の道 千間街道 百八十一番(観音原) ホテル 白馬プランシェ 〒300-0300 長野県北安曇郡白馬村いわたけ 電話 02661-724452</p>	<p>八ヶ岳南麓北麓の中心地 59年秋の湯温泉法全旅館 木の香の湯温泉法全旅館 オーレン 小屋 泊料 昼食付き 6000円 4月～11月未開版 〒399-0215 長野県南木曾町湯田中温泉御坂 電話 02666-721278</p>
---	---	---	---	---	--	---	--

は35封、二ノ鎖は65封、三ノ鎖は69封の長さで、くたりは巻道を利用すればよく、試しの鎖は試さないほうがよいらしい。

三週開程して、深夜のNHK教育テレビで一中高生のための登山会―日本百名山をめざす―石越山―の再放送を見た。その中で岩崎元郎さんは「試しの鎖は下りもあり欲しいから敬遠する、そして一・二・三のなか、列座は一ノ鎖だけに限定する」と言い、「一ノ鎖場で手足の使い方など丁寧に説明されていた。登山者であっても登山家ではない私にとっては大変参考になった。しっかり頭に入れたので、今後の登山にて猪場の通過に役立つことだろうと思っている。

(東谷 宏)

9月6日、鈴鹿・仙ヶ岳が雨天中止になり、福井の一乗谷朝倉遺跡を見学に行った。人の出会いは不思議なもので、仙ヶ岳に行っていたら岡山から来たと言う女性と会えなかったらう。

一乗城山に登って帰りの電車を待っていると、同年代の女性

が待合室に入って来た。女性は一人旅のようで、朝倉遺跡を詳しく見学したみたいで、「上城戸は草の中でしたよね」と言う。話すことも、しっかりしている。

岡山から来たと言うので、「備前中山城に行ったことあるよ」と言うのと「高梁のすか」と聞いてくる。青春18きっぷで米子・鳥取・津山の城を廻った時のことを話すと、「石垣が立派だったでしょう」と言う。この人は、すべて分かっているのだ。偶然山旅で出会って共通の話ができるなんてすばらしいことだと思った。ほんのわずかの時間だったが、いい思い出を残してくれ、心に残る人になりそう。人の出会いは不思議さ、人との出合いがある電車の旅っていいものだと思う。(小出農巻)

山行短歌
8月21日 安曇村徳沢
奥上高地の月はロッジに懸かり
地震なきよ祈り寝に就く
8月22日 北アルプス蝶ヶ岳
名残り雪の彫形消えし蝶ヶ岳
逝き夏めぐりきて花は舞う

峠が近づくといつも強く感じる。抜けるような青空に、目の高さのちよっと上にはお天道さんがある。明るい光はサンサンと、視野いっぱい空間を照らしている。

ススキ原の丘元からグッワツと広がる谷間は、大きなボケツトいっぱいに結まる透明な涼風を、溢れ出してきているみたいだ。ススキ穂の揺らぐ逆光の向こうは、山並みがシルエットになって、濃い緑葉の巨樹を引いている。幾重にも重なり薄くなる層の縹。

午後3時、ススキ原に寝ころぶと、乾いた草の匂いに包まれる。この匂いは子どもころもくぐりこんで遊んだ茶小屋の匂いに似ている。プツッとスツツと音のことが浮かんでくる。ウツツとしたのだろうか、お天道さんは遠くで目の高さにかかっている。汗のシャツはすっかり乾き、爽風は肌心地よい。

鳥もケモノの気配も感じない、林中の静寂さが身体を包んでくのでした。
ススキ穂のすまみに残る 夏わすれ 緑水
秋から冬への山旅は人恋しくなるんだ。かと言って計画を立てての、パーティを組んだ山旅への誘いは気がおろさない。ふらっと秋空のしたを、黄葉や紅葉に染まりかけたアツアのファミリーに逢いたくなくてくる。(岡井克治)

9月23日、上村操さんの追悼山行が、生駒山系の国見山と交野山で実施された。
前日、台里が近畿地方を通過、養生寺を始め、多くの被害が出たが、きょうは晴も開通。台風一過の晴天とはいかないが、時折、小雨のぼらつく天気。主催者の近畿山行会から榎本孝雄(元会長)、辻村前会長を始め五十余人、ゲストとして、上村さんのご主人と磨伴次と私が参加。片町線の津田駅から津藏池を経て国見山へ。途中、台風による倒木もあったが、国見山に到

8月22日 北アルプス常念岳
楯を跡え友情あつき常念岳を
照らせお口さみお屋さま
8月26日 比良雲満屋
奥の深谷に踏み入りて丸木橋を
渡れば街の思想消え去る
9月13日 北アルプス岩壁山
夏スキーの学生群れる岩壁に
立てば白馬の呼び声聞こゆ
9月14日 北アルプス白馬岳
大雪渓の美顔を見せたがレレは
ガス満巻きて白馬は遠く
9月15日 北アルプス蝶ヶ岳
破線上の影絵となりぬ儀等に
覆いかぶさる雲巻よ去れ
9月15日 白馬踏風景
風よ吹け雨よ降れ嵐来たれども
絶の露大落に入れば極楽
9月21日 北アルプス無岳
ミルキーウェイ疾走と逢いに来た
初恋の山は朝焼けをひろげ
9月22日 徳高町中房温泉
雨粒を打たせ渡にして遊び
9月23日 比良トトル比良
可遊きめ形見に咲くやリソウは
荒れ果てし吾親音を感謝す
(木村太郎)

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー J&S野駅 北八ヶ岳登山口まで 送迎します 電話 0265-67132668	日本唯一の女人禁制の山「大 峰山」(百名山)の登山口 種々女性専用コースもあり 温泉・名水の里 旅館 紀の国屋 甚八 1泊2食付 7,000円から 6,000円 〒308-0104 311 奈良県三郷町天川河川 074761410309	九州の最高峰・日本百名山 宮之浦田に一番近い宿 屋久島安曇登山口 屋久島グリーンホテル 〒899-1143 311 鹿児島県志布志市久野 0999941613021	御在所登山口 愛知川溪谷歩きに 山好き仲間集う宿 朝明溪谷 朝明茶屋 山小屋 〒101-2251 三重県三頭郡野町二草 059319331768
---	---	--	---

着。山頂より上村宅を眺める。
白草池の橋でご主人が待参され
た遺影に菊を献花し、辻村氏の
発声で黙禱。昼食時、彼女の好
きなアルコールを飲みながら、
思いつく話となる。希望者のみ、
交野山を往復し、津田駅へと下
山する。
彼女とは同じ浴槽に住んでい
たので、京都で飲んだの帰りに
は、新田返坂で乗り過ごさない
ように頼んであった。四国の八
幡派出身の彼女は四国の山には
詳しくあった。巨尾塔山がいいよ
と口われながら未だに実行に移
していない。来年は八幡浜や四
国を歩きたら、彼女の顔をも思
い出したいと思っています。
(阪上義次)

平成10年の台風は発生が遅く
数も少なかったが、そういう年
はかえって始末が悪いようで、
実際、9月下旬に襲来した台風
7号は奈良の空母寺など各地の
文化財に大きな被害をもたらす
ことになった。
10月25日、行く機会を逸して
いた青羽山・経ヶ塚山・熊ヶ岳
の縦走コースに出かけることに

近鉄のあみま俱樂部の踏査による、次のような箇所が10月15日現在、通行不可能になっているとのことである(迂回できるものは除く)。

龍門岳・三峰山・龍野野岳・龍王山(天廻)・大國見山・神野山・清淨坊谷谷・吉野山(花矢倉・龍取松)、遊取・高取山(龍野山・高取松)、多武峰・飛鳥の里(龍野岳)、室生寺・大野寺、十八神社・室生湖、河内飛鳥(高貴寺)立石峠(竹の内街道取付)、金剛山(山頂)北宇智、多度山水郷飯屋、柳生街道(地獄谷コース、穴仏) 須田作業は進められているので、詳細は近鉄あみま俱樂部(06-6775-3356)や関係市町村に確認されることとでしよう。(柴田昭彦)

10月9日の急行「ちくま」で大阪を発ち、戸隠山・高妻山へと出かけた。 晴天の下、例年よりやや遅れて色つき始めた戸隠山。空の青と樹木の間にそそり立つ岩壁は見事な眺めだった。有名な「箱の戸渡り」では大洪水、皆それ

ぞれの格好でにぎやかに遊んでいた。八方殿、戸隠山と来たあたりから小雨模様となり、一不動では本降りとなった。 この遊歩小區で一泊して高妻山へ行く予定を変更し、下山して牧場に着くと雨は止んだ。秀麗な高妻山の姿に心を惹きながらの捕宅だった。(川那辺次郎)

10月9日夜、車は北陸自動車道を廻る。車中には昨年のメンバー2名と大阪の天福の計5名で、目的は福井県和泉町九頭嶺湖畔の繁枝岳(1090.5m)である。昨年は999.5mの登山に失敗しているのが確実に山頂に立てるピークを選んだ。ガイドブックに載っている山なので、10月10日10時に登山し、記念写真をと決めて、少し早めの出発となる。車中での飯取なので、歩き始めの急坂に辛やくことしきり。これも余裕がさせるのだらう。尾根筋に入るとブナの太木の梢越しに荒島岳を築しみながら山頂へ。 時間と天気に恵まれるということ、これはど気分がゆった

りとするのだと実感する。山頂はわがメンバーの独りごみ、定刻になるカメラのシャッターを押し、シャンペンの栓を抜き、クーキに入刀するなど楽しい一研であった。 ゆったりとした時間の流れを羨しみ、下山にかかる。 ちなみに、今回の山行で会ったパーティは一組であったことを報告しておく。(須藤 賢)

10月山行報告 1日「大和の峠を歩く」果無峰案内。雨天で途中で引き返す。 42名(前日は天辻峠を案内し、十津川温泉「湯」で泊)。 4日「やまど地形図の会」例会。 9日「さくら会」案内。23名。 10日「点のつどい」例会。血辻堂(大台ヶ原山)案内。30名。 12日「大和山行」(飯坂山)再訪。 12日「大和山行」案内。高見峰案内。29名。 15日「大和の水辺を歩く」山上川みたらい渓谷案内。42名。 21・23日 黒部下流下をくだる。

29日「峠一番」例会。龍野野岳・龍山峠。参加38名。(上田洋弘) 98年10月に御池岳のT字尾根にて確認された、熊の爪痕らしき大木の樹皮は、シカの角研ぎの跡であるとう、写真を見た哺乳動物に詳しい名古屋のTさんは、話されていました。 奥美濃の横山岳で本物の熊の爪痕を見たことのあるTさんも、感じが違ふと言われていました。 11月1日御池岳のタテ谷でも同じような傷痕を確認しましたので、現物を見てもらいましたが、やはり熊とは違ふと話されていました。 シカの足跡と葉が木の近くにあったので、間違いないシカでした。しかし最近、飯原岳と三重県境にある高嶺千岳にて、熊の親子を見たという話が入ってきました。地元、藤原町古田の住民も鈴を持って山に入っているようだとの事も聞きました。 この地域に入る時は気をつけましよう。(山田明男)

山行計画 (1・2月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と表記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加者1名あたりその他の資料代金等をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず係に連絡してください。休日の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。 例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料日額50円と救援対策費日額100円(夜行日帰りの場合は2日になり1000円)を支出していただきます。

傷害保険料内訳は次の通りです。(來回水袋上乗保険料を含む)

死亡・後遺障害保険金	1,000,000円
入院保険金	50,000円
通院保険金	20,000円

保険の対象は基本時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・水害等は自分で防ごうとした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書
山行名 (正確に記入すること)
期日
住所 千
氏名
会員番号 (会員でない方は会員外と記入)
電話番号
生年月日
緊急時の連絡先 TEL (山行中の連絡先記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

冬期(1・2月)の登山は準備があり、本誌にしています。各山行計画欄に特記してなくとも、ロングスバット・アイゼン・ストックかビッケル・サングラスなどの雪山を歩く装備で、また手袋・下着・靴下は防寒・防湿用のものを、登山靴は防水してからお出かけください。

京都山科・宮羽山から醍醐寺 (一般向き)
期日 1月2日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口 6時35分/JR山科駅前 9時00分
コース 京都山科駅(車中) 大谷駅→御丸神社→宮羽山→千原市→醍醐山→三笠院 バス停または地下鉄醍醐駅(車中) 山科駅(解散) 約2600円(昼飯つき) 車使用・名古屋から) 2万5千円(京都東南部) 係 小出 豊春
申込み 〒440-0100 2 刈谷市一里山町一里山邸の3 小出豊春まで

山行例会の実地について 山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込みしてください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも知れない。緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。 申し込みの返信案内は係員が決まり次第、山行日の10日前頃になります。早くから申し込みました方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。 記録のグレードは、常日頃山歩きに慣しんでおられることを前提としています。 (初心者用) やさしいコース (初級用) などたても多あります (一般用) ハイキングの標準コース (中級用) かなり難関のコース (やまびこ用) (難関用) は、危険な所があり、クワイザリや、くだりが長く続くコースと、ご理解ください。

太閤秀吉最後の花見を有名な姫廟寺へ初詣でを兼ねて行きましょ。*申し込みハガキに集合駅を明記してください。雨天中止

三重・白旗山(一般向き)

期日 1月4日(日) 日帰り
集合 近鉄名古屋駅北口7時00分/松阪駅8時00分

コース 松阪駅(バス)大石幼稚園前→穴下道→石塚大庭園→白旗山→石塚大庭園(バス)松阪駅(解放16時10分頃)

費用 約4000円(名古屋駅から)

申込み 小出良香 〒448-0002 刈谷市一里山町一里山59の3 小出良香まで

平日本線ハイウェイ51 比較の道⑥ 西教寺から横川 (一般向き)

期日 1月7日(日) 日帰り
集合 JR西線比叡山本駅 8時35分

コース 比叡山本(バス)西教寺/奈良阪から阪急不動

費用 交通費各自

申込み 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで

自然観察山行20 美濃・石津御岳から多度山

期日 1月9日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分/近鉄老坂石津駅前8時50分

コース 大垣駅(電車)近鉄石津駅→石津御岳→多度山→多度大社→近鉄多度駅

費用 約1500円(大垣から)

申込み 各務原市藤原村用野1の19の5 菅見守謙まで

期日 1月10日(日) 日帰り
集合 熊野バス停広場8時30分

コース 熊野・滝山・林道→文三ハゲ→熊野山→水無山→尾根→熊野(解放)

費用 交通費各自

申込み 岩野 明 ○山本久雄 〒610-0121

城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで *マイカー山行

期日 1月10日(日) 日帰り
集合 JR曾根駅10時00分

コース 曾根駅→鹿島神社→馬ノ背→嵐ノ柴山→射野出雲→根ノ植野山→別所→御蔵駅(解放16時30分頃)

費用 交通費各自

申込み 明石市大久保町高丘3の1-20の104 井上保まで

期日 1月10日(日) 日帰り
集合 近鉄名古屋駅北口7時20分

平日ふれあいハイク12 金剛山(一般向き)

期日 1月19日(日) 日帰り
集合 河内長野駅南海バスのりば9時00分(9時10分発に発車)

コース 河内長野駅(バス)金剛山→千早城跡→金剛山頂→千早城跡→千早峠→ロープウェイ前(バス)河内長野駅(解放16時40分頃)

費用 約2500円(難波より)

申込み 川上久登 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで

期日 1月23日(日) 日帰り
集合 近鉄・JR松阪駅前9時00分

コース 松阪駅(バス)橋本口→堀坂峠→堀坂山→勢津

三坂鉄道西藤原駅9時00分

コース 近鉄名古屋駅(電車)富田駅(のりかえ・電車)西藤原駅→栗玉寺道→八合目→藤原岳→八合目→大貝道→西藤原駅(電車)名古屋駅(19時頃)

費用 約2200円(名古屋駅から)

申込み 小出良香 〒448-0002 刈谷市一里山町一里山59の3 小出良香まで

期日 1月15日(日) 日帰り
集合 JR大阪駅発7時05発播磨赤穂・姫路行きに乗車

コース 京都・大阪・各駅(電車)姫路駅(電車)岡山駅(電車)坂出駅(タクシー)野外活動センター登山口

期日 1月15日(日) 日帰り
集合 JR大阪駅発7時05発播磨赤穂・姫路行きに乗車

コース 京都・大阪・各駅(電車)姫路駅(電車)岡山駅(電車)坂出駅(タクシー)野外活動センター登山口

飯山町が登山道を整備し、展望台も新設したので遊歩道が一望できます。ちよつとあつじ日帰りですが、電車の旅も楽しめましょ。雨天決行

期日 1月15日(日) 日帰り
集合 宇治溪谷入口駐車場8時00分

コース 宇治溪谷→中尾根→電ヶ岳→遠足原→宇治溪谷(解放16時頃)

費用 交通費各自

申込み 飯山町が登山道を整備し、展望台も新設したので遊歩道が一望できます。ちよつとあつじ日帰りですが、電車の旅も楽しめましょ。雨天決行

期日 1月17日(日) 日帰り
集合 出町柳駅9時00分

コース 持越峠→真宮八幡町→若尾野→須谷峠→半国高山→供御飯峠→杉坂口(バス)京都駅(解放)

費用 約3000円(バス代)

申込み 城陽市寺田大野10の10

新ハイキング関西まで *マイカー山行

期日 1月17日(日) 日帰り
集合 出町柳駅9時00分

コース 持越峠→真宮八幡町→若尾野→須谷峠→半国高山→供御飯峠→杉坂口(バス)京都駅(解放)

費用 約3000円(バス代)

申込み 城陽市寺田大野10の10

期日 1月17日(日) 日帰り
集合 出町柳駅9時00分

コース 持越峠→真宮八幡町→若尾野→須谷峠→半国高山→供御飯峠→杉坂口(バス)京都駅(解放)

費用 約3000円(バス代)

申込み 城陽市寺田大野10の10

平日ふれあいハイク12 金剛山(一般向き)

期日 1月19日(日) 日帰り
集合 河内長野駅南海バスのりば9時00分(9時10分発に発車)

コース 河内長野駅(バス)金剛山→千早城跡→金剛山頂→千早城跡→千早峠→ロープウェイ前(バス)河内長野駅(解放16時40分頃)

費用 約2500円(難波より)

申込み 川上久登 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで

期日 1月23日(日) 日帰り
集合 近鉄・JR松阪駅前9時00分

コース 松阪駅(バス)橋本口→堀坂峠→堀坂山→勢津

期日 1月23日(日) 日帰り
集合 近鉄・JR松阪駅前9時00分

コース 松阪駅(バス)橋本口→堀坂峠→堀坂山→勢津

大河内町(ハス) 松原駅

費用 1500円(交通費含む)
*バス代は約800円(乗車券2枚5千円大回り)
①松原駅立
②新町寺夫
〒513-0804
給田市平田町4の5
尾崎英吉まで

自然観察山行21

期日 1月24日(日) 日帰り
集合 JR大塚駅8時40分/近鉄新大塚駅8時40分/近鉄新大塚駅8時40分/近鉄新大塚駅8時40分
コース 新大塚駅→新大塚公園→三方山→菅ヶ原→小倉山→姥山(往復)
費用 約1500円(電車・リフト代)
地図 2万5千円縮尺
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

週末ハイク12

週末ハイク12
期日 2月6日(日) 日帰り
集合 JR新大塚駅9時10分
コース 新大塚駅→三方山公園→北沢山→菅ヶ原→八王子山→一丘山→姥山→新大塚駅
費用 約3500円(バス代含む)
*乗車券は新大塚駅→田原駅
地図 2万5千円縮尺・八日
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

自然観察山行22

期日 2月7日(日) 日帰り
集合 出町柳駅8時30分
コース 出町柳駅(ハス)→花井峠→大日院(往復)→滝谷山

天候に恵まれれば、観察から雄大な雄鷹平野の雄観を望めます。
*遊覧小屋使用も可
交通費含む
地図 2万5千円縮尺・御池
申込み ①見沼野牧
〒510-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
*主にマイカー山行
藤原中山頂で雪中キャンプを営みます。雪山を歩く装備で(保険を要す)。雨天中止

自然観察山行21

期日 1月30日(日) 日帰り
集合 三枝鉄道西原駅
コース 西原駅→藤原山→菅ヶ原→小倉山→姥山(往復)
費用 約1500円(バス代含む)
地図 2万5千円縮尺
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

週末ハイク12

週末ハイク12
期日 2月11日(日) 日帰り
集合 朝明駅入口・千早谷田所上の駐車場8時00分
コース 朝明駅→千早谷田所上→朝明(往復)
費用 約1500円(電車・リフト代)
地図 2万5千円縮尺
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

自然観察山行22

期日 2月15日(日) 日帰り
集合 JR大塚駅8時50分/近鉄新大塚駅8時50分
コース 大塚駅→近鉄池田駅(タクシー)→藤原山→池田山(往復)
費用 約1500円(電車・タクシー代)
地図 5万1大垣
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

期日 2月3日(日) 日帰り
集合 有馬温泉バスセンター
コース 有馬温泉→紅谷山合→白根山→紅谷山→松原山→六甲最高峰→尾崎英吉
費用 約2000円(バス代含む)
地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

自然観察山行21

期日 1月31日(日) 日帰り
集合 出町柳駅9時00分
コース 出町柳駅(ハス)→花井峠→大日院(往復)→滝谷山
費用 約2000円(バス代含む)
地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

週末ハイク12

週末ハイク12
期日 2月18日(日) 日帰り
集合 JR奈良線新大塚駅8時00分
コース 新大塚駅→南平尾山→三上山→海保山寺→神代王天
費用 約3500円(バス代含む)
地図 2万5千円縮尺
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

自然観察山行22

期日 2月21日(日) 日帰り
集合 河内線河内宮六の手前

期日 2月3日(日) 日帰り
集合 有馬温泉バスセンター
コース 有馬温泉→紅谷山合→白根山→紅谷山→松原山→六甲最高峰→尾崎英吉
費用 約2000円(バス代含む)
地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

自然観察山行21

期日 1月31日(日) 日帰り
集合 出町柳駅9時00分
コース 出町柳駅(ハス)→花井峠→大日院(往復)→滝谷山
費用 約2000円(バス代含む)
地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

週末ハイク12

週末ハイク12
期日 2月18日(日) 日帰り
集合 JR奈良線新大塚駅8時00分
コース 新大塚駅→南平尾山→三上山→海保山寺→神代王天
費用 約3500円(バス代含む)
地図 2万5千円縮尺
申込み ①見沼野牧
〒504-0828
各務原市藤原田町1の19の5 電話0565-211111
*定員20名(先着順)①

自然観察山行22

期日 2月21日(日) 日帰り
集合 河内線河内宮六の手前

寺院(6時30分)
コース 寺院広場→落合→汗ふき
峠→雲仙山→西園院→
釜味→今畑→寺院広場
(解散)

費用 交通費各
地図 昭文社「雲仙・伊吹・
藤原」

係 ◎岩野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
*マンカー山行

真冬の雲仙山へ。西園院をく
だります。(21号・44ページ参照)。
小雨・雪混行

南山城・雲仙山と三ヶ岳
(一般向き)

期日 2月21日(日) 日帰り
集合 J・R関西線加茂駅8時40
分

コース 加茂駅(バス)和東・原
山橋→東海自然歩道→三
ヶ岳→蘆山房→下京市
等駅(解散15時頃)

費用 約2500円(大阪から
地図 5万11奈良
係 ◎村田智俊 ○高比留美
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

和東から雲仙山の三ヶ岳へ歩
ます。軽ハイキングで整備し
るのんびりコース。下山後、笠置
わかさぎ温泉で入浴できます。
小雨混行

三河・宮路山から五井山
(一般向き)

期日 2月21日(日) 日帰り
集合 J・R名古屋駅中安改札口
8時00分

コース 各駅新名古屋駅(電車)
赤坂駅→宮路山→五井山→
ノ院→宮路山→五井山→
宮路山→ドワンツツジ
群生地→町道→赤坂駅
(解散15時20分頃)

費用 約1600円(名古屋か
ら)

地図 2万5千1御油
係 ◎小出良春

申込み 〒448-0002
刈谷市一里山町一里山59
の3 小出良春まで

駅から近い山でもあり、愛知県
内では人気がある山です。山頂か
ら三河湾の眺めがすばらしい。
雨天中止

雲の子と遊ぶ4
鈴鹿・雲仙山(雲崎向き)

期日 2月27日(土)・28日(日)
1泊2日(テント泊)
集合 J・R東海線龍ヶ井駅集
合9時30分(電車着9時
33分)

コース (27日) 龍ヶ井駅→丹
生イボ取り地蔵社(車庫)
ピン坂道→湯宮(尾根で
テント設置)→中道雲仙寺
探索→テント場(泊)

(28日) テン、場→郡境
尾根→雲仙山三角点→南
雲仙山→経塚山→郡境尾
根→テント場→丹生イ
ボ取り地蔵社(車庫)→龍
ヶ井駅(解散17時頃)

費用 交通費各
地図 2万5千1雲仙山
係 ◎橋井克治 ○木村吉秀
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング園西まで
*主にマイカー山行

雪の状態によってテント場を換

雪の中野営に必要なもの一
切を運びグッズ(ソリ、
スキー、スコップなど)
準備 テント・炊事具・食料・
雪中野営に必要なもの一
切を運びグッズ(ソリ、
スキー、スコップなど)
費用 交通費各
地図 2万5千1雲仙山
係 ◎橋井克治 ○木村吉秀
申込み 〒610-0121

めです。雪山を歩く準備で(保険
対象外)。雨天中止

湖北・伊吹山(やや雲崎向き)
期日 2月28日(日) 日帰り
集合 J・R近江線湖東駅8時15
分

コース 近江湖駅(バスまたは
タクシー)伊吹山登山口
→神社(ゴンドラリフト)
三合目→五合目→八合目
→伊吹山頂(往復コース
リフト代)

費用 約3000円(交通費・
リフト代)

地図 昭文社「雲仙・伊吹・
藤原」

係 ◎齋見守康
申込み 〒504-0828

各新原市森原村雨野1の
19の5 齋見守康まで
*定員20名(会費1000円)

大雪原の伊吹山を登ります。ア
イゼン・スキー・ストック等必須。
天候・積雪の状態によりコース変
更あり(保険対象外)。強い冬型
気圧配置など悪天のときは中止。
*マイカーで参加の方は申し込み
ハガキにその旨お知らせくださ
い。

山行報告 (9・10月) 新ハイキングクラブ関西



御金明神(鈴鹿を歩く55)

9月6日(日) 小雨
紅葉狩。神崎川広場集合8・30
35(車)神崎川林道終点8・50
白滝谷集合9・50→天狗ノ滝10・
20→天狗ノ滝10・50→御金明神11・
40(昼食)12・20→広瀬山合13・
10→天狗ノ滝13・40→白滝谷集合
14・20→林道終点15・30(解散)
雨の予報だったが、7名の参加
者上小雨のなかを出発した。雨に
けむる神崎川の河原から深い樹林
の静けさを感じ、土足派をきいて
右に登ると神の御座御金明神に着
いた。深山幽谷・静寂のなか、口
を少し開き東を覗んだ顔はまさに
天狗の顔だ。自然の底しれぬ不思議
な地形には倒されたい迫力を
感じた。
(参加者) 山田三三 谷 守
西田和幸 水戸鉄治 中澤隆司
石田真由美 ◎岩野 明 ◎村田智俊

鈴鹿・仙ヶ岳

9月6日(日) ◎小出良春
雨天のため中止しました。

東海自然歩道を歩く(7回)
水井山から横山

(地図参照山行29)
9月6日(日) 曇り時々雨
京都駅前バスターミナル集合7・
40→8・17(バス)野村使れり9・
20→10・00 仰天峰11・13→20
水井山12・03(昼食)12・55→横
高山13・13→17→末休形13・36→
55→祝堂14・40→45→スキー場
15・25→47→ケール比叟15・55
→16・00(ケーブル)八幡堂16・
10(解散)
朝から雨。中止のつもりで集合
場所まで行くと20人もの参加者が
待っていた。小雨のなかを登り、
地形図の読み方とコンパスの使い
方を勉強。初めて参加の人が9人
もいた。
(参加者) 前田一 田中真知子
高森宏一 陣 尊子 岡本いく子
小川晴夫 堀 久子 中川智美子
吉本孝 西 岡田孝志 吉本天保子
吉本孝一 岡田春美 川上久登
石原孝子 上原茂枝 加藤佳彦
岡田吉子 横田昌彦 ◎中村 登

燧元一彦 (計21名)

四国の山・剣山と三ヶ岳

9月12日(土)・14日(日) 2泊3日
(12日(土) 晴れ) J・R京都駅八条
西口集合7・30→45(バス)見ノ
原14・35→45→御神水16・05→剣
山山頂ヒュッテ16・35 剣山16・
45→17・10→山頂ヒュッテ17・15
(泊)
(13日(日) 晴れ) 山頂ヒュッテ5・
55→ジロキエウ6・45→55→丸
石7・50→7・05→左右登壇小原
8・30→伊勢の岩屋9・05→P1
7・38→10・05→P1→7・38→10・
40(昼食)11・10→白雲遊覧小屋
12・05→20→カヤハゲ13・30→三
嶺14・35→55→三嶺ヒュッテ15・
05(昼食)
(14日(日) 曇り一時雨のち晴れ)
三嶺ヒュッテ8・30→P1→51→
7・45→平良谷登山口8・20→
名原9・05→30(バス)丸石パー
キングランド9・40(観光)入浴・昼
食12・40(バス)京都駅13・45
(解散)
1日目はハイキング気分を途中
御神水の冷たい名水を味わい、ミ
ヤマクマヤサにおおわれた剣山山
頂。明日登る美しい山容の次郎

茨は望めたが、遠望は晴天続きのため
諦めた。2日目は快
なクマヤサの草原とウンザリする
やぶごきの緩急の三ノトを克服して
3060度の展望の山頂に着いた。水
湯まで給水に行き、どうにか楽
しい夕食にありつけた。3日目は
余韻をもって下山。奥御谷のかず
ら橋で遊ぶ時間がとれた。
(参加者) 三井敏一 金井伸子
横井 徹 横井密子 北川史枝
吉本孝幸 森川信之 瓜原利明
山崎勝夫 小林 社 安倉正勝
鈴木 康 夏山春子 安田文彦
◎岩野東彦 (計15名)

越美・冠山(自然歩道山行6)

9月13日(日) 晴れ
大沼集合8・10(バス)冠山山
10・30→40→冠山11・50→直津12・
00(昼食)13・00→冠山山14・00
→10(バス)大沼16・40(解散)
山頂を走るバスから、道力
に驚き、杖をさげ変化する冠山
の風景を満喫。峠からのハイキン
グは少々も足りないほど。山頂
は360度の大展望台でしたが、
真日の雲で霞が濃く、見晴ら
しいはいまひとつ。足根歩きのため花

ら散しく、開花していた草木は18種でした。

(参加者) 朝倉利己 岩城豊子 田中明 野崎重郎 落合ひろ子 深坂 寛 深坂昌子 砂原恵美子 深瀬俊博 藤井健造 藤岡美智子 若松陽子 森 嗣代 山田朝代 若松陽子 ○加藤元彦 (計17名)

頭中山(京都市北山歩き②) 9月15日祝 晴れ一時雨 J R京都駅八条口集合7:40~45 (バス) 堀野登山口9:50~10:00 下小丘ヶ谷林道終点10:30 若松園遊園地11:25 上谷分岐12:20 頭中山12:35(昼食) 13:30 上谷分岐13:40 上谷 上谷林道終点15:00 10 福登登山口15:30 50(バス) 京都駅17:50(解散)

尾根にのるまでは急登だったが、尾根道は起伏の少ない緩走路で頭中山へ予走通り着いて展望を楽しんだ。昼食時よりにわか雨になり、濡れた大谷の道を歩くことになった。(参加者) 中尾博子 岡本いく子 小杉 浩 巻田 晃 小坂博子 東谷 宏 細井和子 杉村安代

布鹿竹美 近藤 恭 吉屋孝次 田中明 吉岡義枝 岡田登美 渡辺達郎 井川敏一 井川陽子 田中善雄 武部 剛 武部美美子 北川明子 北川直雄 竹内昌久子 三光寺日出子 久世美紗子 秋田桐樹 高森宏一 森宝智美子 別野陽子 高橋恵治 川上善代子 渡辺利子 安良陽子 瀬戸内伸子 吉川武司 伊藤陽子 菅生幸子 原 文子 谷手志津 福田美智子 加藤元彦 山下恒三 山崎多恵子 辻村幸裕 小林 稔 中尾美智子 若田哲士 美村幸治 美村三枝 飯田夢子 ○寺田久広 ○兵比恰美 ◎別田智波(計25名)

愛宕三山Ⅱ(木曜ハイイク④) 9月17日祝 曇り J R八木駅集合8:25 30(バス) 越前9:05 15 吉見峠9:40 50 地蔵山10:45 11 00 澗谷を経て竜ヶ岳12:20(昼食) 13:00 愛宕三山13:40 愛宕神社14:00 15 清滝15:50(解散) 澗谷を登頂したことでタイムリクな好山行になった。(参加者) 中村啓一 水本加津栄 立川郁夫 藤田光彦 久世美紗子 西 寛子 岡松義雄 伊藤るにる

大江山運峰縦走 9月20日祝 晴れ J R六甲駅集合8:05 20(バス) 越前の庄瀬10:55 大江山11:55(昼食) 鳩ヶ峰13:03 熊塚13:43 グリーンロッジ15:00(入浴) 16:00(バス) 六甲駅18:30(解散) よい天気にもまれ、運峰山・頭中山も順足に見えた。グリーンロッジでは雨雲上がりのビルドで山の喜びを堪能した。(参加者) 西田 昇 岡田恵美子 中尾博子 石田豊美 砂原恵美子 森 嗣代 右馬海美 高田 實 立川郁夫 眞田久子 菅野智雅子 横川常雄 横田昌雄 宮本幸幸 宮本博子 妹屋正二 妹屋公代 大村啓司 原 文子 小田朝子 今津吉司 松本康敏 小林慶子 岩田哲士 美村三枝 石田賢二 堀 久子 船越利明 船越るよ子 多賀野一 多賀久子 安田文美江 中村啓一 品田亮子 翠田美奈子 木村啓一 白根清子 八木八重子 辻 行子 本落孟夫 吉原 清 ◎井上 保 (計42名)

い絶景に息を飲む。さすが百名山の景観を十分に堪能した。(参加者) 大村光江 山本千鶴子 若松 寛 若松陽子 東 美智子 木村相恵 武部 剛 武部美美子 奥村清一 大東義隆 北川田朝子 熊木秀雄 藤 幸子 田中まや子 三浦弘幸 神 伸 井林寿子 野口 修 永井哲男 山盛加奈子 芝野泰明 奥田貞雄 中井ひろみ 美村幸治 横井陽子 山崎多恵子 ○山崎義治 ◎美智子(計25名)

奥秩父・瑞穂山 9月19日(土) 20日(日) 1泊2日 (19日) 晴れ J R大津駅集合9:00(バス) 瑞穂山荘16:00(泊) (20日) 晴れ 瑞穂山荘6:30 富士見小屋7:20 30 大馬川7:55 瑞穂山9:30 10 00 天馬川11:10 20 瑞穂山荘12:20(バス) 瑞穂山荘13:00(入浴) 昼食 14:20(バス) 大津駅18:50(解散) 二ヶ月ぶりの上天気といわれ、頂上は360度の大パノラマ。間近に小江山・金峰山、南に秀麗な富士、北岳・間ノ岳・鹿島岳、鳳凰三山・甲斐駒、中央アルプス、八ヶ岳、後立山連峰、頸城の山々、手前に浅間山と牧草にいとまのな

予想外の悪天候にもめげず、風雨のなかを縦走。伊吹山は厚いガスに包まれ、最後まで全く山容を見えなかったものの、咲き誇る花に励まされ、ツバクロ壁周辺では目的の花にも出会えて心温かくなりました。開花していた草木は72

種でした。

(参加者) 緒方由子 木村カツミ 金森節子 鈴木信忠 田中かづ子 田中 明 田中徳子 深坂 寛 深坂昌子 本間 隆 木間孝子 森 嗣代 山縣勝美 宮村孝次郎 山本孝子 山田朝代 ○森川信之 ◎篠見守康 (計18名)

伊勢・朝熊ヶ岳 9月20日祝 曇り時々雨 近鉄朝熊駅集合10:00 05 登山口10:15 朝熊峠11:30 金剛寺12:00(昼食) 12:30 朝熊ヶ岳山頂13:00 朝熊峠13:10 1 等三角点13:20 15 30 近鉄五十鈴川駅15:15(解散) 雲の流れが早く霧が樹林のなかを流れてゆく様子は、神宮の山という意識で見ているせいか、神秘的であると思っていた。どしゃぶりの雨になった。閑散とした金剛寺、クモの巣だらけの庭道、内宮から駅まで行儀の続く参道をのんびりと歩いた。(参加者) 兵比恰美 藤田光彦 酒野良一 眞田明子 竹内昌久子 占部清賢 飯田夢子 飯田由孝子 森 嗣代 酒野勝美 中尾美智子 森本真智子 ○小山辰香(計18名)

9月20日祝 曇り時々雨 国道477号線・大納言合点広場集合8:30 35(バス) 武平峠8:50 沢谷峠9:30 10 14 以原流10:40 東野之口11:40 雨乞岳12:00(昼食) 12:35 南雨乞岳12:50 19 6 13 30 大納言合点広場16:25(解散) 鈴鹿は雨が降りガスにおおわれていたのにもかかわらず、全員が集合され一同感動。深い樹林の屋根はガスで浮腫くしとりとして幽玄の世界。山頂部の深いササやぶ、厚花が波打つ屋根から大納言へ。時々雨が降るなかを楽しく歩いた。(参加者) 池田登美 池田繁美 山田善三 古本幸之 大石裕美 高杉 博 細野敏也 落合ひろ子 鈴木 麻 神野孝允 的場たか子 谷 守 西田和幸 西内正弘 榎田勝利 小田妙子 藤田千三郎 榎田隆枝 磯部 純 武村三郎 信田信広 橋 孝子 橋 みちる 永戸鉄治 高原孝彦 岡本美子子 三井誠一 八田清司 石田真由美 和田四郎 小林 実 小村 隆 ○山本久雄 ◎菅野 名(計25名)

大江山運峰縦走 9月20日祝 晴れ J R六甲駅集合8:05 20(バス) 越前の庄瀬10:55 大江山11:55(昼食) 鳩ヶ峰13:03 熊塚13:43 グリーンロッジ15:00(入浴) 16:00(バス) 六甲駅18:30(解散) よい天気にもまれ、運峰山・頭中山も順足に見えた。グリーンロッジでは雨雲上がりのビルドで山の喜びを堪能した。(参加者) 西田 昇 岡田恵美子 中尾博子 石田豊美 砂原恵美子 森 嗣代 右馬海美 高田 實 立川郁夫 眞田久子 菅野智雅子 横川常雄 横田昌雄 宮本幸幸 宮本博子 妹屋正二 妹屋公代 大村啓司 原 文子 小田朝子 今津吉司 松本康敏 小林慶子 岩田哲士 美村三枝 石田賢二 堀 久子 船越利明 船越るよ子 多賀野一 多賀久子 安田文美江 中村啓一 品田亮子 翠田美奈子 木村啓一 白根清子 八木八重子 辻 行子 本落孟夫 吉原 清 ◎井上 保 (計42名)

9月22日祝 ◎今市光男 比翼・小女峰ヶ池

倉屋橋近のため中止しました。

鈴鹿・結向山から雨ヶ岳 (初秋のスキス原に遊ぶ) 9月26日(日) 曇り一時雨 (下山口ゲートへ配車往復後) かもしか荘集合7:40(バス) 奥の平8:40 結向山9:30 50 1 1 40 イガイ平(寄り道) 大峰11:30(昼食) 12:20 清水ノ頭13:30 50 1 南雨乞岳14:30 40 1 稲ヶ谷 1 坂谷 1 下山口ゲート16:30(車) かもしか荘17:00(解散) 結向山の巨岩をくぐる時、鈴鹿の峰々は雲のシースルー羽衣をまとってわれ等を照く。一時の雨もスキスの高原では我々全開となる。隣室に飲者たちの気遣いにももの思いながら下山した。(参加者) 高杉 博 大石裕美 堀越武敏 河辺哲男 小山妙子 今岡民代 高原孝彦 伊藤昌久男 寺井恒夫 永戸鉄治 中西信行 ○木村啓一 ◎藤井孝治(計18名)

9月26日(日) 曇り J R大津駅集合9:00 15 林道登山口9:45 旧地之木峠10:25 1 階段11:30 1 稲ヶ岳12:15

(昼食) 12・55―落合14・00―工
芸の郷14・10―林道―登山口15・
30―加木駅16・00(解散)

台座の影を登山道の至る
所倒木が道を塞ぎ、行く手を遮る。
一般、道が崩壊。ちよっとしたス
リム、汗みどろ、やぶごきの連続。
にわか崩の頂上で待つとガスが切
れ、北の入り道へ丘・嶺々岳、南の
経ヶ峰、錫杖湖も姿を見せる。蒸
合へ下山したが、1時間40分の林
道歩きが待っていた。

(参加者) 木村正忠 木村千代子
荒井寛子 高岡信男 中尾博子
城月満幸 西村正春 岡本美千子
上坂延枝 ○新町幸夫
◎尾崎英五 (計11名)

リトル比叡
(平日ふれあいハイイク10)
9月29日(日) うす曇り一時晴れ
J.R.京都駅集合8・17(電車) 近
江高岡駅8・54(バス) 10―直羽大
炊神社9・30―35―白坂10・05―
15―岳山11・00―10―鳥越峠12・
05(昼食) 12・50―岩間沙利山13・
30―40―鶴川越14・00―湍山分岐
14・30―45―寒風峠15・10―20―
涼峠15・50―55―北小松駅17・00
(解散)

涼しい風に恵まれ、長いコース
をゆっくりと歩きました。全体に
林のなかで音晴らしいのないコース
ですが、所どころで琵琶湖や武家
ヶ岳から琵琶ヶ峰までが見渡せま
した。

(参加者) 立川郁夫 木下順子
宮内節子 別田 京 森 昭代
桂尾一正 藤尾公代 岸本美
川端敏子 南 寛子 中尾博子
岡松義雄 中村英雄 松下和子
川原勝恵 大島光雄 久世美妙子
前田政雄 竹島洋郎 大橋完治
下西 昶 吉田誠宏 辻 嘉一郎
若木修二 寺本幸男 吉田ソノ子
血原尚男 血原智子 岡山繁三
平 幸子 木村太郎 水谷美也子
秋田美穂 菅生幸子 木下成二郎
鈴木康信 白井寛子 ○星野止弘
◎川上久登 (計10名)

北山・棧敷ヶ岳から天眞山
(平日太陽ハイイク4)
10月1日(日) ◎前中 曇
雨天のため中止しました。
平成之大鹿鹿門陣の逢つ
香山とおしき山
10月3日(日) 1泊2日
<3日山 晴れ> J.R.京都駅集合

J.R.野洲駅集合9・45(バス)
山出前10・10―上天保蔵民館10・25
―三上山11・15(昼食) 12・00―
こかげの丸12・55―古代峠13・
10―妙光寺山13・55―妙光寺山崩
保伝14・25―福林寺跡伝14・55
―野洲駅15・20(解散)

曹雲をバックにすくくと立つ円
錐形の美しい三上山に登り、琵琶
湖や比叡の山影を見て歩いた。
晴れもやさしい姿で迎えてくれ
た。秋空の下、さわやかな一日を
過ごした。*三上山は「まっただけ
山」のため、この時季入山料500
円が必要だ。

(参加者) 楠本友彦 光山二重子
深沢 寛 北川良子 前田孝子
吉井純子 高岡信男 高月ミチヨ
中村英雄 前田政雄 中村恵美子
布原芳美 多賀公子 前野東彦
川上久登 榎井和子 榎井智之
芝野泰明 近藤 恭 清水昭三
真田明子 立川郁夫 堀 久子
杉野英代 原川智子 吉岡義枝
岡田幸夫 石田孝子 井林友香子
白根智子 林 陽子 辻 行子
岡 彰 武部 剛 武部美奈子
大越清栄 石沢晴子 竹内久子
深沢智子 新家隆義 奥 美穂子
菅生幸子 国松義雄 小野しげ子

森 昭代 山本京子 中尾美穂子
田中幸子 廣瀬新行 野々山明美
富川幸夫 川北夏彦子
○加藤元彦 ◎小出良春(計10名)
東海自然歩道を歩く(第8回)
比叡山から三井寺
(地図読み山行30)

10月4日(日) 晴れ
京都阪本駅集合9・00―26―ケ
ブル山麓駅9・50―廣川中葉分岐
10・20―35―根本山笠11・24―大
大北越12・02(昼食) 13・06―根
木山笠13・41―弁天堂14・18―枝
茶屋跡14・58―15・05―ドライブ
ウ、イ15・20―理谷不動16・38―
飯田一乗寺駅17・05(解散)
東海自然歩道修弁天堂―三井寺
間で山崩れがあり、通行止めの特
示が出ていました。危険を避けて
弁天堂からコースを迂回して理谷
不動へくだりましたが、地震後み
のレックスは予定通り実施しまし
た。

(参加者) 岡野友子 名倉マサ子
名倉重信 山元 武 岡本いづ子
小川明美 松山浩三 加藤信彦
下村晴子 白根智子 田中まゆ子
松本 博 菅見正行 中山智栄子
甲木節子 森田 稔 鹿原きよみ

9・30(バス) 西内内11・35―空
山12・40(昼食) 13・10―三宅高
原野外活動センター15・50(泊)
<4日山 晴れ> 野外活動センター
8・30(バス) なめらの行者8・
50―林道終点9・30―おしき山
10・50―後山11・40(昼食) 12・
10―行者の滝13・10―なめらの行
者14・10―松の木橋14・50―15・
10(バス) 飯田駅17・00(解散)
雨男のリゾーであったが、今
回は一日雨晴れ。不似合な石柱
だがこの地に建てたことに敬意。
野外活動センターでは夕食を全員
で準備し、松茸入りの「スキ焼」
を腹一杯いただく。少しハードな
コースもあったが全員無事下山
帰路につく。

(参加者) 飯田 昇 阪上義次
秋田福師 兼田幸子 井上 保
石田賢治 中村勝香 山田朝子
美村孝治 山本武臣 山本令子
尾上大輔 野口 修 野口志津子
三宅 明 本藤美天 西内美一
今村 真 金田康宏 全田下恵子
今津吉司 青木俊次
◎須藤岡 崎 (計10名)
御池活・奥の平・彌陀の窟
(鈴鹿を歩く5)

八ヶ岳・碓氷岳から天狗峰
10月9日(日) 雨後11日(日)
2泊3日(車中泊)
(9日) 晴れ 京都駅八条西口
21・30集合(バス 美濃戸)―
<10日山 晴れ> (バス 美濃戸)
15・00―美濃戸5・50(朝食)
6・45―園沢コース行者小原9・
10―25―赤岳温泉9・50―10・10
―赤岩の洞11・45(昼食) 12・30
―飯田岳12・50―13・15―飯田駅
13・50―14・10―オーレン小原14・
30(泊)

(参加者) オレン小原5・
50―碓氷岳5・45―7・10―東大
狗塚7・40―8・00―天狗の奥池
9・00―四日合トロッコ9・30―
50―奥野線終点の洞11・40(入浴・
昼食) 13・30(バス 京都駅20・
00(解散)
二日間共晴れ大に恵まれ、北アル
プスなどを展望しながら歩いた。
ナナカマドの紅葉がきれいだった。

御池林道と小文谷分岐場集合8・
30(バス) 御池林道駅8・50
―87―8149・55―8181410・
35―プナ権現11・00―東池口・40
の池12・55―東のギタンブチ13・
30―土谷田14・40―小文谷林道16
・10―分岐広場16・40(解散)
さわやかな秋晴れのなか、丁字
尾根に取りつきプナ権現から南峰
に登ると、秘境的な平が眼下に明
るく広がり、雄大な鈴鹿の景観が
圧倒できた。神秘的な奥の池と高
度感あふれる東のギタンブチから
の眺望を楽しんだ。今回の台風で
其の谷はかなり荒れているという
情報が入り、彌陀の窟はカットし
て下山した。

(参加者) 池田孝彦 池田繁美
山田景二 大石博美 中澤明司博
小林 稔 三上伸夫 武村千鶴
三井敏一 神野孝夫 落合ひろ子
城月満幸 磯部 純 馬場彌生子
高杉 博 谷 守 的場たか子
水戸鉄治 八田浩司 ○山本久雄
◎若野 明 (計11名)
東東・三上山から妙光寺山
10月4日(日) 晴れ

た。
(参加者) 鎌方貞子 若松朝子
栗生 哲 占徳信廣 木島清子
森 昭代 藤本紀子 高木忠夫
渡辺達郎 斎藤敏子 田中重雄
木村光江 武村千鶴 宮本良幸
宮本悦子 奥北裕美 安田文美江
沖 伸 上田正子 秋田福師
美村孝治 美村三枝 森 美香子
田和郁代 浜崎弘子 山藤豊美
高橋義治 安田礼雄 岩崎智子
中川光郎 木村太郎 安部正勝
大村俊子 吉屋 清 山盛加奈子
寺田久広 木村正弘 木村千代子
北野靖士 吉田智士 中井ひろみ
前田精一 堀 久子 木原恵美子
○菅野東彦 ◎村田義枝(計10名)

比叡・空遊橋(週末ハイイク10)
10月17日(日) ◎新野東彦
台風接近のため中止しました。
高尾山・ザラノ
(鈴鹿を歩く58)
10月18日(日) 曇り
河内県公土町寺院広場集合8・30

10月17日(日) 曇り
河内県公土町寺院広場集合8・30

く40(地)アサハギ谷広場9・00
1段山9・20(食)777・11・25
高山山12・00(食)12・35(サ
ラ)13・30(林)樹林15・00
鉄塔15・20アサハギ谷広場16・
00(解散)

昨夜の台風で丹川と権現谷は地
水して濁流が轟音を響かせていた。
遊覧路から堤根にのぼると一変し強
烈なやぶがこぼれ出る。高尾山は風
が強く、ガスと混濁におおわれて
いたが、一時的には眺望も開けた。
サラノを通きるとゆっったりと広がる
秘境的な台地。恍惚の樹林が続き
忘れられない山行となった。

〔参加者〕池田彦彦 池田繁美
吉本泰之 小林 裕 藤合ひろ子
貝村十郎 谷 守 谷 久雄
河辺板男 西田和幸 的場たか子
城戸昌幸 石田真由美
◎近野 明 (計14名)

晴麗・不動明王廟と仙々寺
(山の幸と湯橋峠に遊ぶ)
10月18日(日) 晴れ
石水望聖社前駐車場7・30(車)
船水谷山台8・00 鬼ヶ牙9・00
20ノ石谷菅林小屋10・30
風の尾根11・30(食)12・30
仙ノ石14・00ノ石谷ノ石谷ノ木

船野乗越15・10ノ石谷川宮林
小屋ノ石水谷キャブ場17・00
築山前17・30(解散)
台風は足早に去って天気回復。
時期の都合でコースは鬼ヶ牙を越
え、く、地水の谷渡り、霧岩と
鈴原に次かれた高尾山の岩肌には
は山の幸が育んでいた。

〔参加者〕池田彦一 森 晴代
永戸純治 時高良雄 小田妙子
今岡民代 伊藤繁久男
◎木村吉秀 ◎岡井克治(計17名)

北山・雲取山
(京都北山歩き73)
10月20日(日) 曇り
出町柳駅集合7・45(バス)
花背高原9・10ノ寺山峠ノ雲取
峠10・30ノ雲取山10・50ノ谷
ノ勢登寺小庭院12・03(食)1
聖徳皇御口駅14・45(解散)

〔参加者〕宮内節子 水木加登栄
川原隆雄 松山みつ 久世美紗子
桂尾一正 妹尾公代 光川一美子
北原信枝 辻 富子 大光光雄

前田政隆 川上久登 松本いつ子
中村 保 速水 保 市野博文
◎中西光男 (計12名)

10月22日(日) 晴れ
JR安藝川駅集合9・00(バス)
三生地蔵峠16・50ノ山ノ00
長谷谷作新11・15ノ八上山12
05ノ森峠12・45(食)13・35
ブナノ木峠14・40ノ15・00ノケヤ
本坂ノ池ノ谷峠ノ森谷谷作新16
10ノ25ノ地蔵峠16・45ノバス
車中解散 安藝川駅

〔参加者〕池田彦一 中村佐代子
小杉 治 藤田明子 土井 茂
吉藤孝次 木下恵子 野助超夫
津井洋子 田中 明 宮坂敏彦
小嶋和子 石原君子 木村千代子
高岡君子 中川光郎 来田登喜子
新家啓義 芝野泰朝 松元勇二郎
伊藤瑛子 安良郷子 久山美紗子
秋田健郎 藤本三郎 伊藤ひろる
入江武史 飯田愛子 水見真穂子

10月23日(日) 晴れ
近江奈良駅集合8・30(バス) 春
日神社交差道8・45ノ9・00ノ朝
日野宮10・00ノ首切地蔵10・15ノ
25ノ地蔵石燈籠10・35ノ石切峠
11・10ノ山ノ1・40ノ三浦丸12
05ノ時の神社12・25(食)13
10ノ内蔵寺14・40(解散)後寺の
庭園散策15・46(バス)奈良散
台風で倒木があったが、最低限
の整備がされていて、大きな障害
もなく進行可能であった。一日の
んびりと歴史街道の散歩でした。

〔参加者〕立川郁夫 東 義智子
大平敦子 関野穂子 奥島百合子
藤田恵子 大橋隆雄 中村サヨ子
山本京子 前田政隆 高松雅子
若生幸子 中田茂子 小野裕子
芝野泰朝 高木 晋 眞田久子
宮崎敏雄 柳井和子 千春千代子
川上久登 辻 行子 久世美紗子
白岡恵子 川原隆雄 矢合ひろ
石田美英 古川裕子 若本いつ子
西原茂子 秋田健郎 藤本いつ子
田中俊枝 藤井洋子 砂原美幸子

森 晴代 小西雅雄 光川一美子
坂本道子 川端敏子 砂原美幸子
南 寛子 三宅 明 若本いつ子
原 幸子 柳中梅子 古川裕子
川原隆雄 重高敏子 前田政隆
◎水野隆一 ◎前中 敏(計12名)

救護・夕暮山から若草山
10月24日(日) 晴れ
JR京都駅集合8・45ノ9・00
(タクシー) 丹波川登山口9・35
1600ノ尾根11・05ノ15ノ夕暮
山11・40ノ若草山12・00ノインテ
アン平原12・10(食)12・45
夕暮山分岐13・20ノ林道14・40
ノ新定田駅15・20(解散)

〔参加者〕藤田 昇 砂原美幸子
木村光江 若松和子 山本千鶴子
中西 昭 中西和子 森川信之
原 文字 今津吉司 野野東幸
岩城孝子 宮本真幸 見城昌甫

南九州の山・霧島連山と朝霧岳
10月30日(日) 11月3日(日)
4泊5日(船中2泊)
〔30日〕 曇りのち雨 大阪港港
かもめフェリーのりば集合18
30ノ19・30発(フェリー)泊
〔31日(中) 晴れ〕(フェリー)宮
崎港8・10(バス)霧島連山
10・00ノ25(バス)霧島連山
55ノ11・35ノ馬ノ背11・50ノ高千
穂峠12・20(食)13・20ノ馬ノ
背13・50高千穂河原14・40ノ15
30(バス)えびの高原ホテル15
50(泊)

〔1日(日) 晴れ〕えびの高原ホテ
ル7・50ノ霧島山8・10ノ25ノ霧
島9・35ノ50ノ霧島池10・30ノ
40ノ霧島山11・15ノ20ノ新穂岳
11・45(食)12・30ノ中岳13
10ノ20ノ高千穂河原14・05ノ20
(バス)国民宿舎かいもん荘17
10(泊)
〔2日(日) 曇り〕かいもん荘7
45(バス)朝霧山登山口7・55ノ
8・00ノ五木山8・50ノ七合山9
20ノ霧島山15・30ノ登山口12

加藤元彦 三井敏一 中村静香
栗岡孝子 深坂 寛 深坂昌子
浅田俊男 武部 剛 武部美幸子
菅生幸子 築山信夫 河内恵美子
高岡勇男 柳野敏也 光川一美子
中尾和子 ◎栗岡孝子(計31名)

美濃・月山
(自然観察山行17)
10月25日(日) 晴れ
大田駅集合8・40(バス)長者の
里キャンプ場9・40ノ10・00ノ月
月山東尾根12・00ノ月山12・30
(食)14・00ノあらいの森公
園15・00ノ15(バス)大田駅16
30(解散)

秋晴れの下、清冽な谷川を何度
も渡り返して遊歩道までつめ、登
りきった山頂は360度の大展望
台。ゆっくりにとした景色と美濃の
山々の景観に満足した一日でし
た。

〔参加者〕近江美子 緒乃由子
川原隆雄 土屋孝次 砂原美幸子
武部千鶴 田中 明 田中恵子
中尾和子 深坂昌子 三宅伸夫
三井敏一 森川信之 宮村孝次郎
由田健代 森本真智子
◎加藤元彦 ◎栗岡孝子(計31名)

北山・ハケ峠
(京都北山歩き14)
10月25日(日) 晴れ
JR京都駅八条西口集合7・30ノ
45(バス)八原10・00ノ05ノ知井
坂11・30ノハケ峠11・50ノ南根
広場12・00(食)13・00ノ五段
峠13・50ノ14・10ノ田敷15・10ノ
40(バス)京都駅19・40(解散)

〔参加者〕中村英雄 岡本いく子
横井 徹 横井裕子 田中善雄
野助超夫 安良郷子 田中善雄
北山明子 北川直惟 田中善雄子
中川博史 伊藤瑛子 高橋隆治
三橋文文 岩田青士 小林 裕
秋田健郎 堀 久子 中尾美智子
三橋由紀 河合正彦 河合登喜子
小島隆光 高木 晋 藤原まよ
原 隆陽 國松義雄 尾野正弘
重高敏子 増田國宏 福田繁子
森田三博 三田久子 小尾未吉
前田栄三 上井謙夫 藤井洋子
白岡恵子 辻 行子 藤原美希
福合昌子 奥山健三 前田政隆

奈良・芳山
◎中西信行 (計17名)

10月28日(日) 晴れ
近江奈良駅集合8・30(バス) 春
日神社交差道8・45ノ9・00ノ朝
日野宮10・00ノ首切地蔵10・15ノ
25ノ地蔵石燈籠10・35ノ石切峠
11・10ノ山ノ1・40ノ三浦丸12
05ノ時の神社12・25(食)13
10ノ内蔵寺14・40(解散)後寺の
庭園散策15・46(バス)奈良散
台風で倒木があったが、最低限
の整備がされていて、大きな障害
もなく進行可能であった。一日の
んびりと歴史街道の散歩でした。

〔参加者〕立川郁夫 東 義智子
大平敦子 関野穂子 奥島百合子
藤田恵子 大橋隆雄 中村サヨ子
山本京子 前田政隆 高松雅子
若生幸子 中田茂子 小野裕子
芝野泰朝 高木 晋 眞田久子
宮崎敏雄 柳井和子 千春千代子
川上久登 辻 行子 久世美紗子
白岡恵子 川原隆雄 矢合ひろ
石田美英 古川裕子 若本いつ子
西原茂子 秋田健郎 藤本いつ子
田中俊枝 藤井洋子 砂原美幸子

隣 藤子 上坂延枝 水村太郎
野野博文 兼田幸子 ◎青木一雄
◎藤原深次男 (計12名)

30 (バス) かいもん君12・35 (入浴・温泉) 13・40 (バス) 宮崎港 17・30 (バス) 19・10 (バス) (フューリー泊) (3日間) 晴れ (フューリー) 大坂南港7・30 (解散)

連日好天に恵まれ、赤ガレの急坂を登り天の逆光がシボルボルの高千穂麓に立った。翌日はニメラルドクワーン、周回の火口湖や高千穂麓、徳田川、周回の紅葉がすばらしい新燃岳の火口湖に立ち、最後の開閉湯も湯がからから池田湖・長崎泉・太平洋・枕崎港などをながらせた。

(参加者) 岡田 昇 岡田恵美子 三井 統一 竹田利夫 山本千穂子 森野 勉子 藤 憲子 湯浅次男 宮本真幸 兼田幸子 瓜取利明 森川信三 中村健吾 竹内文久子 上田正子 安田文美江 小田剛子 森 賢代 川上香代子 南 利憲 南 綾子 豊田真理子 吉越 浩 眞田久子 佐藤新一 佐藤妙子 船越利明 船越みよ子 奈良邦子 前田幸子 奥井益生 小川晴美 前田幸子 青木一雄 廣東 邦 長尾隆子 青木一雄 吉本泰之 和田四郎 吉本美保子 北川史枝 石田真由美

○加藤元彦 ○狩野真彦(計18名)

美濃・伊吹北原線
(伊吹北原根尾自然観察ハイキング2)
10月31日(土) 曇りのち晴れ
大垣駅集合8・40 (バス) 国見峠 9・50 (バス) 10・00 現勢10・50 国見峠H・05 大丸山H・45 (昼食) 12・30 御峰13・00 P1 149M 14・15 御峰13・00 P1 公園16・00 (バス) 大垣駅17・25 (解散)

北原根の天気はいつも予期より悪い。しかし、後半部では逆光に大きなシルエットを描く伊吹山を仰ぎ、ふり返れば国見峠から続く稜線のうねりがすばらしい。樹木の香りを味わい、尿根から谷に走る自然林の紅葉を眺め、再びの下りでは、晩秋の花を愛でて、なごやかに歩きました。

(参加者) 池田繁美 岩城豊子 河原良高 鈴木信彦 森野智雅子 田中 明 中村登一 橋本香代子 藤井洋子 深坂昌子 原嶋彌栄子 藤田明子 本間 隆 森本眞直子 若松 寛 若松朝子 (計18名)

○警見守康
北山・大屋山から伊香立峠
(京都北山歩き75)
10月31日(土) 晴れ

出町畑駅集合9・00 (バス) 大原バスターミナル9・40 (バス) 三千院10・05 (バス) 首無の油10・30 (バス) 11・45 (バス) 鉄塔広場12・00 (バス) 13・45 (バス) 伊香立峠14・20 (バス) 古知谷15・10 (バス) 03 (バス) 出町畑16・40 (解散)

大原山や鉄塔広場からの展望を楽しみ、遊覧路から分かれると、踏み跡程度の隠れ道となり、それをたどって、最後はやぶこぎで脱走した伊香立道の峠に立った。大原山への一般登路は谷の奥で杉の倒木が塞いでいたので手前の尾根道を通った。

(参加者) 柳川常雄 岡野衣子 新築敏彦 森 賢代 野々山朝美 田中幸子 西松義雄 小野しげ子 山元 武 山坊裕子 馬場志男 山本 敏子 太慈清美 名賀マサ子 前田政雄 中村英雄 奥村裕一 石原 誠 石原君子 澤井幸子 山岸隆夫 安原美子 澤野勉子 土井隆夫 大橋完治 武部美恵子 宮下陽子 南 寛子 山崎多恵子 占部信廣 秋田謙輔 辻 行子 白根朝子 吉川武司 森田紀美代 中民博子 細井和子 水谷美也子 浦上 明 杉村安代 井川美奈子 竹田美英 平 幸子 宮川孝次郎

市野博文 上田直子 中上紀代子 武田元司 ○呉比呂美 ○川上久登 ○杉田智彦(計15名)

ヨシミウオーキングの会
○本格的登山の会ではありません。四季を愛でながらのんびりと単山・低山を歩き、史跡を訪ねる会です。
○主にウエークライに遊びます。
○少人数・年輪制限無し。基本的に5時間くらいかけたら大丈夫です。
○運が良いと歴史専門家が参加される山行もあります。
(参加費) 無料。ただし約300円の保険に入ってください。
(例年予定) ヨシミの店頭、店内、レジ付近に予定が貼り出されています。電話での問い合わせもOKです。
(申し込み) 住所・電話番号・名前・年齢を、電話または店頭で直接申し込んでください。
(天王寺) ヨシミススポーツ 06 772 7231

新ハイキングクラブ関西
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(毎月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。
この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、情報豊かで健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に48年間も好評のうちに活動してきました。関西は平成3年発足で3年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。
会費は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいましょう。
リーダー(係)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い乗代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。
会員には番号「新ハイキング関西の山」をお送りします。
四季の自然に相れながら歩き、

若々しい心と健康をいっしょに維持するのは素晴らしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。
入会金 500円(バッジ代)
年会費 3000円(送料別)
入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずに記入してください。
なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけます。毎号確実にお手元に届きますので便利です。
切手500円分を送り付ければ、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊さしあげます。
山行リーダー募集
リーダーは2ヶ月に1回程の山行例会を計画・実施していただきます。
無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアルリーダー「必修」を送ります。

○新入会員紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。
会員番号3809番から3859番まで
- 【埼玉】 岩井あみ子
 - 【埼玉】 秋場俊司
 - 【愛知】 警見 整 近田智子
 - 【三重】 山口裕司 的場たか子 崎 三優子
 - 【滋賀】 河村朋英 川北恵美子 木村朝子 河村千恵子 野々山 寛
 - 【京都】 心尾木古 小嶋陽子 早野敏子 岐島啓子 信田信広 合田扶美子
 - 【大阪】 森和初子 尾立眞良 和田敏枝 寺西信一 寺西廣美 松村雅男 墨河内城洋樹
 - 【兵庫】 大木直子 堀尻俊男 大野寛子 萩 勇 吉原保雄 村岡伸子 幸田正栄 幸田美恵子 保田 正 斎藤 裕 斎藤明子 西原俊雄 松村裕子
 - 【兵庫】 中村敦子 東田女子 林 武彦 下司幸平 飯田昌子 森本 新 森本直子 吉辺真一 渡辺秀三 辻明子 山本 隆 足立善孝
 - 【奈良】 足立善孝

訂正とお詫言

43号(晩秋) 33ページ下段1行目「一家出の広瀬勇八その他」は「広瀬勇八」が正しい。
43号(晩秋) 37ページ中段6行目「ただしビッケル・アイゼンが必要で、途中には『ただし、編笠山で必要だと思っ持参してピッケル・アイゼンを荷物として持ちなかつ途中』」が正しい。
43号(晩秋) 42ページ12行目「フリクニアエドムマテ」は「フリクニアエドムマテ」が正しい。
43号(晩秋) 66ページ下段6行目「次次臣」のふりがな「ひまじ」だけ「は」ひまじだけ」が正しい。(編集室)

本誌のバックナンバー
大阪南田のハービッドスプラザ3Fの「トラベルキャブリー」・旅の本館「ハートス大阪店」に全号を寄贈しています。

皆さまの便利になりたい方へ
前もって書店に在庫は少ない「読者サービス」をさせていただきます。この書店でもお問い合わせいただけます。早数日の20日(土)「新ハイキング」の発売です。